

tinuance of the war, namely Japan. The German suggestions to Japan, which were renewed several times in the course of a few weeks, and which were transmitted to the Mikado's Government through the most varied diplomatic channels, ended in complete failure, although they were supported by promises advantageous to Japan. By means of his ties of family and friendship in Rome, Prince Bülow has tried similarly to interest the Pope in bringing about a settlement of the dispute with the United States, presenting to the Sovereign Pontiff that his spiritual power could fulfil the rôle of mediator only if supported by the material power of a neutral such as the United States. The very striking message addressed by the Vatican to Monsignor Bonzano, its natural representative in the United States, proves that the Holy See thought it advisable to act on these lines. President Wilson does not seem to have any intention of lending his support to this move.— Reuter.

1110 一月二十一日 在仏國松井大臣宛(電報)

石井外務大臣宛(電報)

標題六 列國ノ和平工作 1件

1111 一月二十七日 在英國井上在露國本野各大使宛
(電報)

伊國単獨講和ノ海軍側情報ニ鑑ミ伊國ノ現状
及同盟諸國ノ態度等查報方訓令ノ件

第四一号 英宛

第五五号 露宛

在伊(伊國ノハ貴地)山本大使館附海軍武官ヨリ伊國ノ由下軍資金ノ欠乏其ノ極ニ達シタル為他ノ同盟國ニシテ応分ノ供給ヲ為サザレハ単獨講和ヲ為スヤモ測リ難キ状態ニ在リ伊国外務大臣ハ「モンテネグロ」ニ於ケル外交失敗并單独不講和宣言ニ伊國ヲ加盟セシメタル責ヲ負ヒ辞表ヲ提出シタリトノコトナルガ其他諸種ノ事情ニ鑑ミ講和ハ何時意外ニ進捗スルヤモ測リ難キ旨一月二十二日軍令部ニ電報アリタル處伊國ノ現況ハ果シテ右ノ如クナルヤ并同盟諸國ノ之ニ対スル態度等ニ関シ當方参考トナルヘキ事柄アラハ詳細電報アリ度ン

○英宛ニハ「本大臣ノ訓令トシテ仏伊ノ転電アリタシ」

4 列國ノ和平工作一件 1111 1111 1111

独逸ノ対日講和提議ニ鑑スル田里新聞記事ノ付回報ノ件

第1011申

貴電第六八号ニ關シ五月十七日附機密第一七号摺信報告ノ通ト御承知アリタシ爾後注意シ居ルモ漏洩ノ経路判明ナラバ

社 前掲 11九文書

独逸ノ対日講和提議ニ鑑スル田里新聞記事ノ付回報ノ件

110

第四七号

二十七日当館晩餐ノ節外務大臣ノ内話ニ拠レハ同日本使ト

露国外相ニ声明ノ件

伊國単獨講和ハ有リ得ザル旨在露國伊國大使

1111 一月二十八日 在露國本野大臣宛(電報)

石井外務大臣宛(電報)

1111

六 列国ノ和平工作一件 一一四 一一五

一一一

会見後直チニ伊国大使ヲ招キ貴電第五五号ノ件ニ付キ質問シタル處同大使ハ伊国外務大臣ノ辞職ハ或ハ有リ得可キモ单独講和ハ断シテ有リ得可カラズト声明セリトノ事ナリ尚同夜仏国大使トモ伊国将来ノ態度ニ関シ意見ヲ交換シタルガ将来ノ態度ニ関シテハ聊カ疑惑ヲ有シ居ル様認メラレタリ露国外務大臣カ今日迄屢々洩ラシタル口氣ニ依リ察スルニ余リ安心シ居ル様ニ認メラレズ右御含迄

一一四 一月二十九日 在伊国林大使ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

伊国单独講和ハ現政府ノ存スル限り断ジテナ

カルベキ旨回電ノ件

第一五号

貴電在英大使宛第四一号ニ閲シ御承知ノ通当國政界ニハ態度曖昧ナル前首相「ジョリッヂ」ノ一派アリ又法王庁ニハ独奥地ノ勢力輕視スベカラザルモノアリ從テ過日黒山國ノ敗滅ノ如キ殊ニ伊国ニ取り利害ノ關係最深キ方面ニ於ケル失敗ニ際シ種々ノ風説ヲ生シ来ルコトハ免カレザルナリ本使ニ於テモ資金欠乏ノ風説外務大臣辞職ノ風説等聞カザリシニアラザルモ未ダ信ヲ置ク能ハザルナリ資金ニ関シテハ

一一五 一月三十日 在露國本野大使ヨリ
石井外務大臣宛（機密）

獨國ハ露国人ワシリチコワ嬢ヲシテ對露國單

公信第三号（機密） （二月十五日接受）
獨逸國ガ協商國間ニ對シ離間策ヲ施サント企テ居候事ハ兼テ御承知ノ事ニ有之候處其一手段トシテ協商側ノ或一國ト居ルコト疑ナシト思ハル

英仏大使ヘ転電セリ

单独平和ヲ締結セント欲シ現ニ帝國政府ニ對シテハ貴電第四五号ヲ以テ御來示ノ通リノ次第ニ有之又露國ニ對シテモ先般一種ノ運動ヲ試ミ遂ニ失敗ニ終リ候得共御参考迄左ニ其事實御報告ニ及ヒ候
旧臘独逸ハ永ラク維納ニ在リテ而カモ露國皇室女官ノ名譽称号ヲ有セル「ワシリチコワ」嬢ヲ露國ニ帰朝セシメテ嬢ニ独露单独平和談判締結ノ運動ヲナサシメタリ同嬢ノ帰朝ニ前後シ露獨両國間ニ单独平和運動行ハレツツアリトノ風説巷間ニ伝ヘラルニ至ルヤ下院予算委員会ニ於テハ昨年十二月二十二日外務省予算査定ニ際シ右風説ニ関シ委員ハ政府員ニ質問ヲナシ同日外務大臣「サザノフ」氏ハ之ニ対シ直チニ答弁ヲ与ヘ具体的ニ露獨両國間ニ单独平和談判中ナリトノ風説ヲ否定シタリ

「ワシリチコワ」嬢ガ独逸政府ノ密旨ヲ帶ビテ帰朝シタリトノ記事カ当地新聞ニ掲ゲラレシハ昨年十二月下旬ノ事トス同記事ニテ事實露國人中ニモ独逸トノ单独平和運動ヲ企ツル者アルコト世ニ明白トナリタルト同時ニ又巷間ニ於テ更ニ单独平和ニ関シ諸種ノ風説行ハルニ至ルヤ本年一月三日露國皇帝「グーラギー」勅章佩用ノ兵士一團ニ向ヒ朕ハ

過般電報セル通政府ハ現ニ公債ノ募集中ニアリ三月初ニアズンバ其ノ結果ヲ知ル能ハザルモ相応ニ好況ヲ呈シツツアルカ如シ過般來經濟上ノ狀態ニ閑シ小麦並石炭ノ欠乏ヲ補フニ方リ其ノ運賃ハ戰爭以前ニ比シ八倍若ハ十倍以上ニモ達シ伊国ノ苦痛殊ニ甚シク英國ニ對シ救助ヲ求ムルノ情頗ル切ナリ現ニ英仏側ト交渉中ナルヤニ察セラル外務大臣ノ辭職ノ風説ハ蓋シ單ニ風説ノミナリント思ハル单独講和ト云フガ如キハ現政府ノ存スル限断ジテ之ナカルベク英仏側ニ於テハ独奥地ノ困憊ヲ信ズルノ念近來益々深ク伊国トテモ涉々シキ軍事上ノ進捗ナキモ是亦独奥地ノ困憊ヲ期シ居ルコト疑ナシト思ハル

同地ニ住セリ「リヒテンスタイン」公家ハ奥地國名門ニシテ同國皇帝ト親戚關係アルヲ以テ公ハ「ワシリチコワ」嬢ト正式ニ結婚式ヲ挙グルニ至ラザリキ然ルニ嬢ハ近年維納ニ於テ匈牙利代議士「セチニー」伯ト親シキ關係ノ間柄トナリ露奥地國外交關係斷絶シテ歐洲大戰爭發生スルニ至リンニ拘ラズ帰朝スルコト無クシテ依然維納ニ滯在シタリ其後独逸及奥地兩國ニ於テ露國ト单独平和ヲ締結スルノ運動始マルニ至ルヤ奥地為政家ハ「ワシリチコワ」嬢ガ「ペトログラード」ニ於テ宮中及府中ニ交際広クシテ知己ヲ多ク有スルヲ機トシ嬢ヲ利用シテ露國ト单独平和締結ノ目的ヲ達スルコトニ決シ茲ニ於テ「セチニー」伯ハ嬢ト協議シ而モ同意ノ上媛ヲ柏林ニ伴ヒ來リテ独逸宰相「ベートマン・ホールヴェーヒ」及外務大臣「フォン・ヤコフ」両氏ニ紹介シ且又宰相ヲ經テ独逸皇帝ニ拝謁セシメタリ嬢ハ柏林ニ於テ独逸政府ノ當局者ヨリ方策ヲ授ケラレ且又特ニ独逸皇室ヨリ露國高貴ニ宛テラレタル御親書ヲ受ケ之ヲ携ヘテ露國ニ向ケ独逸ヲ出發シ途次「ストツクホルム」ニ於テ露仏兩国外交官ト面談ヲ試ミントシタルモ遂ニ其目的ヲ達スルヲ得シテ帰朝シ来レリ「ワシリチコワ」嬢ハ帰朝シテ单独平和言セリ云々

族諸國ニ向ツテ勢力ヲ有スルコトハ独逸ヲシテ露國ニ対シ決シテ敵愾心ヲ有セシムルモノニアザルナリ尤モ奥地國ハ有ラユル手段ヲ以テ露國ノ此勢力ヲ殺グコトヲ欲スベシト雖モ今ヤ奥地國ハ独逸ノ同意無シニハ何事ヲモ為シ得ザルナリ英ハ決シテ露國ノ友邦ニアラズ現ニ既ニ英人ハ「ダルダネルス」海峡占領ノ場合ニハ「ダルダネルス」ハ「マルモラ」海ニ於ケル第二ノ「ギブルタル」タルヘシト公言セリ云々

露国外務省ニ於テハ当初「ワントリチコワ」嬢ハ普通ノ所謂独探ニシテ單ニ此目的ノ為メニ帰朝シタルモノナリト做サレタルモ其後同嬢ト面談シタル人及同嬢ヨリ書面ヲ得タル人ノ話ニ依リテ同嬢ガ果シテ專ラ露獨單獨平和運動ノ為メ帰朝シタルコト明白ナリ是ヨリ先キ「ワシリチコワ」嬢カ帰朝シ来リテ「ペトログラード」市「アストリヤ」旅館ニ投宿スルヤ露國警察ハ嬢ノ拳動ニ注意シテ嬢ガ如何ナル人ト交際スルカラ監視シタリ警察ハ其後内務次官「ベレツキ」氏ノ命令ニ依リ家宅搜索ヲ行ヒ証拠書類ヲ得テ嬢ガ果シテ露獨單獨平和談判ノ地盤ヲ作ルタメニ帰朝シタルコトヲ確メタリ茲ニ於テ警察ハ嬢ヲ「ワシリチコワ」家所領地

運動ヲ開始スルニ先チ書面ヲ以テ自己ノ從兄タル下院議長「ロドヂャンコ」氏ニ帰朝ノ目的ヲ漏ラスト同時ニ单独和平談判開始ニ関シ助勢ヲ求メタリ「ロドヂャンコ」氏ハ此ノ書面ニ接スルヤ大ニ驚キ直ニ此事ヲ外務大臣「ザザノフ」氏ニ通知シテ警戒ヲ与ヘタリ「ワシリチコワ」嬢ハ「ペトログラード」ニ帰着当初最モ謹重ノ態度ヲ以テ单独和平運動ニ着手シ独逸ヨリ携ヘ來リシ御親書ハ間モ無ク之ヲ其ノ筋ニ伝達スルノ目的ヲ果シテ其後外務大臣「ザザノフ」氏ニ面会ヲ求メタルモ同大臣ハ予メ「ロドヂャンコ」氏ヨリ同嬢帰朝ノ目的ニ関シ注意ヲ受ケタルトコロアリシヲ以テ断然面会ヲ拒絶シタリ下院議長「ロドヂャンコ」氏モ亦嬢ヨリ面会ヲ求メラレタルモ嬢ハ其從兄タル同氏ニモ面会ヲ拒絶セラレタリ抑モ「ワシリチコワ」嬢ハ露英両國ヲ離間シテ両國ノ關係ヲ非ニスルヲ以テ自己ノ第一ノ任務トセルヲ以テ露國知名政治家ト逢ヒテ談ヲ交ユル毎ニ露英接近ノ不利ヲ述ヘテ露獨接近ノ利益ヲ説キ現ニ嬢カ或政治家ニ与ヘタル書面ニハ大要左ノ如ク書カレアリ曰ク
独逸ハ露國ヲ無力ニスルコトヲ欲セザルノミナラズ露國ガ強大ナルコトハ独逸ノ希望スル所ナリ露國ガ「スラヴ」民

所在地「ヘルソン」県ニ護送シ嬢ハ目下同地ニ住セリ如上「ワシリチコワ」嬢ハ下院議長「ロドヂャンコ」氏ノ從妹ニシテ而モ嬢ガ同氏ヲ經テ露獨單獨平和談判ノ地盤ヲ作ラントシタルコト世ニ明白トナルニ至ルヤ「ロドヂャンコ」氏ノ政敵等ハ之ヲロ実機會トシテ氏ヲ譏諷シ以テ氏モ亦裡面ニ於テ露獨單獨平和運動ヲ挙行スル党徒ノ一人ナリトシテ氏ヲ貶サントシタリ茲ニ於テ嬢ノ家兄タル「ペトログラード」郡貴族會長「ワシリチコワ」氏ハ之ヲ氣ノ毒ニ思ヒ「ロドヂャンコ」氏ニ書面ヲ以テ氏カ冤罪ヲ蒙リテ迷惑スヘキコトヲ悲ミテ氏ニ詫ブル所アリタリ同書面全文ハ其後諸新聞ニ公ケニセラレ世人ハ「ロドヂャンコ」氏ニ同情ヲ表セリ

右ハ新聞ノ記事ヲ綜合シタルモノニ候得共本官カ直接外務大臣ヨリ聞知シタル所ニ依レハ「ワシリチコワ」嬢ハ外務大臣ニ面会シ數種ノ書類ヲ皇帝陛下ニ伝奏センコトヲ求メタルニ付外務大臣ハ一応拒絶シタルモ強テ要求セルニ依リ右書類ハ之ヲ皇帝陛下ノ御手許迄差出シ勅裁ヲ仰ギタルニ陛下ニハ大ニ御忿激在ラセラレ同嬢ヲ再ヒ奥地國ヘ旅行センムルハ恰モ独奥地提議ニ耳ヲ傾ケタルカ如キ觀アルベキニ

付当分ノ中娘ニ其旅行ヲ禁止シ地方ニ在ル同娘ノ所有地内ニ娘ヲ蟄居セシムヘキ旨御下命アリタリトノコトニ有之而シテ此頃末ハ英仏両国政府ヘモ之ヲ告知シタル由ニ有之候右及具申候 敬具

一一六 二月一日 在英國井上大使（ヨリ）
石井外務大臣宛（電報）

伊国单独講和ノ情報ハ事実ト認メ難キ旨回電

ノ件

第三四号

貴電第四一号ニ関シ伊国ノ態度ニ付テハ近ク「グレー」氏 言明ノ次第モアリ（往電第二二号）又軍資金ノ点ニ付同國ノ窮乏果シテ斯クモ甚タシトセバ客年往電第四三一号密約ノ次第モアルニ付英國ニ於テ其儘ニ差置クコトモ無カルベク若シ夫レ外務大臣辞職云々ノ如キニ至リテハ当地ニテハ其風説スラモナシ御来示ノ情報ハ何分事實ニアラザル様認メラルモ念ノ為メ「タイムズ」主筆ノ所見ヲ徵シタルニ同人モ何等心当リノ消息スラナン之ニ反シ同人ノ見ル所ニテハ伊国輿論ノ趨向ハ近來益々協商國側トノsolidarityヲemphasize シツツアリ伊国ノ立場ハ自ラ英仏等ト同ジカ

捨テテ遺策シタル次第ナリ本件ニハ伊国皇室ハ勿論何人ノconnivance モナシト答ヘタリ
在仏伊大使ヘ郵報セリ

一一七 四月八日 在瑞典内田公使（ヨリ）
石井外務大臣宛（電報）

独逸帝国議会ニ於ケル各政党代表者ノ戰争目的及講和条件ニ關スル件

第三八号

（四月十一日接受）

四月六日独逸帝国議会ニ於テ往電第三七号宰相演説ノ後各政党代表者ハ平和問題其他ニ付大要左ノ如キ宣言ヲナセリ中央党議員 Spahn 吾人ハ未タ決勝ヲ得ルニ至ラス敵国ハ巴里會議ニ於テ我國ヲ亡サンコトヲ計リ英國ハ更ニ経済戦争ヲ開始セントスルモ我国内ノ状況ハ敵国ニ比シ遙ニ良好ニシテ軍需品及ヒ公債ハ国内ニテ調達スルヲ得タリ露國ノ危険ヲ減少スル方法ハ此際之ヲ擊破シ置クノ外ナシ独逸ニシテ露國ノ大軍ヲ擊退スル実力ヲ有スル間ハ露仏ハ再ヒ我國ヲ攻撃セザルヘシ戰後世界ノ大問題ハ専ラ英獨ノ関係ニシテ從テ米國トノ関係モ又重要ナリ米國政府及國民ハ事實上敵國ヲ帮助シ独逸ニ対シテハ文字通りニ法律上ノ権利ヲ

ラズトノ開戦当初ノ観念ハ殆ド跡ヲ取メタルモノノ如シ仏國首相ノ伊国訪問モ近ク実行サルベキガ其結果ハ益々伊国ト協商國側ノ提携ヲ密接ニスヘシト信ゼラレツツアリ此等ノ形勢ハ自ラ独逸側ノ煩悶スル所ナルヘキ上ニ尚目下彼等ノ不安ヲ促スベキ特殊ノ事情モアリ即チ伊国ハ甚タシク石炭窮乏ニ苦ミ而カモ船腹不足運賃騰貴ノ此際當國ヨリノ補給モ思ハシカラズ現ニ両国政府ノ間ニ腐心焦慮中ナルガ方此ノ場合宜シク伊国ノ各港ニ空シク碇繫中ノ独逸船舶（約十五万噸）ヲ沒收スベシトノ議アリ更ニ又独逸ハ瑞西ヲ經テ「ゼノア」方面ヨリ今尚ホ物資ヲ仰ギツツアリ之カ杜絶ハ独逸現下ノ苦痛ヲ一層大ナランムル次第ニ付旁々以テ伊国ニ於テ独逸側裏面ノ陰謀ハ此際特ニ活動ヲ加ヘ居ルベク從テ各種ノ流言反間モ行ハレ居ルコトナルベシト云ヘリ尚黒山國ノ件ニ付テハ「ステード」ハ奥地利カ多年黒山國トノ間ニ一種ノ subterranean touch ヲ有シ居ルコト並ニ黒山国王ハ蓋シ奥地利勢力ノ下ニ黒山國ト塞爾比國ノ一部ヲ併セタル新塞爾比王國ノ設立ヲ見越シ己レ之カ国王トナリ得ヘキノ希望ヲ以テ降服ノ途ニ出デタルモ奥地利ノ降服条件ヲ知ルニ及ヒ右希望ノ空想ニ属スルヲ見機敏ニ國ヲ

得ルニ至ラザルベカラズ

社会党多数派代表者 Ebert 宰相ノ宣言ニ依リ平和ノ望甚
タ尠キヲ知レリ十二月九日独逸帝国議会ニ於ケル平和討議
ハ敵國ノ反響ヲ喚起セザリンモ其後各国民カ和平ヲ希望セ
ルハ愈々明白トナレリ敵國カ我国ヲ殲滅スル企図ヲ罷メザ
ル限り我等ハ祖国ヲ防禦スベク彼等ハ我經濟的發達ヲモ阻
礙セントスルヲ以テ之ト戰フハ同時ニ我等労働者ノ利益防
衛ト一致ス然レドモ我等ハ領土併合ニハ全然反対シ宰相ガ
國ノ獨立ト安全ト經濟的發達ノ自由ヲ確保スル条件ノ下ニ
速カニ平和ヲ結バシコトヲ希望ス

進歩国民党代表者 Payer 平和条件ヲ示スニ際シ宰相ハ用
語ヲ慎ミタルモ真ノ態度ハ決シテ軟弱ニアラズ平和問題ハ
実力ト相手トニヨリ決スヘキモノナレバ宰相ガ条件ノ全部
ヲ明言セザリシハ勿論ナルガ重要問題ニ付テハ其態度ヲ明
カニシ誤解ヲ去リタリ我党ノ条件モ大体之ト一致ス元ヨリ
之ガ各項目ニハ修正ヲ求ムベキ点アルモ今之ヲ議スベキ時
ニアラズ独逸トシテハ敵國側カ平和ニ応ズルノ時機ヲ待ツ
ノ外ナク今回ノ宰相ノ宣言ニ依リ彼等ハ一層具体的ノ考慮
ヲナシ得ルニ至ルベシ勝利者ハ平和ヲ提供スルコト容易ナ

リトノ論ハ真ナルモ敵側カ之ヲ欲セザル間ハ軍事行動繼續
ノ外ナシ合衆國ノ政事的勢力ハ戰争ノ進ムト共ニ益々増大
シタリ吾人ハ同國民カ吾人ニ對シ公平ナルベキヲ疑ハズ真
ニ戰争ノ効果ヲ収メントセハ独逸ハ一層擴匈國トノ經濟上
政事上軍事上ノ關係ヲ密ニシ同時ニ土耳其勃牙利ヲモ之ニ
加入セシメザルベカラズ政府當局者カ此目的遂行ノ準備計
画ヲ援助シタルハ感謝ニ耐ヘズ右ノ条件ノ協定ハ遲クモ平
和談判進行中ニ結了セシメザルベカラズ

国民自由党代表者 Stresemann 吾人ハ宰相カ東亜國境ヲ
安全ニスヘシトノ言ニ贊同ス Baltic 地方ハ歴史上独逸ノ
一部ニシテ Flanders モ亦独立ノ生存ヲナサンメザルベカ
ラズ英仏ガ白耳義ニ於テ經濟上政事上軍事上ノ支配權ヲ收
ムルコトハ（脱）再ヒ之カ敵ノ手中ニ陥ルヲ防ギ且有効ニ
航海ノ自由ヲ主張スル為必要ナリ吾人ハ特ニ敵國ニ於ケル
独逸人ノ私有財產ノ保護ヲ要求セザルベカラズ又我經濟上
ノ發展ヲ期スル為メニハ再ヒ大殖民地ヲ獲得セザルベカラ
ズ独逸殖民地ノ回復ハ体面問題ニ止マラズ實益ノ問題ナリ
今後独逸ハ英國ニ対抗スル為メ新ナル經濟活動ノ基礎ヲ樹
立シ置ク必要アリ平和克復ノ際我工業ニ對シ原料買入ノ道

ヲ確保スルコト必要ナリ然ラズハ戰後我等ハ英仏ノ工業ニ
圧倒セラレ長ク回復スルノ時機ヲ失フヘシ独逸關稅同盟ハ
敵國ノ同種同盟ニ對スル有効ナル手段ナルモ彼ノ独逸将来
ノ經濟的發展ヲ近東ニノミ求メントスル論ハ是認スルヲ得
ズ吾人ハ戰後世界市場ニ活動セザル可カラズ
独逸保守党代表者 Westorp 賛テ我政事家及國民中英独
妥協ノ可能ヲ信スル者多カリシガ今回ノ戰爭ニ於テ英國ハ
對独同盟ノ中心トシテ露國ニ比シ遙ニ危險ナルコト明白セ
リ吾人ハ戰後モ一層世界市場ノ征服ニ努力セザルベカラズ
吾等ハ此際英國ヲ擊破シテ永久ニ独逸殲滅ノ企図ヲ拋棄セ
シムルコト必要ナリ英國政府ノ不当ナル要求ハ到底之ヲ容
ルル能ハズ我党ハ宰相カ東部方面ニ於テ敵カ再ヒ我國境ヲ
侵スカ如キコトアルベカラズト云ヘルニ贊成スルモノナル

ガ西方國境及殖民地ニ於テモ亦同様ナラザルベカラズ吾人
ハ「フランダー」人ヲシテ独逸指導ノ下ニ其ノ固有ノ生活
ヲ發展セシムルコト並白耳義ヲシテ再ヒ敵國ノ根拠地タラ
シメザル保障ヲ得ザルベカラズトノ言ニ同意スルモ之カ為
ニハ同地ヲ確実ニ領有セザルベカラズ波蘭問題ハ困難ナル
モ独逸兩國ノ友情ニ於テ之カ円満ナル解決ヲ期シ得ベク將

六 列国ノ和平工作一件 一一八 一一九

一一〇

ハ白耳義ヲシテ政事上經濟上独立ヲ回復セシメ又宰相カ直ニ平和ヲ締結セんコトヲ要求ス

右各党宣言ノ後往電第三三号末段潛航艇問題ニ関スル予算委員会ノ決議案ハ本會議ニ於テ確定セラレ潛航艇ガ予告ナクシテ敵国及中立国商船ヲ擊沈スルヲ禁スルコト及宰相ニ

対シ直ニ平和談判ヲ開始センコトヲ要求スル社会党少数派ノ決議案ハ否決セラレタリ

一一八 五月二十日 在英國井上大使ヨリ 石井外務大臣宛(電報)

件 独國ノ連合國側離間策ニ對シ英国外相演説ノ

第二二二一號 (五月二十六日接受)

倫敦市長ノ露國議員團送別宴ニ於ケル「グレー」氏演説中左ノ一節アリ御参考迄
独逸ハ目下頻リニ連合國側離間ノ策ヲ運ラン由來連合國側ニハ真正ナル一致ノ精神ナク各自其ノ特殊利益ヲ追求シツツアルヲ以テ愈々講和ノ時機到来セバ各他國ノ利益ヲ顧ミザルニ至ルベシ杯吹聴シ居レルガスノ如キハ敵国慣用ノ手段ニシテ素ヨリ絶対無根ノ虚説ニ過ギズ共同ノ危険ト目的

ゲルコトヲ期待スト云フカ如キ意味ヲ記シアリタル趣ニテ又大統領ノ回答ハ其米國ヲ戰禍中ニ巻込マシメサルニ尽瘁シツツアルコト及米國ノ名譽威信ノ維持セラル限リ此ノ目的ノ為ニ匪躬已ムコト勿ルヘシ云々ト述ヘアリタルモノノ如シト伝フ又法王ト大統領トノ間ニ平和克復ノ際協力スヘキ旨ノ約束成立チタリト臆測シ居ル者モ有之カ如シ
又羅馬法王ハ歐洲諸中立國ニ對シテ平和克復ノ申込ヲ交戦國側ニ提示スルノ議ヲ申出デタル由ノ報道在華府右中立諸國代表者ニ到達シタル趣ノ記事新聞紙ニ顕ハレ從テ同様ノ申出ヲ米國ニモ為シタルモノノ如シトノ想像説モ伝ハリ居レリ又右等法王ノ尽力ノ裡面ニハ独逸皇帝ノ冀望モ有之ヤノ噂アリ

尙ホ新聞紙ハ在獨米國大使館書記官 Joseph Grew 氏カ五月二十二日紐育ニ到着シタルコトヲ報シ「スーセックス」号事件ノ為米獨關係緊張セルニ方リ「ジエラルド」大使カ独皇帝ノ召ニ応シテ陣中ニ謁見シタル際米獨係争問題ノ外ニ平和克復ニ關スル談話モ有之タルカ如シトノ風説伝ハリタルコト「スーセックス」号事件ニ關スル獨ノ對米回答書中ニ獨逸カ講和ニ異存ナキコトヲ記セルコト最近獨宰相

ト努力トガ連合國側ニ与フル鞏固ナル團結ハ平和締結ノ際ト雖毫モ戰時ニ於ケルト異ナルコトナク露國ヲ初メトシ他連合各國ノ利益ガ我國ノ利益ト同様十分ナル考量ヲ受ケ且満足セシムベキハ云フヲ待タズ云々(露都經由、二十四日三七、一〇、第四四四号)

一一九 五月二十三日 在米國珍田大使ヨリ 石井外務大臣宛

ウイ爾ソノ大統領及羅馬法王間ノ往復文書及

公信第二二三一號 (六月二十六日接受)

二月十七日白館ハ「ウイ爾ソ」大統領カ最近羅馬法王ノ代表者タル Monsignor Bonzano マリ受領シタル書面ニ對シ回答ヲ發シタル旨ヲ公表セリ右往復文書ハ發表セラレザリング新聞紙ノ報導ニ依レバ羅馬法王ノ書面ハ同法王カ独逸皇帝ニ對シテ米獨潛水艇戰交渉ノ円滿解決方ニ関シ申入ヲ為シ居ルニ付皇帝ヨリ何等回答ニ接スル迄大統領ニ於テ本件ニ關シ何等ノ措置ヲ執ラザラムコトヲ切望スル旨ヲ述ヘ又米國カ歐洲大戰ニ引入レラルルカ如キコト勿ラムコトヲ冀ヒ平和克復ノ初期ニ於テ米國ガ重要ナル役割ヲ仕遂

Bethmann-Hollweg 氏カ米國新聞通信員ニ對シテ独逸ハ何時ニテモ現実ノ事實ヲ基礎トシテ("On the basis of real facts")講和談判開始ニ躊躇セサル旨ヲ述ヘタルコト等ヲ考ヘ合セ見ルトキハ右 Grew 書記官カ何等カ平和克復ニ関スル重要書類ヲ持返リタルニ非ズヤトモ考ヘラルナド掲載シ居レリ
在和蘭米國公使館書記官 Marshall Langhorne モ一両日前帰米シタル趣ニテ新聞紙ハ之モ亦何等カ平和談ニ關係アルニ非ズヤト噂ン居リ又昨日着独逸前宰相 Prinz von Buelow 来米ノ噂アル旨ノ倫敦電報ニ就テハ真偽全ク不明ナルモ新聞紙ハ之ヲ平和談ニ結付ケ居レリ(二十五日新聞紙ハ伯林ニ於テ「ビューロー」公來米説ヲ公式ニ否定シ居ル由ヲ伝ヘタリ)
曾テ三月中旬一旦「ジエラルド」大使賜暇帰朝ノコトニ決定シタルモ其後無期延期ノコトニ変更セラレタル旨公表セラレタル際ニモ此種ノ平和談行ハレ右ハ独逸政府側ヨリ近々特ニ同大使ヲ煩ハスヘキ重大事件出来スルヲ期待シ居ルトノ理由ニ依り賜暇見合セラ希望シタルカ為ナリトノ説伝ハリタルコトアリシガ近時當國ニ達スル各方面ノ情報ニ照

六 列国ノ和平工作一件 一三〇 一一一

一一一

シ独逸ニ於テハ講和ヲ希望シ居ルコト益々明瞭トナレルト
共ニ今回羅馬法王ト大統領トノ往復「グルュー」書記官帰
朝等ノコトアリタル而已ナラズ大統領ハ近々前大統領「タ
フト」ヲ会頭トセル League to Enforce Peace ノ大会ニ
於テ演説スルコトヲ承諾シタルカ為大統領ハ右演説中交戦
國ニ対シ講和ヲ從應スル趣旨ヲ述ブル心算アリト伝ヘ延テ
米国調停談荐リニ新聞紙ニ現ハレ居ルヲ以テ未タ何等取止
メタルコト有之儀ニ無之候得共御参考迄右報告申進候 敬
具

一一〇 五月二十五日

在伊国伊集院大使ヨリ

講和問題ニ関シ法王庁宰相伊藤書記官ニ談話

ノ件

第八三号

(五月二十六日接受)

昨今世上ニ法王庁カ荐リニ講和ニ尽力ナシ居ルヤノ風説伝
ヘラレタルニ依リ此際其真相ヲ搜クルノ必要ヲ認メ幸ヒ伊
藤書記官カ同序宰相タル Gasparri ニ紹介セラルノ便宜
ヲ有シ居ルトノコトニ付本月二十三日面会セシメタルニ其
要領左ノ通ナリ尤モ同宰相カ進ンテ談シタリト云フヨリハ

一一一 五月二十六日

在英國井上大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英国外相講和条件ニ関スル議員ノ質問ニ対シ

未ダ講和ヲ議スル時機ニ非ザル旨演説ノ件

第二三〇号

五月二十四日上院ニ於テ非戰主義者ノ或ル議員ヨリ(平
促致ノ要ヲ説キ)政府ノ講和条件開示ヲ迫レルニ対シ外務
大臣ハ戰局ノ現状ニ於テモ亦独逸及人民ノ意嚮如何ニ鑑ミ
ルモ未タ講和ヲ云々スル時機ニ達シ居ラザルノミナラズ何
等其徵候スラ認ムルヲ得ズト断言シ若シ夫レ講和条件ニ至
リテハ連合各國ニ於テ協同且ツ相互互認ノ上ニ於テ協定ス
ヘキモノニテ英國政府ハ其同盟諸國ト議ルトコロナクシテ

右条件ノ如何ナルモノタルヤラ言明スルヲ得ズト述べ転シ

テ最近米国新聞記者ニ対スル独逸宰相ノ会談ノ各節ニ一々

痛切ノ論駁ヲ加へ就中往年ボスニア併合問題當時英國ハ開
戦ノ底意アリタリトノ宰相ノ所説ヲ捉ヘ虚言ノ最モ甚シキ

モノナリト痛罵シ独逸人民カ此種ノ虚言ニ養ハレ一点時局
ノ真相ヲ解シ居ラザルノミナラズ独逸政府ハ常ニ其人民ニ
告グルニ独逸ハ勝者ノ地位ニアリ連合國ハ間モナク敗戦ス
ヘキ旨ヲ以テシツツアリ独逸政府ガ連合國ハ断ジテ敗者ニ
アラズ又敗戦セザルベシトノコトヲ認識スルニ至ル迄ハ平

六 列国ノ和平工作一件 一一一

伊藤ノ問ニ対シテ答ヘタルモノ多シ

(一) 同序ノ各地ヨリ得タル情報ニハ各国民ハ戰争ニ倦ミ

平和ヲ希望シ居リ又其時機モ接近シ来レリ (二) 同序ハ是
迄三回ホド平和ノ意思ヲ搜リタルモ未タ何国モ之ニ耳ヲ傾
ケザリキ (三) 戰争ハ勝敗ナク引分ケトナルベシ独逸ハ兵
員ニ不足ヲ來スヘシト云フモ一ヶ年間ニハ百万ノ新兵員ヲ
養成シ得ルコトトテ世上ニ伝フル如ク困難セザルベシ (四)

未ダ何レノ方面ヨリモ講和条件ニ関スル具体的希望ヲ述ヘ
シモノヲ聞カザルモ該条件ハ公平ナルモノナラザルベカラ
ズ仮令ヘバ白耳義ノ再興、波蘭ノ独立又ハ自治ノ如キ必要
ノ条件ナリ (五) 各交戦國ハ目下軍事上最後ノ奮闘ヲナシ
居ルヲ以テ一二ヶ月後ニハ其結果戰争ノ効果ナキヲ悟ルヘ
ク其時機コソ講和ヲ提議スヘキ好機ナルヘン (六) 日本ハ
講和ヲ提唱スルニ最モ好都合ノ地位ニ在リ日本ノ提議ハ独
逸兩國ニ於テ喜デ之ヲ迎フベク米國ノ如キ度外視シテ可ナ
ラズヤ云々御参考迄ニ申進ス

英仏露ヘ転電セリ

一一一 五月二十六日

在英國井上大使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英国外相講和条件ニ関スル英國外相ノ議會演説ノ真意

二付同外相説明ノ件

(五月二十九日接受)

五月二十五日「グレイ」氏ト会見ノ際同大臣ハ往電第二三

〇号議會ニ於ケル演説ニ言及シ近頃世上平和ニ関スル流説
区々紛論シツツアルニ付議院内一二非戰論者ノ質問アリタ
ルヲ機会トシ宣シク断然明確ニ (once for all) 英國カ此
際断シテ講和問題考量ノ意ナキコトヲ中外ニ宣明スルノ考

六 列国ノ和平工作一件 一三三

一一四

ヲ以テ右ノ演説ヲ試ミタル次第ナリト語ラレタリ尚二十五日ノ各新聞紙ハ筆ヲ揃ヘテ同大臣演説ノ趣旨ヲ贊襄称揚シ居レリ

一三三 五月二十八日 在米國珍田大使（ヨリ） 石井外務大臣宛（電報）

「ウィルソン」大統領講和問題ニ関シ所信表 明演説ノ件

第一一七号

前大統領「タフト」氏ヲ会頭トシ当国各方面ノ諸名士ヲ網羅セル League to Enforce Peace 第一回国民大会五月二十七日ノ晩餐会席上大統領「ウィルソン」氏演説大要左ノ如シ

弊頭欧洲戦争ハ吾人ノ権利自由特権及財産等ニ甚大ナル影響ヲ蒙ラシメタリ吾人ハ無関係ノ傍観者ニアラズ戦局漸ク長引クニ従ヒ其ノ終結ヲ冀フノ情益々切ナラントス而シテ愈々終局ヲ告グルノ日克復サルベキ平和ノ鞏固ナランコトヲ欲スルノ一事ニ至テハ吾人又諸交戦国ニ下ラズト前置シ現戦争ヲ誘引シタルモノハ隠密評議（Secret counsels）ナリ将来ハ公開的ニシテ健全ナル新外交ノ出現ヲ要スト述

アラズ單ニ一ノ信条ヲ表白シ併セテ世界ハ今ヤ正義ヲ以テ万民諸政府ノ根本義トシテ之レヲ保護スヘキ或ル共同目的実力ノ現出セムトスル一大革新時期ニ逢着セリトノ所信ヲ告ゲンカタメニ來会セルナリ云々ト結ヘリ

此程來右ノ機会ニ於テ大統領ハ講和提議ニ関スル意見ヲ陳ベ以テ暗ニ交戦諸国ノ意図ヲ探クルノ手段ニ供スヘシ等ノ風評盛ニナリシ関係モアルニ付右念ノタメ電報ス

一三四 五月三十一日 在英國井上大使（ヨリ） 石井外務大臣宛（電報）

講和問題ニ関スル獨米仏露英各國ノ態度ニ付 英国外相内話ノ件

第二四一号

前電談話後グレー氏ハ「ストックホルム」ニ於ケル独逸ノ講和運動ハ日本政府ノ回答ニ依リ失敗ニ帰シタル次第ナルモ独逸ハ既ニ大ニ軍事上必要ノ物質欠乏感ジツアリ戦争長引ケバ長引ク程其ノ苦痛益々增大スル次第ナルガ現ニ

米国大統領ヲシテ調停ノ任ニ当ラシムルノ希望ヲ以テ画策中ナルヤノ情報アリト内話セラレタルニ付本使ハ右様ノ消息ハ新聞紙上ニモ時々見受タル所ナルカ米国大統領ハ果シ

一四五 五月三十一日 在米國珍田大使（ヨリ） 石井外務大臣宛（電報）

「ウィルソン」大統領ノ講和問題ニ関スル演説及 談話並之二対スル各國ノ新聞論調報告ノ件

六 列国ノ和平工作一件 一三四 一四五

ヘ共同目的ノタメ諸国間協力ノ必要ヲ説キタル後、各人民ハ其ノ服スヘキ主権ノ選択權ヲ有スニ、主権及領土保全ニ付キ小国ト雖大国ト同一ノ権利ヲ有スニ、世界ハ諸国民ノ権利ノ蔑視及侵犯ニ原因スル平和攪乱ヲ免カルヘキ権利ヲ有ストノコトヲ國交上ノ根本通義トシテ掲ゲ若シ吾人ニシテ交戦諸国間ニ講和ヲ誘引シ又ハ提言スルノ特權ヲ有スル如キコト仮リニレ有リトスレバ米国民ハ左記方針ニ依リ米国政府ニ於テ行動セムコトヲ希望スルナルヘシト予ハ信ズ

一、交戦国直接ノ利害問題ハ彼等合意ノ儘ニ決定スヘク吾人ハ之ニ対シ何等關係アルナシ吾人ノ利害關係ヲ感スルハ只和平ト其ノ将来ニ向テノ保障確保ニ在リ

二、世界各国ニヨリ共同且無障害使用ノタメ海洋交通ノ損傷セラレザル安固ヲ維持シ及條約ニ反シ又ハ先ツ其ノ原因事故ヲ世界ノ輿論ニ附議シ且警告ヲ与フルコトナクシテ開戦スルコトヲ防止センタメ諸国間ニ世界的團体ヲ形成スヘキコト蓋シ之レ実ニ領土保全及政事的獨立ノ保障タルナリ

ト論シ最後ニ予ハ一ノ案ヲ論議セムガタメニ臨場シタルニ

テ調停ノ任ヲ引受クルヤト述ベタルニ同大臣ハ大統領ハ予メ聯合國ノ意図ヲ確メズシテ右様ノ任ヲ引受クルカ如キコトハ万之レナカルヘシト信ズル旨ヲ述ヘ尚今次ノ戦争ニ関シテハ人員金額ニ於ケル犠牲ハ英國ノ方寧ロ仏國ヨリ大ナルモ英國ハ何等敵ノ侵入ヲ受ケズ隨テ戦争ノ苦痛ハ未だ之ヲ感ジ居ラズ其ノ苦痛ヲ感シ居ルコト最モ大ナルハ仏國ナリ此ノ仏國ヲ差措キテ先づ平和ヲ云々スルガ如キハ敢テ忍ビザル所ナリ此意味ハ過日モ議會ノ演説中ニモ述ベタルコトナルガ万一仏國等ニシテ米國大統領ノ調停ニ応ズルガ如キコトアラバ英國モ自ラ講和ヲ考慮セザル訳ニハ行カザルベキハ勿論ナリ去リナガラ仏國ノ意図ハ「ブリアン」最近ノ演説ニモ明ニシテ露國モ亦「サザノフ」最近ノ言説ニ微スルニ仏國同様ノ意図ニ有之兩者トモ此ノ際和議ニ耳ヲ傾クルノ意アリトハ見エスト云ハレタリ

一一五 五月三十一日 在米國珍田大使（ヨリ） 石井外務大臣宛（電報）

「ウィルソン」大統領ノ講和問題ニ関スル演説及 談話並之二対スル各國ノ新聞論調報告ノ件

一一五

公信第二五四号

(六月二十七日接受)

往電第一一七号ヲ以テ不取敢大要及報告候五月二十七日華府開催平和強制團結 (League to Enforce Peace) 正餐會席上ニ於ケル演説 (附屬丙号) 以外「ウイルソン」大統領ハ最近華府記者俱樂部 (五月十五日附屬甲号) 「ノース、カロライナ」州「シャロット」市 (五月二十日附屬乙号) 及「アーリングトン」墓地 (五月三十日即招魂祭当日附屬丁号) ニ於テ談話又ハ演説ヲ為セリ

独逸ニ於テハ其時愈々食料特ニ肉類ノ払底ヲ來シ戰時食料省新設セラレ Tortilowitz von Batocki 之カ全權總裁ニ任命セラレタリトノ報導到来シ又独逸ハ協商軍側各国ト單獨講和ヲ遂ゲムト焦リツツアルモノノ如シナド伝ヘラレ往信公第一三一号中報告セルカ如ク目下平和談判リニ一人ノ注意ニ上リ居ル折柄右等大統領ノ演説ハ米國調停談ニ關聯シテ種々論評セラレ居レリ

大統領カ記者俱樂部ニ於テ為セシ談話中現戰争ハ已ニ交戦國ノ行動ヲ尋常ノ責任觀念ヲ以テ律スペカラザル程度迄達シタリト云ヒ又「シャロット」ノ演説ニ於テ歐洲交戰諸國ハ最早相互ニ相手方ニ向ヒテ歩ヲ進ムルノ殆ド不可能ナル

情況ニ到達セリトノ意味合ヲ述ベタルガ為又當時柏林電報ハ「ジエラルド」大使カ平和ノ近ヅキツツアルヲ確信スト語レリトノ報導ヲ傳ヘタルヲ以テ一般ニ大統領ハ平和強制團結大會ニ於ケル演説中更ニ確的ニ平和調停ニ関スル見解ヲ述べテ交戰諸國ノ意嚮ニ探ヲ入ルベシトノ風評アリタルモ (往電第一一七号参照) 實際ニ於テハ大統領ハ唯仮リニ講和ヲ誘引シ又ハ提言スルノ特權ヲ有スルニ至ルコトアリトスレバ斯々ノ基礎ノ上ニ之ヲ為スヘシトテ交戰國直接ノ利害問題ニ関スル決定ハ彼等ノ合意ニ任スヘキ旨ヲ明言シ唯将来ノ戰禍ヲ防ガムガ為ニ各國間平和強制團結ノ如キモノヲ作ルノ望マシク米國ハ斯カル團結ニ參加スルニ躊躇セザルベキヲ述ブルニ止メタリ最近アスクイズ首相、グレー外相、ブリアン首相等カ協商軍側ハ独逸ノ軍國主義ヲ倒シテ「自由ノ歐洲」ヲ確立スルノ見据付カザル今日決シテ平和克復ニ着手セムト欲スルモノニ非ズトノ趣旨ヲ述ヘタル旨ノ報導アリ (尤モグレー外相カ議会ニ於テ「ヴェルダン」ニ於ケル仏國軍ノ奮闘ハ講和ニ関スル協商軍側ノ發言權ヲ仏國ニ与フルモノナリト様ノ言ヲ泄シタル由ノ新聞電報モ有之タリ) 又大統領自身モ時機尚早ナルヲ認メ居ル旨伝ヘ

ラルアリ其後差迫リテ米國カ調停ヲ申出ヅルカ如キ兆候ノ認ムヘキモノ現レザルヲ以テ「大統領ノ演説ニ依リテハ少シモ平和克復期ノ近寄レルヲ觀取シ得ズ」 (華府「ボストン」) ト云フハ一般ノ觀察ナルカ如シ

從テ大統領ノ演説特ニ平和強制團結大會ニ於ケル演説ニ対スル批評ハ平和論ノ闕スル限り其理想ニ止マリテ實現ニ難キコトヲ認ムルニ殆ンド一致シ或ハ之ヲ以テ人ノ性ヲ無視シタル議論ナリト云フモノアリ (New Orleans Times Picayune) 独逸ハ平和ヲ要求シシアルモ大統領ノ考フルカ如キ平和ニ非ズト云フモノアリ (N.Y. World) 又大統領ヲ惡罵シテ本演説ハ彼ノ到底政治家タルノ資格ナキヲ証スル一著例ニ過ギズト云ヘルモノアリ (N.Y. Tribune) 本紙ハ旧来共和保守派機關タリシカ最近其態度ヲ一変シテ「ローズヴェルト」応援ニ決セリ) 然レトモ他ノ一面ニ於テハ此大戰ノ結果トシテ諸國民ノ思潮カ大統領ノ祈念スル

カ如ク截然一変スルナキヲ保シ難シト云ヒ (N.Y. Herald) 又現大戰ノ極端ナル慘状ハ自然大統領ノ言ニ對シテ同情アル反響ヲ生ゼシムルニ至ルベシト述フルモノ (Springfield Republican) キナキニ非ズ

フルカ如シ

英國ニ於ケル反響モ要スルニ大統領ノ演説ヲ以テ学問的ノ論議ナリトスルニ在ルガ如ク協商國側ハ現ニ「ウイルソン」ノ大統領ノ理想トスル処ニ從ヒテ共同ナル文明ノ敵ニ膺リツツアルニ非ズヤト反問スルモノアリ (Pall Mall Gazette) 大統領ノ平和論ハ夢ニ過ギズ但戦争終了後ニ至ラバ大ニ傾聴スヘキ点アルヲ遺ルヘカラズト云ヒテ幾分注目ヲ払ヘルモアリ (Evening Standard) 本案ハ如キ平和論ハ耳新シキコトニ非ザルモ今日米国ニ於ケルカ如キ支持ヲ得タルコトナシト云ヘルモアリ (Manchester Guardian) 大統領カ恒久的平和条件トシテ独逸政府ノ提倡セル「海ノ自由」ヲ掲ケタルニ対シ若此議論カ英國海軍力ノ制限ヲ含ムモノトスノハ到底贊成スルヲ得ズト云ヒ (Westminster Gazette, Lord Cromer) 又大統領カ戦争ノ原因目的ハ米国ノ閑知スル所ニ非ズト云ヘルハ遺憾ナリト述フルモノモアリ (Liverpool Post) 更ニ倫敦タイムスハ本演説ヲ以テ結局大統領選挙運動ノ一端ニ過ギズト観シ居レリ 仏國ニ於テハ有力ナル新聞紙ハ舉テ本演説ヲ大統領選挙運動ノ資料ナリトシ「ウィルソン」ハ各派各分子ヲ惹付クル

調停者ハ不要ナリト云ヒ (奥 Anzeiger) 又反対ニ有力ナル調停者ナクムバ戦局收拾ノ方法ナカルヘシト云フ極端説 (奥 Tageblatt) モ無之ニ非ズ又米国ニ於ケル平和談ハ結局米国入カ此大戦ノ調停者タラムトスル野心ニ基クモノニシテ又同時ニ大統領ノ独逸系投票吸收策ナリト論スルモノアリ (奥 Neue Freie Presse)

五月二十五日「イリノイズ」州選出上院議員 Lewis 氏 (民主党)ハ諸交戦國ニ対シテ調停ヲ申出ツルコトヲ大統領ニ依頼スルノ決議案ヲ提出シタルカ之カ附議ハ当分延期スルモノトナレリ

右御参考迄報告申進候 敬具

註 附屬書甲乙丙丁各号省略

一三六 六月二十六日 在蘭國落合公使ヨリ

蘭國平和協会ナルモノノ運動ニ閔スル件

附屬書

六月二十一日付蘭國平和協会ノ設立及目的ニ閔

スル通知状写

公第一〇九号

今回当地ニ蘭國平和協会ナルモノヲ組織シ講和条約ノ締結

六 列国ノ和平工作一件 一三六

ノ必要上斯カル夢想的言説ヲ為セリト云ヒ居レリ (Jour-

nal, Figaro, Journal des Debats) 又「クレマンソー」ノ

L'Homme Enchainé く「ウィルソン」カ協商、奥獨双方

ノ歎心ヲ買ハムト勗メツツアルモノナリト云ヒ Le Temps

ハ「ウィルソン」カ戦争ノ原因ニ閔シテハ米国ノ閑知スル

所ニ非ズト云ヒタルニ不服ヲ唱ヘ居レリ

独逸側カ頻リニ平和ヲ希望シ居ルコトハ明カニシテ平和談ニ閔スル記事ノ検閱弛ミ來レル趣ナル處独逸ノ希望スル和平ハ所謂「現在事實上ノ基礎」又ハ「地圖上ノ基礎」ノ上ニ之ヲ求ムルモノニシテ從テ「ウィルソン」ノ所謂平和トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノノ如ク見ユル為新聞批評ハ自ラ「ウィルソン」ガ縱令仲介者タルコトアリトスルモ其職分ハ要スルリ講和談判ノ手始ヲ為スニ止マルヲ要スト云フモノ多ク (独 Lokal Anzeiger, Vossische Zeitung 奥 Neue Freie Presse 等) 更ニ次期収穫期迄ニ独逸ガ饑餓ニ襲ハルベシナド思フハ大ナル謬ナリト云ヒ又戦局ノ結果独逸側ハ其目的ヲ達シ居リ協商側ハ全然失敗シ居ル現在ノ事実ヲ能ク領解スルヲ要スト述く居ルモノアリ (独 Vossische Zeitung 奥 Neue Freie Presse) 但戦争ノ終了ニ

ヲ促進スル為交戦國間ニ仲介者タラムトシ各交戦國公使又ハ其ノ他ノ代表者ノ会合ニ便セムトスル趣ヲ以テ別紙写ノ如キ書面ヲ當館ニ送リ来リタルモノ有之候就テ見ルニ右ハ該書面記載ノ如ク何等官辺ト關係ナク又所載ノ人名ヲ檢スルモ退職軍人退職牧師等何レモ名モナキ人々ニシテ其ノ趣旨ノ如キ固ヨリ取ルニ足ラザルモノト認メラレ候處右人々中所謂會長ト称スル「レーブマーケル」ナル者ハ非戰同盟會員ナリト認メラレ又右非戰同盟會ニ閔シテハ曩ニ前任公使報告ノ如ク (大正四年八月十二日發往電第三二号) 英仏露ノ他ノ公使ト打合ノ上行動シタル行懸モ有之候ニ付本使ニ於テハ今回念ノ為英國公使ノ本件ニ閔スル意向ヲ確メタル処同公使モ本使ト同意見ニテ一應露國公使等トモ話合ノ上本件ニ就テハ何等ノ回答ヲ与フル等ノコトヲ為サズ打捨テ置クコトナシタル趣ニ有之尚本件ニ独逸人ノ關係シ居ルノ疑ナキヤニ付為念同公使ノ所見ヲ質シタルニ自分ハ之ヲ確ムルノ材料ヲ有セザルモ多分右様ノコトナカルベシト信ズル旨語リ候

御参考迄ニ右報告申進候 敬具

(附屬書)

大日本ニ在シ蘭國平和協定ノ締立及皿的ニ置ケル通報状等

La Haye, le 21 juin 1916.

A Son Excellence l'Envoyé Extraordinaire et
Ministre Plénipotentiaire du Japon.
Excellence,

Il vient de se former dans cette ville le Conseil de Paix Néerlandais qui a pour but de servir d'intermédiaire entre les Puissances, impliquées dans la guerre actuelle, et de hâter, de toute manière, la conclusion de la paix.

Il peut sembler étrange à Votre Excellence qu'un Conseil de paix, non chargé d'une commission officielle, se permette d'offrir aux Puissances belligérantes de servir d'intermédiaire entre elles et leurs ennemis. Mais comme les offres officielles se font attendre, il nous semble possible que les dites Puissances aux représentants en Hollande de chacune desquelles nous envoyons la même lettre-acceptent celle d'un groupe de personnes, absolument neutres, qui se sont réunies dans le seul but de les servir.

Nous offrons donc nos services; disposez de nous; chargez nous de toutes les tâches qui vous semblent

N. J. C. Van Polanen Petel, Capitaine d'Infanterie en retraite à La Haye.
Le Docteur G. Romeyn, Inspecteur de la Santé Publique à Bois-le-Duc.
Le Docteur H. Thoden van Velzen, Pasteur à Hivarenbeek.
J. D. Wetsels, Receveur de l'Enregistrement à Rotterdam.

Agreeez, Excellence, l'assurance de nos sentiments les plus respectueux.

(signé) J. P. Petel (signé) M. Reepmaker
Secrétaire Président

~~~~~

111-11 八月十一日 在英國珍田大使  
石井外務大臣宛 (電報)

独逸ガ米国大統領ノ依ル休戦ノ斡旋方々全図  
ハ居ル皿ノ情報及連合國側ノ決意ノ付英外相  
談話ノ件

第三回六号 極秘

前電談話ニ関聯シ本使ハ予テ石井井上画報ヲリヤ申述くタ  
ル通日本ハ地理上ハ遠區ニ鑑ム講和ノ時機到来ノ場合ハ  
ク

大英國ノ和平工作1件 111D

utiles à hâter la conclusion de la paix; aucune d'elles ne nous sera trop lourde pour tâcher de l'accomplir.

Nous sommes aussi disposés à réunir à La Haye, soit les Envoyés Extraordinaires et Ministres Plénipotentiaires, accrédités auprès de la Cour des Pays-Bas, soit d'autres déléguées des Puissances belligérantes et de leur soumettre une proposition de paix que nous avons composée.

Nous prions Votre Excellence de transmettre au Gouvernement de votre pays l'offre que nous venons de faire.

Le Conseil d'Administration du Conseil de Paix Néerlandais se compose des personnes suivantes:

Mr. Reepmaker, President de l'Association "Paix Universelle", 64 Zeekant à Scheveningue, Président.

J. G. Bakker, Général-Major en retraite à La Haye.  
E. G. A. L. ter Haar, Lieutenant-Colonel en retraite à Harlem.

S. D. J. H. Krol, Pasteur émérite à Bréda.  
C. D. H. Monod de Froideville, Ex-Assistant-Résident à Leyde.

第一ハ其消息ヲ得タキ地位ニトニテ其程能ク時局ニ闇ヘル外務大臣ノ見解ヲ即キタル「同大臣ハ右日本ノ希望ハ常に留メ居ル所ナリトニ戰局ノ大勢ハ今ヤ聯合軍ニ有利ニ一變シ波斯方面及「トニベリヤ」ヘ一部ニ於テ露軍ガ今ヤ土軍ノ優勢ニ压セラン居ルノ外各戰場ニヤ「マリシアチーク」ハ全然聯合軍ノ手ニ移リ居ニリ經濟上ニ於テモ独逸ノ困難ニ迫々加ハリシノアルモ平和ノ徵候ハ未タ何等之ナシ尤最近柏林ヨリ英國側ニ遭シタル極秘ノ情報ニ依レハ独逸宰相ハ何トカシテ米国大統領ヲ動カシ十月頃ニ大統領ヲシテ休戦ノ協定ヲナサンメントベル考アリト云フ右独逸側ノ考察ハ既ニ何等カノ具体的ノ進捗ヲナシタルヤ否ヤハ未タ承知スル所ナキモ果シテ大統領ニ持込マントタル暁ニハ自然同官ヨリ我等聯合軍側政府ニ照会シ来ルロムトナルベキガ仏露両國ノ意向ハ到底右様ノ提議ニ応バベクトモ見エバト思ハルト述べ尚英國自身ノ意向ニ關シテハ直接ニハ言及セラニヤシニヤ最近ノ英國船艦 Fracatt ノ銃殺ノ如キ独逸ノ横暴愈々出テ愈々甚シキリ連レ英國國民ノ決心ハ益々鞏固ヲ加クツツアルコト語ラシタリ

1111

六 列国ノ和平工作一件 一三八 一三九 一四〇

一一一

一三八 十一月十七日

在露國丸毛臨時代理大使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

露國政府ノ対独单独講和説否定声明公表ノ件

第九一三号

露国外務大臣ハ同盟国駐在ノ使臣ニ電訓シ任国政府ニ対シ  
露獨单独講和ニ関スル風説ヲ否認スルト同時ニ露國ハ最後

ノ勝利ヲ得ル迄同盟ト協同シテ敵ニ当ルノ決心ヲ有スル旨  
声明セシメタル趣十一月十七日公表セラル

一三九 十一月十八日 在仏國松井大使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

露獨单独講和説ハ敵ノ策略ナル旨露國政府声

明ノ件

第二〇一号

露獨兩國单独講和ノ風説ニ対シ露國政府ハ左ノ意味ノ声明  
ヲ在仏露國大使ニ打電シタル趣ニテ今日ノ各新聞紙ニ之ヲ  
公表セリ

近來露獨单独講和説ノ世上ニ喧伝セラレツタルハ露國政  
府ノ黙過スル能ハザル所ナリ帝国政府ハ右ノ謠言ヲ以テ敵  
國ノ策略ニ出デタルモノナルコトヲ声明スルヲ憚カラズ露

ナル件

第四五七号

(十二月十六日接受) 昨十一日午後以来到着ノ和蘭方面ヨリノ新聞電報ヲ綜合ス

ルニ独逸宰相ハ十日朝大本營ニ到リ独逸皇帝バグアリア皇  
帝及「ヒンデンブルグ」ト會議後ニ帝国議會議長ニ対シ  
十二日午後一時開会ノ電命ヲ発シ議員ノ召集ニ努メシムル  
ト同時ニ(出征中ノ議員モ召集セラレタリト云フ)柏林駐  
箇中立國大公使ニ対シ十一日夜宰相來訪ヲ求メ外務大臣ハ  
各政党首領ニ対シ十二日朝ラ期シテ會見ヲ申込ミ一方各新  
聞ハ十二日ノ帝国議會ニ於テ宰相ハ極メテ重大ノ演説ヲ為  
スヘキ旨ヲ吹聴シ其内容ハ固ク秘密ニ附セラレタルモ或ハ

別 電 同日在英國珍田大使發ノ本野外務大臣宛電報第

四六〇号

獨國宰相ノ講和提議ニ關スル公文テキスト

第四五九号

(十二月十四日接受) 英国外務省ハ獨逸側ノ講和希望ニ関シ未ダ何等公報ニ接シ

居ラザル旨十二日夕公表セリ前電發送後當地着ノ獨逸側無  
線電報ニ依レハ獨逸皇帝ハ十二日出征軍各將官ニ対シ左ノ  
勅語ヲ与ヘタリ曰ク「朕ハ朕ノ同盟國各君主ト合意ノ上且  
我方ノ戰勝者タル事ノ自覺ヲ以テ敵ニ対シ講和ノ提議ヲナ  
シタリ敵ニ於テ果シテ之ヲ受諾スルヤ否ヤハ未ダ明カナラ  
ズ右ノ時機到来スル迄ハ汝軍人ハ依然戰ヲ進メヨ」ト  
尚議会ニ於ケル宰相演説ノ趣旨左ノ通り  
曩キニ議會ノ休会ニ際シ議長ノ裁量ニ依リ日ヲ定メ會議再  
会ノ事ニ致シ置ケルガ右ハ吾人ニ幸福ナル出来事ノ戰場ニ  
於テ不遠發生スベシトノ希望ニ基キタルモノナル處此希望  
ハ意外ニ速カニ実現セラレタリ

ジテ干戈ヲ收メザルヘシトノ冷評ヲ加ヘタル外一般新聞紙  
ハ眞面目ニ取上ケ論評シタルモノナシ惟フニ往電第四五六  
号独逸宰相演説ノ趣旨ニ対シテモ當國言論界ハ右ト同一ノ  
態度ヲ以テ之ヲ冷殺スルコトナラント存ス

一四一 十二月十三日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

獨逸皇帝ノ講和提議ニ關スル勅語及同國宰相

演説要旨報告ノ件

六 列国ノ和平工作一件 一四一

國ハ其驍勇ナル聯合諸國トノ親密ナル同盟ヲ固ク維持シテ  
不撓不屈以テ決勝ニ至ル迄其共同ノ敵ニ当ラン单独講和ノ  
如キ其夢想ダニセザル所ナリ鞏固不拔ナル露國ノ決意ハ敵  
ノ如何ナル詐謀ヲ以テスルモ之ヲ動カスコト能ハザルヘシ

一四〇 十二月十二日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

獨逸宰相十二日議會ニ於テ重大演説ヲ為スヘ

キ旨ノ和蘭方面新聞電報ニ対シ英國新聞冷淡

羅馬尼ハ獨逸及其連邦ノ東方ニ於ケル地位ヲ席捲センガ為  
ニ戰ニ投シタリ同時ニ Somme ノ大攻勢ハ我西方戰線突  
破ノ目的ヲ以テ行ハレ伊太利又奧匈國破碎ノ目的ヲ以テ再

ヒ攻勢ヲ取り形勢重大ナリシモ我軍隊ハ天祐ニ依リ我安固ノ保障トシテ從前ヨリモ寧ロ一層完全且壯大ナル地歩ヲ確立セリ我西方戰線ハ依然トシテ牢乎樹立セリ否羅馬尼方面策戦ニモ拘ラズ西方戰線ノ我軍隊ハ兵員物資共ニ從前ニ比シ一層大ナル予備ヲ具有セリ伊國軍ノ牽制動作ニ対シテモ我ハ最有効ノ警戒的措置ヲ尽シアリ Somme 及 Carso に於ケル砲声殷々ノ間露国ハ Transylvania 東境ヲ襲ヒタルモ「ヒンデンブルグ」ハ今ヤ西 Wallachia ノ全部ヲ席捲シ敵ノ首府 Bucharest ヲ略取セリ「ヒンデンブルグ」ノ卓絶ナル天才ハ人ノ見テ不可能トナセル所ヲ成就セリ而モ彼ハ之ニ甘ンズルモノニ非ズ策戦ハ尚着々進行シツツアリ之ト同時ニ我經濟上ノ須要ニ閔スル基礎ハ干戈ノ力ニ依リ新タニ鞏固ニ樹立セラレタリ羅馬尼ニ於ケル莫大ノ穀類食糧油其他ノ物資ハ我手ニ落チ之カ輸送ハ既ニ開始セラレツツアリ我物資ノ不充分ニモ拘ラス吾人ハ今日迄既ニ独逸ノ資源ニ依リテ生活シ來レリ今ヤ吾人ノ安固ハ全然確実トナレリ而シテ我潜水艇隊ハ陸戦ニ於ケル如上ノ顯著ナル成績ニ譲ラザル偉功ヲ挙ゲタリ敵ハ吾人ヲ飢餓ニ陥レントスルモ今ヤ饑餓ノ暗影ハ却ツテ敵ニ迫リツツアリ

平和ノ用意ニ閔スル我カ從前ノ声明ハ敵ニ於テ之ヲ等閑ニ附シ去レリ而カモ吾人ハ今ヤ此ノ点ニ閔シ一步ヲ進メタリ一九一四年八月一日我陛下ハ露国ノ動員ノ結果トシテ余儀ナク動員令ヲ下シ以テ独逸人民ノ運命ニ閔シ未曾有ノ重大ナル所決ヲ執ラセラレタリ我ガ勝利ニ帰シタル今次ノ戰争後ニ於テ独逸ノ地歩ヲ鞏固ナラシムベキ方法ヲ以テ平和ヲ克復スルコトハ陛下カ開戦以來終始一貫軫念セラル所ナリ顧慮ノ存スル所ハ國家ノ万機ニ責任ヲ有スル本大臣ノ最能ク立証スル所ナリ今ヤ陛下ハ国民ニ対シ否更ニ人類一般ニ対スル陛下ノ神聖ナル義務ヲ顧念アラセラレ此際ヲ以テ講和ニ対スル正式ノ措置ヲ執ルノ時機ト認メサセラレ我同盟各國ト完全ナル合意ノ下ニ且ツ協同シテ敵列国ニ対シ講和ノ商議開始ヲ提議セラルニ聖慮ヲ決セラレタリ本大臣ハ今十二日朝敵国ニ於ケル独逸利益保護ノ任ニ膺リツツアル各國ノ代表者ヲ介シ各敵国一般ニ対シ右ノ趣旨ノ公文ヲ送致シタリ本大臣ハ西班牙北米合衆国及瑞西ノ各大使ニ請フニ右公文書ノ転達ヲ以テセリ奧洪国土耳其及勃牙利モ各其ノ首府ニ於テ本日右ト同一ノ措置ヲ執リタリ

而シテ右我方ノ措置ニ付テハ他ノ中立各國及羅馬法王庁ヘ

戰爭第一年ノ終末ニ際シ我皇帝陛下ハ国民ニ宣布シテ曰ク親シク此ノ壮大ナル出来事ヲ目撃シテ朕ハ胸中悲壯且断乎タル決心ノ抑ヘント欲シテ能ハザルモノアリト陛下及国民ノ決心ハ依然トシテ毫モ渝ル所アラズ敵ニシテ若シ我方ノ倦怠疲憊ヲ期待シタリトセバ既ニ之レ一片ノ迷想ニ終リタリ独逸帝国議会ハ National Auxiliary War Service 法ノ通過ニ依リ新ニ我國家ノ攻勢的並防守的胸壁ヲ建設スル助力セリ出征軍ノ背後ニハ共同ノ目的ノ為拠据勞役スル偉大ナル国民アリ独逸帝国ハ我敵ノ夢想スル如ク包囲セラレタル要塞ニアラズ否無限ノ資源ヲ有シ堅実ナル規律ノ下ニ在ル偉大ナル一念アリ而シテ独逸帝国ハ奥地國土耳其及勃牙利ノ軍旗ノ下ニ戰場ノ修練ヲ経タル戰友国民ト鞏固且忠実ニ一致結合シ居ルモノナリ幾多ノ障害ニ拘ラズ吾人ハ確乎タル決心ヲ以テ我歩武ヲ進メ来レリ吾人ハ依然トシテ我國家ノ存立ト恒久且安固ナル将来ノ為戰フト同時ニ何時ニテモ平和ノ為我手ヲ伸ブルノ覺悟ヲ以テ我歩武ヲ繼續スルモノナリ

吾吾ノ力ノ斯ク強盛ニ拘ラス吾人ハ上帝ニ對シ吾民族ニ對シ又人類ニ対スル吾人ノ責任ニ耳ヲ傾ケザルモノニアラズルモノナリ

六、列國ノ和平工作一  
一四一

(宣  
讀)

十一月十三日 在英國珍田大使發本野外務大臣宛電報第四〇〇號  
獨國宰相ノ講和提議ニ閔ヘル公文テキベ

No. 460.

Text of Note.

Most terrible war which history ever seen, has been raging for two and half years in great part of world. This catastrophe which bond of common civilization for thousand years was unable to avert, strikes at mankind in its most precious achievements. It threatens destroy intellectual and material progress which was pride of Europe at beginning of twentieth century. Germany and her Allies, namely, Austria-Hungary, Bulgaria and Turkey, in this fight, have proved their unconquerable strength. They have won mighty successes over enemy, superior in number and war material, and their lines unshakably withstand ever repeated attacks of enemy armies. Latest assault in Balkans has been quickly and vigorously wrecked. Latest events prove Allies' power of resistance cannot be broken by further continuation of war, and that on contrary, entire situation justifies

of war before mankind and history.

Imperial Government, through good offices your Excellency, ask Government for (here the name neutral Power) bring this communication to knowledge of Government of (here names hostile Powers).



一四二 十一月十三日 在英國珍田大使ヨハニス 本野外務大臣宛 (電報)

講和提議ニ閔ハ独逸國政府ノ「ローマ」法H

II 对ベル援助取締ノ件

第四六一  
号

往電第四六〇号ノ公文以外独逸ハ羅馬法王府駐在同國公使 フシテ大要左ノ如キ公文ヲ法王ニ提出セルヤリ独逸側ヨリ 発表セラシタリ

公文ハ先ツ独逸政府ハ今回中立國政府ヲ通シ敵國ニ対シ講和談判ノ提議ヲ行ベル旨竝戰爭ノ慘禍ハ今ヤ一年半ノ長キハリ歐洲大陸ヲ風靡セルガ独逸ハ挙國一致以テ防禦的戰争ニ從事シ牢乎タル其守備線ハ敵國側一切ノ努力ニ対シ確實ニ維持セラシ國民愛國ノ至誠ハ最後迄防禦的奮闘ヲ継続ベキ決心ナルヤ此上ノ流血ハ人道上繪々シハカラザル

expectation further successes.

Four allied Powers were compelled take up arms defend their existence and their national freedom and development. Glorious deeds their armies have not altered that fact. They have always maintained conviction that their own rights and well-founded claims stand in no opposition to rights of other nations. Their aim is not to crush or destroy their enemies. Supported by consciousness of their military and economic strength, and ready, if necessary, to prosecute to utmost fight forced upon them, but being at same time inspired by desire prevent further bloodshed and put end to cruelties war, four allied Powers have proposed enter forthwith peace negotiations. Proposals which they will bring to these negotiations and which aim ensuring honour, existence and freedom of development of their peoples continue, as they are convinced, suitable basis for establishment of lasting peace. If notwithstanding this offer of peace and conciliation, fight should continue, four allied Powers are resolved wage it to victorious end. They repudiate most solemnly all responsibility for continuation

不幸ヲ増シ (驅) ルヲ以テ茲ニ講和ノ提議ヲ行フ次第ナリト述く法王ハ即位以來切ニ戰爭ノ災禍ノ滅却ニ努メ機会アル毎ニ戰爭終結ノ為ニ努力セラシタルヲ以テ独逸政府今回ノ提議ハ幸ニ法王ノ嘉納ヲ得其ノ貴重ナル援助ヲ期待シ得キヲ確信ストテ法王ノ同情ニ依頼セリ

一四三 十一月十四日 在露國丸毛臨時代理大使ヨハニス 本野外務大臣宛 (電報)

独逸側ノ講和提議ニ閔ハ露國ノ戰意及連合如

國トノ協議ニ付シハシト出談語ノ件

第九八〇  
号

独逸側ノ平和提議ニ閔ハ十一月十四日 Neratow 氏カ本官ニ語ル所左ノ通り

独逸公報ニ拠レハ独逸政府ハ敵國ニ於テ自國ノ利益ヲ代表セル中立國駐在独逸使臣ニ書翰ヲ送リ講和ノ談判ヲ開始セント欲スル独逸ノ希望ヲ協商國側ニ通達スルノ勞ヲ各其任國政府ニ於テ執ラシムトヲ依頼シ独逸宰相ハ該書翰ヲ十一月十二日ノ議会ニ於テ朗読シタル趣ナリ露國政府ハ未タ右提議ニ接セザルモ私見ニ拠レハ戰爭ヲ最後迄継続スベキル露國上ト一致ナルヲ以テ今日ハ此種ノ提議ヲ眞面目

六、列國ノ和平工作一  
一四三

ニ考量スルノ時機ニ非ズト思考ス尤モ右提議ニ接シタルトキハ連合各國ト協議ノ上回答ヲ与フルヲ適當ナリト思考スルニ付回答案ヲ具シテ陛下ノ裁決ヲ仰クノ途ニ出ヅル筈ナリ

一四四 十二月十四日 在露國丸毛臨時代理大使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

### 独逸側講和提議ニ対スル露國新聞論調報告

ノ件

第九八一号

(十二月十六日接受)

往電第九八〇号ニ関シ独逸側ノ平和ノ提議ニ対スル露國新聞ノ論調ハ略同一ニシテ独逸側カ巴爾幹半島ニ於テ優勝ノ位置ニ立チナガラ此種ノ提案ヲナシ来レルハ明カニ協商側ガ右提議ニ同意セザルヲ知リツツ態ト心アリテ此挙ニ出デタルニ外ナラズトシ異口同音独逸側ノ提議ニ応スルコト絶対的ニ不可ナリトセリ独リ右党及実業者一部ノ機関新聞ハ条件次第ニテハ之ニ応ズルモ可ナリトノ意ヲ洩ラシ右党ノ機関タル「ゼムスチナ」新聞ハ平和締結ハ一一皇帝ノ大権ニアリトテ暗ニ右提議ニ応シテ可ナリトノ意ヲ洩セリ「ノヴォエ、ウレミヤ」新聞ハ四国同盟側ノ提議ハ誠意ヲ

「レーチ」新聞曰ク我敵ハ今日平和ガ自己ノタメニ有利ニシテ敵國ノタメニ不利ナルコトヲ承知セザル筈ナシ而カモ之ヲ知テ尚且斯カル提議ヲ云ヒ出デタル所以ハ一方戦争繼續ノ罪ヲ協商側ニ嫁シテ国内ノ輿論ヲ鎮压シ他方協商側ニ多少ノ非戦論者アルヲ利用シ其ノ民論ヲ攪乱セムカタメニ外ナラズ英仏諸國ノ新聞ハ早ク既ニ此ノ提議ニ反対セリ露國新聞モ亦之ト同一タルベキヲ信ス云々

「ビルジュヴィエ、クリエール」新聞曰ク平和ノ必要ヲ感スルモノハ第一ニ平和ヲ唱フルヲ常トス吾人ハ独逸ノ提起セル平和ニ反対セズト雖露西亜ノ払ヒタル犠牲ニ相当セザル講和ヲナスヲ欲セズ来ルベキ平和ハ戦争ノ再発ヲ防止スルニ十分ナル保障ヲ与フルモノタルヲ要ス吾人ハ敵ガ我要

求ヲ容ルルコト明カナル場合ニ於テノミ平和談判ニ著手スベク而カモ敵側カ条件ヲ容ル迄ハ戦争ヲ継続スルコトヲ辞セズ云々

一四五 十二月十五日 在英國珍田大使(ヨリ)

本野外務大臣宛(電報)

### 独逸ノ講和提議ニ関シ英國各紙論評ノ件

第四六三号

(十二月十六日接受)

「モーニング、ポスト」 独逸今回ノ提議ハ其実講和ノ提議ニアラズシテ休戦ノ提議ナリ交戦國ハ講和談判ニ先ダチ休戦ヲ行ハザルベカラズ然ルニ今次ノ如キ各国民ノ戦争ニ於テハ一度干戈ヲ戢メンカ再ヒ開戦ノ如キハ到底不可能ト謂ハザルベカラズ独逸ハ現ニ本年九月既ニ休戦ノ申込ヲ為セリ去レバ吾人ノ講究スヘキハ講和ノ条件ニアラズシテ休戦ノ許否如何ニアリ然ルニ戦局ノ現状ニ就テ見ルトキハ休戦ニ依リ独逸カ優越ナル地歩ヲ占ムベキハ言フ俟タズ従テ問題ハ連合国側ハ果シテ独逸ノ「ディクテート」スル条件ヲ容ルルヤ否ヤニ帰着スベシ然ルニ連合国側戦争ノ目的ハ累次宣明セラレタル通リニシテ今日休戦ヲ許スガ如キハ即チ敵國ノ勝利ヲ認容スルニ外ナラズ況ニヤ独逸ノ提議ハ獨

逸カ勝利者ニアラズトノ事実ニ照シ一片ノ価値ナキモノナリ惟フニ独逸ニ取リテ緊急ノ必要ハ現存ノ武力ヲ維持スルニアリ其ノ広大ナル占領地保有ノ為独逸ハ各方面ノ必要ニ応シ増兵ノ余裕ヲ有セザルベカラズ然ルニ独逸ハ今ヤ其ノ力ナシ蓋シ独逸ハ既ニ其ノ勢力ノ頂点ニ達シ今後ハ下り坂ナルコトヲ自覚セルナリ去レバ今日休戦ノ成立ハ其ノ最希望スル所タルヤ明カナリ幸ニシテ新成ノ我政府ハ之ニ対シ其ノ受クヘキ正当ナル回答ヲ行フコトナルベシ

「クロニクル」 独逸ハ何時ニテモ吾人ノ指示スル条件ニテ平和ヲ獲得シ得ベシ独逸今回ノ提議ハ毫モ怪ムニ足ラズ吾人ハ久シキ以前ヨリ此事アルベキヲ期待セリ独逸ハ来年夏季迄戦争ヲ継続セバ国内ノ窮状亦收拾スペカラザルニ至ルベキヲ熟知シ竊カニ劃策スル所アリ米國ニ於ケル平和運動ノ如キハ二ヶ月前ヨリ最盛ニ行ハレタリ此際連合国タルモノ白耳義、塞爾比又ハ「アルサス、ローレン」ノ如キ局部ノ利害ニ拘泥スルコトナク普魯西軍國主義破壊ノ目的ヲ閑却スペカラズ抑モ独逸ノ計画ハ中欧帝国ノ建立ニアリ独、奥地、勃牙利、羅馬尼、希臘、土耳其ヲ包括スル一大帝國一度建設セラレンカ其ノ比年ナラズシテ世界ヲ風靡セン

コト敢テ難事ト謂フベカラズ即チ中欧帝国ノ野心ハ今日吾人ノ最警戒ヲ要スル所吾人ハ飽迄独逸武力ノ破壊ヲ企画シ以テ再ヒ開戦ノ虞ニ備フ所ナカルヘカラズ

「デーリー、ニュース」 独逸ニ平和ノ希望アルベキハ論ヲ俟タズ吾人亦平和ヲ希望ス但シ吾人ハ吾人ノ指定スル条件ニ於テ之ヲ欲ス独逸カ今日進退谷マリ平和ノ成立ヲ見込ミテ今日ノ提議ヲ為セリト見ルハ不可ナリ独逸今回ノ提議ハ寧ロ其ノ外交的詭計ト見ルヲ可トス蓋シ独逸宰相ノ意圖ハ羅馬尼ノ敗退ニ由リテ有利トナレル戰局ノ現状ヲ利用シ以テ連合国側ヲシテ防禦ノ位地ニ立タシメ出来得ベクムバ罪ヲ連合国ニ嫁セントスルニアルヘシ独逸提議ノ目的ハ要スルニ一、連合国側ヲシテ早晚到達スヘキ講和条件問題ニ逢着セシメ以テ内部ノ不調ヲ來タサンメニ、中立諸国ヲシテ連合国ニ對スル憤懣ヲ勃起セシメ殊ニ自国民ニ對シ政府ノ立場ヲ正当ナラシムルニ存スヘク更ニ又独逸ハ露國ノ内情ニ付テハ吾人ニ比シ一層能ク之ヲ熟知セル等ノ事情モアルベキガ連合国タルモノ此際宜シク自ラ条件ヲ指定シ以テ敵國ヲシテ之カ採否ノ責任ヲ負ハシムヘク其ノ条件タル正理ニ遵合シ将来平和ノ保障ヲ確実ニシ且ツ連合国開戦ノ目

トセザル仲介ハ飽迄之ヲ排斥シ「アスクイズ」氏宣言中ノ平和条件ヲ標榜シ益々努力奮闘以テ条件ヲ強制スルコトニ存スト論結セリ

「マンチャスター、ガーディアン」 独逸ハ曩ニ何レカノ

中立國ヲシテ休戦ヲ提議セシメント努メ失敗セルカ今ヤ決然トシテ自ラ講和談判開始ヲ提議シ来レリ此行動ヲ以テ單ニ外交上ノ懸引ニ過キズト見ルハ謬レリ独逸ノ内情ハ実ハ夫レ以上ニ切迫シ居ルナリ宰相ノ誇説セル羅馬尼ニ於ケル穀類及油ノ鹵獲ニ拘ラズ食料及物資ニ閑スル独逸ノ困難ハ今後益増長ノ勢ニアリ彼ニシテ真実平和ヲ希望スル以上ハ我方ハ彼ガ条件如何ヲ確ムルノ要アリ之カ為メニハ休戦又ハ第三國ノ干渉ヲ許スノ要ナク須ク即時且直接ニ彼ト所見ヲ交換スヘキノミ単純ニ独逸今回ノ提議ヲ排斥シ去ルハ中立国等ニ対シ我立場ヲ不利ナラシムヘク此際ノ要ハ敵味方共ニ直截明白ニ其立場ト要望ヲ明カニスルニアリ我開戦ノ主要目的ニ関シテハ素ヨリ一步ヲモ讓ルベカラズ白耳義、「セルビヤ」「モンテネグロ」ノ恢復及之ニ對スル損害ノ補償北仏占領地ノ還附及損害賠償等ハ勿論ノ義トシ仏國ハ宣シク往年獨逸ヨリ受ケタル損害ニ關シ要求スル所アルヘ

的ニ関スル「アスキス」氏ノ宣言ヲ實現スル底ノモノタラザルベカラズ

「タイムス」 先ツ宰相ノ宣言ノ大要ヲ叙述シタル後独逸ノ提議ハ其ノ國力ノ衰頽ヲ自覺セル徵象ト見ルベシ独逸ハ其ノ國力ノ消燼ニ先チ講和ヲ行ハントスル計画悉ク失敗シタルヲ以テ茲ニ名ヲ人道ニ藉リテ平和ノ成立ヲ試ミントスルニ至レリ独逸ハ其ノ初メ露國ト单独講和ヲ行ハントンテ成ラズ最近同國議會ニ於ケル社會黨員ノ平和ノ提議ハ首相ノ強硬ナル声明ニ依リ直ニ否決セラレ英國新政府ノ成立竝ニ仏國ニ於ケル内閣改造ノ氣運ハ何レモ連合国側決心ノ鞏固ヲ示スモノニシテ独逸提議ノ目的ノ一タル連合国ノ結束ヲ消サントスル独逸ノ意圖ハ全然破碎セラルヘシ蓋シ宰相ノ演説及新聞紙ノ所説ニ照ラシ独逸経済上ノ苦境ハ頗ル非常ニシテ羅馬尼ノ戰捷力能ク此ノ苦境ヲ和グベキヤハ疑問トスヘク國內壯丁ノ不足ハ又蔽フベカラザルノ事實ナリ思フニ是等ハ宰相提議ノ確實ナル理由ト見ルヘク同時ニ此ノ提議ハ民心ヲ昂奮セシメ交戰國及中立國內ニ一層平和運動ヲ行フノ機會ヲ与ヘ又戰爭繼續ノ責任ヲ連合国側ニ嫁スルノ利益アルヘキガ之ニ對スル連合国側ノ態度ハ正義ヲ基礎

ク惟フニ連合側列強間ニ協定サルヘキ講和条件ハ此際今ヤ独逸ノ受諾シ得ザル所タルヘキモ我方トシテハ此条件排斥ノ責任ハ之ヲ独逸ニ負ハシムルノ途ニ出ヅルヲ要ス  
「デーリー、テレグラフ」 吾人ハ未ダ独逸提議ノ条件ヲ審ニセズ唯最近白耳義ニ對スル提議ニ微シ略其如何ナル種類ノ条件タルヘキヤヲ揣摩シ得ルノミ独逸ガ戰運已レニ可ナルノ時ヲ以テ講和ノ提議ヲ為シタルハ独逸トシテハ策ノ得タルモノナルヘシ連合国側トシテハ徐ニ独逸提案ヲ受領スルヲ俟チ連合列強協同ノ考慮ヲ加ヘ協同ノ目的ヲ有スル連合諸國ヲ一団トシテノ所決ヲ取ルノ外アルヘカラズ而カモ吾人ノ卑見ニ拋ルニ独逸今回ノ行動ハ協商側列強ヲ目標トスルヨリハ寧ロ中立諸國ニ對スル印象ヲ目的トシ米國西班牙瑞典諸威瑞西ノ列強就中羅馬法王ヲシテ平和不成立ノ責任協商國側ニアリト判定セシメントスルニアルモノノ如シ吾人ハ此等局外諸國ノ所見万ニモ独逸宰相ノ期待ト一致スルカ如キコトアルヘシトハ思惟セザルモノナリ

「ウエストミンスター、ガゼット」 独逸側ノ余力ハ戰爭繼續ニ不十分ニシテ羅馬尼ニ於テ鹵獲ノ食料モ此ノ冬及来春ヲ支フルニ十分ナラザルコトハ宰相演説ノ行間ニモ捕捉

シ得ル處ニシテ今回ノ提議モ軍事上及經濟上我ニ有利ノ兆候ト見ルヲ得ヘシ乍去独逸ハ主トシテ中立國ヲ目標トシテ今回ノ行動ニ出デタルモノナルヲ以テ我方ハ本件處理ニ方リ彼ノ術中ニ陥ラザル様致サザルベカラズ独逸ノ条件ニシテ華盛頓電報ノ如キモノナランニハ我方ハ之ヲ排斥シ去ルヘキハ勿論ナルモ之ト同時ニ米國國民ニ対シ我地歩ヲ徹底セシムルコトヲ怠ルヘカラズ独逸ノ目標ハ中立國民ニアリ我方モ亦其ノ方面ニ努ムル所ナカルヘカラズ

「パルマル、ガゼット」 独逸ノ目標ハ米國其他中立國ニアルベキモ其ノ主要ノ目的ハ實ニ対内策ニ在リ独逸政策ノ拒絶セラルヘキハ素ヨリ予期スル所只其結果トシテ自国人民ヲシテ國民勞役強制法ニ服従スルノ外途ナキコトヲ悟ラシムルト同時ニ戰争遂行上今後一層ノ野蛮手段ヲ執ラントスルニ方リ予メ辭柄ヲ設ケントスルニ在リ此点ハ吾人ノ夙ニ覺悟スル所ナリ独逸ニシテ其ノ獸性ヲ發揮スル益々甚シキヲ加フルト共ニ連合國側ノ決心ハ益々不屈不撓トナルヘシ文明國民ト狂犬ノ間ニハ折合妥協ノ途アルナシ  
「イーヴニング、スタンダード」 独逸ノ提議ヲ無下ニ無視シ去ルハ不可ナリトノ説ヲ為ス一部ノ新聞紙ハ一年前開

セリ食料不足ト國民強制勞働法ノ實施ハ一氣呵成の大勝利ヲ夢想シ漫然開戦ヲ謳歌セル國民ヲンテ憤怒シ反激セシメツツアリ独逸今回ノ行動ハ独逸國民ノ持久耐忍ノ獎勵ト政府ニ対スル不満鎮靜ノ策ニ出デタルノミ吾人ハ恒久ノ平和ハ独逸ノ敗衄ニ依リテノミ之ヲ期シ得ヘク而シテ独逸ノ敗衄ハ吾人ノ力ノ能クスル所タルヲ切ニ確信スルモノナリ我英國民ハ戰勝ニ要スル犠牲ノ莫大ナルハ固ヨリ之ヲ承知シ居レルモ慘憺タル此ノ大戰爭ニ吾人ノ參加ヲ余儀ナクセシメタル所以ノ目的達成ノ為ニハ甘ンジテ此ノ犠牲ヲ払フヘク我同盟各國亦吾人ト齊シク断乎タル決心ナルコトヲ疑ハズ

一四六 十二月十五日 在英國珍田大使

本野外務大臣宛(ヨリ)

独逸ノ講和提議說二関連シ正式提案接到ノ場

合ノ連合國側態度ニ付セシル卿等ト会談ノ件

第四六四号

独逸ノ講和提議ニ關スル消息及意向探知ノ為十二月十三日外務省訪問先ツ大臣臨時代理「ロバート、セシル」卿ニ会見セルニ英國政府ヘハ今以テ何レヨリモ何等公報ナシトノ

戰間際ニ於テ尚英國ノ戰争參加ヲ非トシタル者ナリ其ノ心理狀態ハ寧ロ憫笑スヘシトテ自由党側二三新聞ノ所論ヲ痛罵シ独逸ノ言行不一致ノ実例ヲ挙証シ独逸ハ其ノ生命自由共ニ剝奪ノ運命ニ在ルヲ自覚セル罪人ノ如シ未タ兇器ヲ持チ居ル間ハ暴行ヲ統クヘキモ我方ハ到底此ノ罪人ヲ寛恕スルコト不可能ナル以上速ニ之ヲ捕ヘ法庭ニ引出スニ努力スルノ一アルノミト結論セリ

「デーリー、メール」 独逸宰相ハ再ヒ其ノ impudent peace trick ヲ持出セリ彼ノ内心果シテ戰勝者タルノ自信アリトセバ彼ハ決シテ此種ノ提議ヲ敢テセザリシナラン彼ノ提議ノ動機三アリ一、「ソソム」ノ敗戦二、各戰線ニ於ケル敵軍莫大ノ損害三、敵國國民ノ空腹是レナリ連合列強ハ殘虐虎狼独逸ノ如キ國民ト一切ノ條約ヲ挙ケテ反古視スル政治家相手ノ講和ノ徒勞ナルヲ熟知セリ吾人英國民ハ既ニ其ノ信頼スル新指導者(新内閣ヲ意味ス)ノ下ニ我目的トスル道程ニ向ヘリ吾人ハ断シテ最後迄此ノ道程ヲ進ムルノミ

「デーリー、エキスプレス」 前週漢堡ニ於テ二千ノ暴民三日ニ亘リ騷擾シ柏林ヨリ軍隊ノ派遣ニ依リ辛ウジテ鎮定

コトニテ独逸ノ真意ニ闇シテハ同卿ハ第一ハ独逸人民ノ平和熱望昂上ニ伴フ国内ノ不満鎮撫ノ為第二ハ中立國輿論ノ引附ノ為ノ策ナルヘキガ尚近ク一層猛烈ナル潛水艇戦ヲ励行スル為予メ素地ヲ作ルノ目的ナリトノ説アリ是ハ目下当地滯在中ノ某中立國官吏カ其所見トシテ自分ニ語リタル所ナリ兎ニ角本件ニ付テハ今迄ノ所我政府ハ新聞記事以上ニ何等消息ヲ有セズ今朝モ「ボナー、ロー」氏大臣ト談合シタル際話頭ニハ上リタルモ之カ處理方法ハ素ヨリ未タ考量ノ場合ニ達セズトノコトニ付本使ハ愈々独逸提案公然接到ノ上ハ自然聯合列強ニ於テ之カ処分協議ノコトナルベキガ右様ノ場合ニハ曾テモ「グレー」卿ニモ頗ミ置キタル如ク地理上ノ遠隔ニ鑑ミ日本ニ取り万ニモ時機ヲ逸スルカ如キ遺憾ナキ様我方ヘハ特ニ迅速ニ沙汰アル様致タキ旨希望ヲ陳ヘタルニ同卿ハ篤ト含ミ置キ注意スヘシト快諾セラレタリ夫レヨリ「バー・ディンジ」次官ニ面会セルニ其ノ所言「セシル」卿ト同様ナリシガ愈々独逸ヨリ正式ニ提議接到ノ場合之ニ對スル聯合國側ノ處理方手續 model of procedureハ如何相成ルヘキヤトノ本使ノ問ニ対シ同次官ハ差向キ己ノ意見トシテ事ノ敏速ヲ期スルタゞ聯合國多數ノ便利ニ

鑑ミ巴里ニ於テ聯合国代表者ノ會議ヲ開キ回答案ヲ決定セシムルコト然ルヘシト思考スト述ベタルニ付本使ハ右様ノ場合ハ我方ヘ迅速知照方ニ付囊ニ「ゼンル」卿ニ対シ依頼ノ次第ヲ尚「ハーディング」卿ヘモ依頼シ其ノ快諾ヲ得タリ將又同卿ハ独逸今回ノ行動ノ中立國其ノ他ニ於ケル反映ニ関スル本使ノ問ニ對シ英國民ノ関スル限り無論何等之ニ動カサルルコトナカルヘシト答ヘタリ独逸ノ真意カ対内策及中立國輿論ノ引付策ニ在リトノコトハ協商側同僚各大使モ一致ノ観測ナルカ如シ

一四七 十二月十五日 在仏國松井大使使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

瑞西新聞ニ現レタル日獨單獨講和ノ風説打消

ノ件

第二二四号 （十二月十六日接受）

最近瑞西新聞中独逸側ヨリ出デタル風説トシテ日本ハ其聯合側ニ向ツテ期待セル要求充分ニ満タサレザルカ為メ將ニ其締盟ヲ脱セムトシツアリ過般日本内閣更迭以来露国ニ対スル其武器ノ供給ヲ断チタルハ即チ之ヲ証スルモノナリトノ記事散見セル趣ニテ当地新聞中事ノ実否ヲ質シ来レ

ルモノアリタルヲ以テ右ハ独逸ガ常套ノ離間策ヲ弄スル為メ斯ル無根ノ説ヲ捏造セシメタルモノニ過ギズ日本ハ倫敦宣言ノ加盟者トンテ单独講和ヲ為スカ如キコト断シテナント答ヘテ右風説ヲ打消シ置ケリ

一四八 十二月十五日 在瑞典國內田公使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

講和到来ノ時期等ニ關シ「スチンネス」談話

ノ件

第一一四号（極秘）

往電第一一三号ニ関シ十二月十四日極内密ニ「スチンネス」ト会見セルニ「スチンネス」ハ今回独逸側講和ノ提議ニ関スル本使ノ意見ヲ尋ネタルニ依リ本使ハ日本ハ其ノ同盟ト協議シ態度ヲ決スヘシト答ヘタルニ「スチンネス」ハ英露仏ハ内閣ヲ改造シ全力ヲ尽シ独逸ヲ擊破セント計画セルガ故ニ講和ノ提議ニ応スルコトナカルヘク独逸国内ニ於テモ今回ノ提議ニ關シテハ識者ノ反対尠カラス自分ノ考ニ依レハ講和ノ時機ハ今後敵ノ計画失敗シ如何ニ努力スルモ到底独逸撃破ノ見込ナキヲ悟ルニ至リ始メテ成熟スヘシ独逸側ハ羅馬尼占領ニ依リ食料品石油其他ノ軍用材料ノ不

足ヲ補ヒ得タル為尚一年乃至一年半ハ何等不自由ナク戦争ヲ繼續シ得ベキガ敵國ハ其以内ニ戦争繼續ノ無益ヲ悟ルヘシ又講和談判開始ノ時期ハ英露両國ノ意志ニ依リ決定サルヘキカ英國ハ最後迄戦争繼續ヲ主張スヘキモ露國ガ平和ヲ希望スルニ至ラバ之ニ同意セザルヲ得ザルヘシ就テハ今後若シ英露何レニテモ講和希望ノ徵候アラバ更ニ会見ヲ求メタシトノコトナリシガ同人ハ当地ニ向ケ出発前「チンメルマン」ニ面会セシ由ナレバ其ノ内意ヲ受ケ講和ニ関スル協商側ノ意向ヲ探ル為來リタルモノト察セラル

一四九 十二月十七日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

独逸ノ講和提議ニ關シ英國各界ノ意向報告ノ件

第四六九号

主ナル地方新聞竝ニ宗教界商業界等ノ代表的識者ノ所論モ大体往電第四六三号倫敦各紙ト同様ニシテ要スルニ當国一般ハ独逸今回ノ提議ヲ以テ何等實際的効果ヲ伴フモノトハ認メ居ラズ City 財界ニテモ殆ド何等印象ヲ感シ居ラザルモノノ如ク強テ一般ノ所論ヲ區別スルトキハ全然独逸今回

## 六 列国ノ和平工作一件 一五〇

一四六

ル義務ニ照ラシテ之ヲ考量審査スベク断シテ单独講和ヲ排斥スヘキノミナラズ講和談判ハ必ズ大英帝国全体ノ名ニ於テ行ハルベキコト亦我方ノ主要条件ノ一ナリ而シテ敵ヨリ提出セラルルコトアルベキ講和条件ハ我方交戦ノ主眼

タル小国民族ノ保護ト条約ノ尊重恪守及不当ノ侵迫ニ対シ白国ヲ保護スルコト竝英國自身ノ安全保障等ノ大綱ニ照ラシテ審査セラルヘク白耳義塞爾比波蘭ニ対スル十分ノ補償(Preparation)ハ将来ノ保障トシテ欠クベカラザルノ要件タリ吾人ノ要スルハ真実ノ恒久の平和ナリ独逸ニシテ此種ノ平和ヲ受諾シ永久ニ之ヲ尊重スルノ誠意ヲ確乎表彰セザル限り我方ハ素ヨリ彼ニ平和ヲ許与スルヲ得ズ一時ノ休戦ニ過ギザル仮裝的平和ノ提議ニ對シテハ吾人ハ断々乎トシテ之ニ面ヲ背クヘント結論シ満場ノ大喝采ヲ博セリ又検事総長「ヒュワルト」モ同日自由派ノ某集会ニ於テ所謂独逸講和提議ハ未タ政府ニ達セザルモ本件ニ關シテハ第一開戦ノ目的ハ依然トシテ渝ル所ナク又第二終始同盟各國ト協同シテ行動スルコトニ二大方針ニ準シテ之ヲ處理スヘキ旨ヲ述ヘ是亦会衆ノ歓迎ヲ得タリ

一五〇 十二月十八日 在英國珍田大使（ヨリ）  
本野外務大臣宛（電報）

獨國ノ講和提議ニ對スル回答書作成ニ關シ其  
手続及趣旨ニ付英國政府ノ意向報告ノ件

第四七三号 (十二月二十日接受)

獨逸ノ講和提議十六日華盛頓政府ヨリ当地米國大使ヘ伝達セリトノコトヲ聞込ミタルヲ以テ今十八日外務大臣代理「ロバート、セシル」卿ニ會見シタルニ該提議ハ今朝米國大使ヨリ転達ニ接セリ其ノ内容ハ新聞紙ノ所報ト同一ナリ之ニ對スル処置振ハ何レ聯合列強ト協議ノ上ノコトナルモ英國側一応ノ意見ニテハ獨逸提議ニ對スル回答書ハ仏國政府ヲシテ先ツ之レヲ立案セシメ右ニ對シ聯合側各政府ノ同意アリタル上ハ仏國政府ヲ通シテ「ジョイント、ノート」トシテ発送スルコトシタキ考ナリ右ハ（一）米國其ノ他中立國側ニ對スル通リモ其ノ方宜シク又（二）仏國カ聯合軍側戦闘ノ中心トシテ其ノ苦心ト貢獻最モ大ナルニ顧ミ最モ事宜ニ適スルノ仕方ト思考ストノコトニ付本使ハ右回答案ノ趣旨ニ付大体ノ見込ヲ叩キタルニ「セシル」卿ハ獨逸公文巾ニハ反駁ヲ要スル点アルノミナラズ商議ノ基礎ニ關シテハ何

等言及シアラズト言ハレタルニ付本使ハ其ノ点ニ付テハ獨逸ヨリ右商議ノ基礎トシテ講和条件ノ提出ヲ促スノ意味合ニテノ回答ト迄モ進マル積リナリヤト尋ネタルニ同卿ハ否ナ其處迄ハ深入リスルヲ避ケ前述ノ点ハ单ニ然ルヘク回答中ニ指摘スルニ止メタク要スルニ聯合國側ニ於テ独逸ノ提議拒絶ノ回答ヲナスコト主眼ナリト答ヘ前來同卿談話ノ趣意ニテ英國政府ヨリ聯合側各政府ヘ提議スヘク在日本大使ヘモ早速電訓發送ノ積リナリト附言セラレタリ尚本使ハ日本ハ独逸トハ交戦關係ニ在ルモ墺國トハ外交關係断絶ニ止マリ又土勃兩國トハ元來外交關係モナキ等自カラ他ノ与國トハ趣ヲ異ニスルニ付我方ノ回答トシテハ其ノ辺ノ斟酌ヲモ要スヘキコトヲ述ヘタルニ同卿ハ右等ノ点ハ回答書立案方ニテ如何様トモ纏マリ付クヘント思考スル旨答ヘラレタリ

在歐米各大使ヘ電報セリ

一五一 十二月十九日 在仏國松井大使（ヨリ）  
本野外務大臣宛

獨逸側講和提議ニ關シ報告ノ件

（一月七日接受）

十二月十二日獨國無線電信所ノ發信セル電報ニ拠ルニ同日朝獨國宰相「ベットマン、ホールウェック」ハ敵国内ニ於ケル独逸人ノ利益ヲ保護セル諸國即チ亞米利加合衆國、西班牙國及瑞西國ノ在獨國代表者ヲ順次接見シテ之ニ独逸士勃ノ四國力即時ニ平和ノ商議ニ入ランコトヲ希望スル旨ノ提議ヲ記載シタル「ノート」ヲ手交シ之ヲ敵國諸政府ニ告知センコトヲ請ヘリ而シテ右ノ提議ハ鞏固永遠ノ平和ヲ克復セシムルニ值スル根蒂ヲ築ケルモノニシテ墺士勃ノ政府モ独逸國ト同文ノ「ノート」ヲ羅馬法王序ヲ初メ世界ノ各國ニ通報シタリト称セリ

當時仏國ニ於テハ宛カモ戰時行政ニ關スル各種ノ問題ニ對シ議會ノ議論頗ル喧騒ヲ極メ下院ニ於テハ為ニ秘密會議ヲ重ヌルコト十回ノ多キニ及ヒ其ノ結果政府ハ信任投票ニ依リ多数ヲ制シタルモ尚ホ内閣ヲ改造セザルベカラザル事態ニ陥リ英國ニ於ケル内閣ノ更迭ト前後シテ新内閣ヲ編成シ精銳ノ意氣込ヲ得テ更ニ戰時行政ノ革新ヲ實現シ戰線ノ行動ヲシテ一層有効ナランメント画策セル時ニ在リ然レバ右独逸側ノ提議ハ到底仏國ノ容ル能ハザル時期ニ於テ提出セラレタルモノニシテ仏國ニ於テハ右ノ提案ヲ以テ敵手タ

ル聯合側ヲ欺罔セントスル獨國ノ詭計陷穿ナリトナシ耳ヲ  
傾ケザルノミナラズ却テ警戒ヲ加フル所アリタルハ往電第  
二二〇号ノ通ナリ

十二月十三日首相ブリアン氏ハ下院ニ於ケル演説中ニ右ノ  
提議ニ論及シ未ダ其ノ本文ニ接セザルヲ以テ公然意見ヲ發  
表スルコトヲ得ザルモ何レ同盟國ト商議ノ上更ニ議院ニ報  
告スヘキコトヲ約シ先づ當座ノ感想ナリトシテ述ヘタル所  
ハ往電第二二一号ヲ以テ報告シタル所ノ如シ右ノ演説ハ少  
クトモ仏國上下官民ヲシテ大体該提議ニ対シ帰向スル所ヲ  
示シタルノ觀アリ其ノ内容ノ詳細ハ別添新聞切抜ニ就キ御  
承知相成度十二月二十日上院ニ於テ議員ツーロン氏が本件  
ニ関シ「仏國政府ハ國民ノ名ニ於テ独逸ノ提議ヲ拒絶スル  
コトヲ要スル」旨ヲ主張シ右ハ「自分一個ノ意見タルノミ  
ナラズ實ニ被占領地ヲ代表セル議員トシテノ意見ナリ」ト  
述べタルニ首相ブリアン氏ハ之ニ応ヘテ右提議ニ対スル公  
式回答ハ聯合國ト協議ヲ遂ゲ必ズヤ仏國ノ尊嚴ヲ傷クルコ  
トナカルヘシト述ヘタリ其ノ演説ノ内容詳細ハ是亦別添新  
聞紙切抜ニ就キ御查閱相成度此段申進候 敬具

註 別紙新聞切抜省略

別個ノモノニシテ今回中歐諸政府ヨリ講和ノ発議アルニ際  
シ之ヲ提唱センカ其間何等カノ關係アルモノナルヤニ解セ  
ラルル虞アリ暫ク之ヲ差控フベキ旨ヲ反覆縷述セル後覚書  
ニ通ヲ朗説シ之ヲ本野外務大臣ニ手交シタリ

外務大臣ハ大使説明ノ趣旨ヲ了承セル旨ヲ答ヘラン尚大使  
ガ本件回答振ニ関シ内密開示ヲ得ハ仕合ナル旨ヲ述ベタル  
ニ対シ本件ニ関スル米國政府ノ態度ニ謝意ヲ表サレ次ニ本  
件ハ事重大ニシテ先ツ閣僚ニ謀リ更ニ聯合諸國トモ協議ス  
ルノ要アリ追テ回答ノ場合ニ立至ラバ大使ヲ煩ハスマシト  
答ヘラレタリ

辞シ去ルニ臨ミ米國大使ハ外務大臣特別ノ注意ヲ喚起シタ  
シトテ合衆國ガ既ニ数多ノ國ト締結セル國際紛議審査委員  
制度ニ関スル條約ニ日本ニ於テモ最近米國ニ於ケル狀況ニ  
鑑ニ加入方詮議セラレタク石井前大臣ニ於テモ曩ニ同案攻  
究ヲ進メタキ希望ヲ述ベラ居レバ此際引続キ其辺ノ配慮  
アランコトヲ切望スト申出デ大臣ハ之ヲ聞取置カレタリ

註 國際紛議審査委員会ニ關スル條約問題ニ付テハ日本外交文  
書大正三年第一冊ノ事項七及同大正四年第一冊ノ事項三參  
照

講和ニ関スル独逸政府通牒転致ノ件

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 附屬書 | 十二月十八日附在本邦米國大使館ヨリ日本外務<br>省宛覧書  |
|     | 十二月二一日附講和提議ニ関スル獨國政府ノ通<br>牒転致ノ件 |

十二月十八日附在本邦米國大使館ヨリ日本外務  
省宛覧書 在本邦米國大使會談

大正五年十二月十九日前九時在本邦米國大使本野外務大  
臣ヲ大臣官邸ニ訪ヒ先ヅ本国政府ノ訓令ニ依リ講和ニ関ス  
ル独逸政府通牒ヲ提出スベキモ右ハ合衆國政府代表者トシ  
テニハアラズ中歐諸政府ノ為ナルコトヲ篤ト諒承セラレタ  
シト述ベタル後該通牒ノ伯林、維納「ソフィア」及「モン  
スタンチノーブル」ニ於テ同文ヲ以テ中立国外交代表者ニ  
手交セラレ各中立國政府ハ夫々之力転達方ヲ執行スルモノ  
ナルコト竝ニ本書ハ追テ郵便接到ノ上転致スベキモ不取敢  
電報ニ依リ之ヲ移牒スルモノナルコトヲ説明シ本通牒ノ内  
容ニ関シテハ合衆國政府亦本件ニ関シ相当腹案アルモ全然

(附屬書)

十一月十八日附在本邦米國大使館ヨリ日本外務省宛覧書  
十一月二一日附講和提議ニ関スル獨國政府ノ通牒転致ノ件

Tokyo, December 18, 1916.

Memorandum.

The American Ambassador has the honor to inform the Imperial Japanese Foreign Office that he has to-day received from his Government by telegraph the following copy of a Note under date of December 12th, 1916, transmitted to the American Embassy at Berlin by the Imperial German Government with the request that the communication be forwarded by the Government of the United States to the Government of the French Republic, the Royal Government of Great Britain, the Imperial Government of Japan, the Royal Government of Romania, the Imperial Government of Russia and the Royal Government of Serbia:

Berlin, the twelfth December, 1916.  
Mr. Chargé d'Affaires,

The most formidable war of history has been ravaging for two and a half years a great part of the world. That catastrophe that the bonds of a common

文明 more than a thousand years old could not stop strikes mankind in its most precious patrimony; it threatens to bury under its ruins the moral and physical progress on which Europe prided itself at the dawn of the twentieth century. In that strife Germany and her allies Austria-Hungary, Bulgaria and Turkey have given proof of their indestructible strength in winning considerable successes at war. Their unshakable lines resist ceaseless attacks of their enemies' arms. The most recent diversion in the Balkans was speedily and victoriously thwarted. The latest events demonstrated that a continuation of the war cannot break their resisting power. The general situation much rather justified their hope of fresh successes. It was for the defence of their existence and freedom of their national developments that the four allied powers were constrained to take up arms. The exploits of their arms have brought no change therein. Not for an instant have they swerved from the conviction that the respect of the rights of the other nations is not in any degree incompatible with their own and legitimate interests.

to the Imperial Government of Japan, to the Royal Government of Roumania, to the Imperial Government of Russia and to the Royal Government of Serbia.

I take this opportunity to renew to you, Mr Chargé d'Affaires, the assurance of my high consideration.

(signed) von Bethmann-Hollweg

To

Mr. Joseph Clark Grew,

Chargé d'Affaires of the United States of America.

The American Ambassador is instructed by his Government to state that identic copies of this Note have been received by the American Missions at Berlin, Vienna, Constantinople and Sophia, from the Governments of Germany, Austria-Hungary, Turkey and Bulgaria respectively, for transmission to the Entente Powers, and that the original texts of these Notes will be forwarded by the Government of the United States as soon as they are received.

The American Ambassador is further instructed, in bringing this Note to the attention of the Imperial Japanese Foreign Office, to intimate quite explicitly

They do not seek to crush or annihilate their adversaries. Conscious of their military and economic strength and ready to carry on to the end if they must the struggle that is forced upon them, but animated by the desire to stem the flood of blood and to bring the horrors of war to an end, the four allied powers propose to enter even now into peace negotiation. They feel sure that the propositions which they would bring forward and which would aim to assure the existence, honor and free development of their peoples would be such as to serve as a basis for the restoration of a lasting peace.

If notwithstanding this offer of peace and conciliation the struggle should continue, the four allied powers are resolved to carry it on to a victorious end while solemnly disclaiming any responsibility before mankind and history.

The Imperial Government has the honor to ask through your obliging medium the Government of the United States to be pleased to transmit the present communication to the Government of the French Republic, to the Royal Government of Great Britain,

that he is doing so only in his capacity as representative of the Central Governments, and in no sense as the Representative of the Government of the United States.

(根岸義次) (日本外務省に於て作成シタル仮訳トニ)

眞 謹

十九百十六年十一月十八日東京に於テ

米國大使ハ独逸帝國政府ガ在柏林米國大使館ニ交付シ米國政府ニリ仏蘭西共頭國政府、大不列顛王國政府、日本帝國政府、羅馬尼亞王國政府、露西亞帝國政府及塞爾比亞王國政府ニ転致セハムニ依頼シタル十九百十六年十一月十一日附下記公文写ラ本國政府ヨリ日本電報ヲ以テ受領シタルノトハ日本帝國政府ニ通告スルノ光榮ヲ有ベ

振付未曾有ハ大戰ハ世界ノ大半ヲ荒廃セシムルニ既ニ  
11年半ニ及ベニ過去一千年ヲ超ユル共通文明ノ結合モ克  
ク々々防避スルヲ得ザラン此慘禍ハ人類社會ヲ襲ヒテ其  
最貴重ナル成果ヲ侵セリ為メニ11世紀ノ初頭ニ於テ歐  
洲ノ諸ニヤル漸進上及物質上ノ進歩ヤ戰争ノ癡墮ハレ

## 六 列国ノ和平工作一件 一五二

一五一

埋没シ去ラレントスルニ至レリ此戦争ニ於テ独逸及其同盟國タル壊洪國、勃牙利國土耳其國ハ屢顯著ナル成功ヲ博シ以テ彼等ノ実力ノ破却シ得ラザルモノナルヲ証セリ彼等ノ堅固ナル戦線ハ能ク敵軍ノ連襲ニ堪ヘ巴爾幹半島ニ於ケル最近ノ牽制作戦モ迅速ニ阻止セラレ彼等ノ勝利ニ帰シタリ最近ノ事蹟ハ彼等ノ対抗力カ戰役ノ繼續ニヨリテ到底打破セラルヘキモノナラザルヲ示シタルノミナラズ全局ノ形勢ハ却テ彼等ヲシテ更ニ新ナル成功ヲ得ベキヲ期待セシムルニ足レリ同盟四国ガ干戈ヲ執ルノ已ムヲ得ザルニ至リタルハ其生存ト國家的發展ノ自由トヲ擁護センガ為メニ外ナラズ此ノ目的ハ彼等ノ戰功ニ依リテ何等変更セル所ナク彼等ハ他ノ國民ノ權利ノ尊重ハ彼等自身ノ正当ナル利益ト寸毫モ相背反スルモノナラザルノ確信ヲ一瞬時モ動カシタルコトアラズ彼等ハ敵ヲ殲滅掃蕩セントノ目的ヲ有スルモノニハ非ズ同盟四国ハ其兵力及財力ヲ自覺シ若シ止ムヲ得ズンバ彼等ニ強ヒラレタル此爭鬪ヲ最後迄敢行スルノ覺悟ヲ有スト雖同時ニ此上ノ流血ヲ止メ戰争ノ殘虐ヲ終熄セシメントノ願望ニ動カサレ茲ニ即時ニモ講和談判ヲ開始センコトヲ提議ス其ノ

テ入手次第直ニ転致セラルベキコトヲ通報スヘキ旨本國政府ヨリ訓令セラレタリ

尚米國大使ハ本公文ヲ日本帝国外務省ニ転達スルニ当リ自己カ单ニ中歐諸國政府ノ代表者タル資格ニ於テ之ヲ為スモノニシテ如何ナル意味ニ於テモ米國政府ノ代表者タル資格ニ於テ為スモノニアラザルコトヲ最モ明白ニ表明スペキ旨訓令セラレタリ

訓令セラレタリ

一五三 十二月二十日 在露國九毛臨時代理大臣宛（電報）

独逸ノ講和提議ニ対シ拒絶ノ回答立案ヲ仏國

政府ニ委任ノ旨不ラトフ氏内話ノ件

第九九〇号

十二月二十日ネラトフ氏ニ面会シタルニ其ノ内話スル所左ノ通

独逸ノ提議（壊洪國土耳其勃牙利ノ分ハ之レナシ）ハ今日在露米國大使ヨリ受領シタルガ露國政府ノ所見ニ依レバ独逸今回ノ提議ニ対シ何等回答ヲ与ヘザルハ事宜ニ適セザルモノト思料スルモ此際独逸ノ言フガ如キ基礎ニ由リテ平和談判ヲ開始スルハ到底不可能ナリト信ズルヲ以テ断然之ヲ

六 列国ノ和平工作一件 一五三 一五四

商議ニ附セラルヘキ提案ハ彼等ノ國民ノ生存、名譽及發展ノ自由ヲ保障スルヲ目的トスヘク以テ永久和平ノ回復ノ基礎トスルニ足ルヘキモノナリト信ス

若シ右平和交譲ノ提案ニ拘ラス尚戰争ノ繼續ヲ見ルニ於テハ同盟四国ハ最後ノ勝利ヲ獲ル迄之ヲ遂行スルノ決心ニシテ同時ニ人類ト歴史トノ前ニ何等ノ責任ヲ負フコトナキヲ嚴ニ声明セムトス帝国政府ハ貴官ノ好意アル仲介ニヨリ合衆國政府カ前記ノ通告ヲ仏蘭西共和國政府、大不列顛王國政府、日本帝國政府、羅馬尼王國政府、露西亞帝國政府、塞爾比亞王國政府ニ転致センコトヲ依頼スルノ光榮ヲ有ス

本大臣ハ茲ニ貴下ニ向ツテ重ネテ敬意ヲ表ス  
フォン、ベートマン、ホルウェッヒ（署名）

米国代理大使

ジョゼフ、クラーク、グルー 貴下

米国大使ハ柏林、維納、「コンスタンチノープル」及「ソフィア」駐劄米國使臣等ニ於テ独逸國、壊地利洪牙利國、土耳其國及勃牙利國政府ヨリ聯合諸國ニ交付ノ為メ本公文ノ同文写ヲ受領シタルコト並本公文ノ原本ハ米國政府ニ於

拒絶スルノ意味合ニテ独逸ニ回答ヲ發スルタメ其ノ立案ヲ仏國政府ニ委任方異議ナキ旨通牒スヘキ様在仏大使ニ訓令シタリ

一五四 十二月二十一日 在仏國松井大使（ヨリ）  
在中國林及在暹國西各公使宛（電報）

ブリアン氏独逸ノ講和提議ニ対スル回答案文

起草承諾ノ件

第一七〇号（仏國宛）

第五二七号（中國宛）

第二〇〇号（暹國宛）

十二月十七日在本邦仏國大使ハ今回ブリアン氏ニ於テ英伊兩國政府ノ依頼ニ依リ独逸ノ講和提議ニ対スル回答案ヲ起案スルコトヲ承諾シ脱稿ノ上ハ聯合各國ニ通報スル筈ナル旨ヲ内報シタルニ付本大臣ハ右回答案接手ノ上ハ直ニ講究ヲ遂ケ聯合各國ト同一ノ歩調ヲ執ルヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

尚ホ十二月二十日在本邦英國大使ヨリモ右ト同様ノ申越アリタリ

右御参考マテ電報ス

一五三

○松井大使宛ニハ「本電在歐米各大公使ヘ転電アリタシ」

~~~~~  
本野外務大臣 在本邦米國大使會談

一五五 十二月二十日 平和ノ恢復及確保ニ関スル米國大統領ノ希望

通告ノ件

附屬書 十二月二十日附在本邦米國大使館ヨリ日本外務省宛覺書

平和恢復及確保ニ関スル米國大統領ノ希望ニ付同國

大使來談要錄

大正五年十二月二十一日午前九時米國大使來訪本國政府訓令ノ下ニ執行ストテ後ニ本野外務大臣ニ手交セル平和恢復並確保ニ関スル長文覺書ノ内容ヲ布衍詳述シタル後之ヲ朗讀シ外務大臣ニ渡シタル上更ニ如左附言セリ

今朝ノ新聞電報ニヨレバ英國首相仏國首相等何レモ講和提議ノ拒絶ヲ唱く「ロイド、ショージ」氏ノ如キ独逸ガ破リタル保障以上ノ保障ヲ得ルニアラザレバ講和シ難シト説ケルガ聯合側ノ意氣込如斯トスレバ結局聯合側ガ独逸ノ与フル保障ニ第三國ノ保証ヲ副ベテ満足スルカ若クハ獨逸國ヲ滅亡セシメテ始メテ目的ヲ達シ得ベク其為ニ

ハ戰慄スベキ殺戮ヲ繼續スルヲ要シ寒心ノ至ナリ例ヲ自國ノ南北戦争ニ取ルモ相対峙シテ降ルコトナカリシモノモ遂ニ和ヲ講スルヲ得タリ聯合側同盟側トモニ歐洲小国将来ノ安固ノ為トイフガ如キ一般的希望ヲ述べテ其武ヲ戢メザルハ遺憾此上無シ双方講和ノ条件ヲ具体的ニ挙ゲテ比較研究シ又将来平和ノ確保ニ関スル意見ヲ交換スルハ世界人類ノ為ニ望マシキ義ナリ大統領ハ其至念ニ動力サレ本希望ヲ通報スルモノナリ米國ハ戰役ノ為ニ國富ヲ増ストイフガ如キハ一部小人ノ意見ニシテ米国民ハ寸時モ早ク世界平和ノ克復センコトヲ切念ス日本政府ニ於テモ本案ニ対シ同情アル考量ヲ加ベラレタシ尚本希望ハ單ニ交戰國政府ニ対シテノミナラズ中立國政府ヘモ通告シアリ

茲ニ於テ本野大臣ハ大使所述ノ趣旨ハ諒承シタルガ本件ハ重要ノ問題ナルニ付帝國政府ニ於テモ慎重審議ヲ要シ閣僚ト熟議ノ上聯合國トノ意見交換ヲ為シタル上ニテ追テ回答スルロートナルグキガ本申出ハ米國政府単獨ニ之ヲ為スモノナリヤ又ハ他中立國政府ト協議ノ上ナリヤ確メ置キタント尋ねラシタルニ対シ大使ハ合衆國政府単獨ナリト答ハ尚

大使ハ本件通告ハ大統領ニ於テ講和ヲ提議シ又ハ調停ヲ試ムハスルニ非ザルコトヲ十分明瞭ニ為シ置キタシト既ニ
覺書手交前縷述シタルト同一ノ趣旨ヲ繰返シタルニ対シ外務大臣ハ其点極メテ明白ナリト答ハラレ米國大使ハ早朝ノ面会ヲ謝シ辞去セリ

(附屬書)
十二月二十日在本邦米國大使館ヨリ日本外務省宛覺書
平和ノ恢復及確保ニ關スル米國大統領希望ノ件

Tokyo, December 20, 1916.

Memorandum.

The President of the United States has instructed me to suggest to the Imperial Japanese Government a course of action with regard to the present war which he hopes that the Imperial Japanese Government will take under consideration as suggested in the most friendly spirit and as coming not only from a friend but also as coming from the representative of a neutral nation whose interests have been most seriously affected by the war and whose concern for its early conclusion arises out of a manifest necessity to determine how best to safeguard those interests if the war is to continue.

The suggestion which I am instructed to make the President has long had it in mind to offer. He is somewhat embarrassed to offer it at this particular time because it may now seem to have been prompted by the recent overtures of the Central Powers. It is in fact in no way associated with them in its origin and the President would have delayed offering it until those overtures had been answered but for the fact that it also raises the question of peace and may best be considered with other proposals which have the same end in view. The President can only beg that the suggestion be considered entirely on its own merits and as if it had been made in other circumstances.

The President suggests that an early opportunity be sought to call out from all the nations now at war such an avowal of their respective views as to the terms upon which the war might be concluded and the arrangements against its renewal or the kindling of any similar conflict in the future as would make it possible frankly to compare them. He is indifferent as to the means taken to accomplish this.

He would be happy himself to serve or even to take the initiative in its accomplishment in any way that might prove acceptable, but he had no desire to determine the method or the instrumentality. One way will be as acceptable to him as another if only the great object he has in mind be accomplished.

He takes the liberty of calling attention to the fact that the objects which the statesmen of the belligerents on both sides have in mind in this war are virtually the same, as stated in general terms to their own people and to the world. Each side desires to make the rights and privileges of weak peoples and small states as secure against aggression or denial in the future as the rights and privileges of the great and powerful states now at war. Each wishes itself to be made secure in the future, along with all other nations and peoples, against the recurrence of wars like this, and against aggression or selfish interference of any kind. Each would be jealous of the formation of any more rival leagues to preserve an uncertain balance of power amidst multiplying suspicions; but each is ready to consider the formation of a league

interest in its conclusion, lest it should presently be too late to accomplish the greater things which lie beyond its conclusion, lest the situation of neutral nations, now exceedingly hard to endure, be rendered altogether intolerable, and lest, more than all, an injury be done civilization itself which can never be atoned for or repaired.

The President, therefore, feels justified in suggesting an immediate opportunity for a comparison of views as to the terms which must precede those ultimate arrangements for the peace of the world which all desire and in which the neutral nations as well as those at war are ready to play their full responsible part. If the contest must continue to proceed toward undefined ends by slow agonized stages until the one group of belligerents or the other is exhausted, if million after million of human lives must continue to be offered up until on the one side or the other there are no more to offer, if resentments must be kindled that can never cool and hatreds engendered from which there can be no recovery, hopes of peace and of the willing concert of free peoples will be

rendered vain and idle.

The life of the entire world has been profoundly affected. Every part of the great family of mankind has felt the burden and terror of this unprecedented contest of arms. No nation in the civilized world can be said in truth to stand outside its influence or to be safe against its disturbing effects. And yet the concrete objects for which it is being waged have never been definitively stated.

The leaders of the several belligerents have, as has been said, stated those objects in general terms. But, stated in general terms, they seem the same on both sides. Never yet have the authoritative spokesmen of either side avowed the precise objects which would, if attained, satisfy them and their people, that the war had been fought out. The world had been left to conjecture what definitive results, what actual exchange of guarantees, what political or territorial changes or readjustments, what stage of military success even, would bring the war to an end.

It may be that peace is nearer than we know; that the terms which the belligerents on the one side

of nations to insure peace and justice throughout the world. Before that final step can be taken, however, each deems it necessary frankly to settle the issues of the present war upon terms which will certainly safeguard the independence, the territorial integrity, and the political and commercial freedom of the nation involved.

In the steps to be taken to secure the future peace of the world the people and the government of the United States are as vitally and as directly interested as the governments now at war. Their interests, moreover, in the means to be adopted to relieve the smaller and weaker peoples of the world of the peril of wrong and violence is as quick and strong as that of any other people or government. They stand ready, and even eager, to cooperate in the accomplishment of these ends when the war is over with every interest and resource at their command. But the war must first be concluded. The terms upon which it is to be concluded they are not at liberty so suggest; but the President does feel that it is his right and his duty to point out that intimate

and on the other would deem it necessary to insist upon are not so irreconcilable as some have feared;

that an interchange of views would clear the way at least for conference and make the permanent concord of nations a hope of the immediate future, a concert of nations immediately practicable.

The President is not proposing peace; he is not even suggesting mediation. He is merely proposing that soundings be taken in order that we may learn, the neutral nations with the belligerents, how near the haven of peace may be for which all mankind longs with an intense and an increasing longing. He believes that the spirit by which he speaks and the objects which he seeks will be understood by all concerned, and he confidently hopes for a response which will bring a new life into the affairs of the world.

(Above Memorandum was handed, on December 21, 1916, by American Ambassador at Tokyo to Viscount I. Motono, Minister for Foreign Affairs.)

(中英語文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮解ナ)

千九百十六年十一月二十日 東京ニ於テ

覚書

合衆国大統領ハ現戦争ニ関シ日本帝国政府ニ対シ一ノ案件ヲ提議スルコトヲ本使ニ訓令シタリ大統領ハ最友愛ナル精神ニ基キ一ノ友人トシテ之ヲ提議スルモノナルト共ニ今ヤ

中立國ハ現戦争ニ依リ自國ノ利益ニ最重大ナル影響ヲ受ケ戰爭尚繼續ストセハ如何ニシテ最モ善ク其利益ヲ擁護シ得ルヤフ決定スベキ必要アルハ云フ俟タザル所ニシテ其ノ結果現戦争ノ迅速ナル終熄ニ対シ切ニ利害ヲ感スルモノナルカ故茲ニ其ノ一中立國ノ代表者トシテ本案ヲ提出セムトスル所以ナリ依テ日本政府ニ於テモ此ノ趣旨ヲ詔トシ篤ト

考量ヲ加ヘラシニコトヲ切望ス
茲ニ訓令ニヨリ本使ノ為サントスル発議ハ大統領カ予テ之ヲ提出セムカ為久シタ念頭ニ存シタル所ナリシガ今日ヤハ提出スルコトハ一見中歐同盟國ノ近時ノ提案ニヨリ刺擊セラシタルノ觀アルヲ以テ聊カ躊躇セザルヲ得ズ元來本案ハ實際上右講和ノ提議ト其ノ起原ニ於テ何等ノ脈絡アルニ非ズ唯之ガ為自然平和問題ヲ惹起スルニ至ルベク從テ之ト同様ノ目的ヲ有スル他ノ提案ト共ニ一併考察スルヲ便トスルモノニシテ若シ此ノ事情ナカリシニ於テハ大統領ハ中歐同

盟國ノ提案ニ対スル聯合各國ノ回答アル迄本案ノ提議ヲ延期シタリシナラム大統領ハ本案ガ恰モ他ノ時機ニ於テ提出セラシモノノ如ク看做サレ全然提議自体ノ真偽ニ就テノミ考察セラレバコトヲ望ム外ナシ大統領ハ現下ノ戦争ヲ終熄シ得ベキ条件及将来本戦乱ノ再燃又ハ同様ノ衝突ノ激發ヲ防止スルニ足ルベキ方法ニ関シ各交戦國ニ於テ其ノ意見ヲ開示シ以テ率直ニ各國ノ意見ヲ比較講究スルノ途ヲ開カソガ為メ成ルベク速ニ之ガ機会ヲ得ムコトヲ希望ス此ノ目的ノ遂行ニ当リテ執ラルベキ手段ノ如何ハ大統領ノ閑セザル所ニシテ大統領ハ双方ノ承諾ニ便ナル方法ヲ以テ本件ノ遂行セラレムコトニ努ムベク事宜ニ依リテハ之カ發議ノ労ヲ執ルモ可ナリト雖モ自ラ手段又ハ経路ヲ決定セントスルカ如キ希望ヲ有セズ其念頭ニ存スル大目的ヲ達スルコトヲ得バ方法ノ如何ヲ撰バザルナリ

從來交戦國双方ノ政事家ガ自國民及世界ニ対シ広汎ナル言辭ヲ以テ宣明シタル所ニ徵スレバ其ノ這回ノ戦争ニ於テ懷抱スル目的ハ実際ニ於テハ殆んど双方軌ヨーニスルモノノ如シ是レ大統領ガ茲ニ世人ノ注意ヲ促サムトスル所ナリ即チ双方共弱國及小國ノ権利及特權ガ将来ニ於テ侵略又ハ拒

和上其他ノ方法ノ如何ヲ擇バザルナリ

否セラレザルハ尙ホ目下交戦中ノ強大国ノ権利及特權ノ如クナラムコトヲ欲シ双方共此ノ如キ戦争ノ再発若ハ一切ノ侵略又ハ利己的干渉ニ対シ将来他ノ全テノ國家及國民ト共ニ自己ノ地位ヲ確定ニセンコトヲ希ヒ双方共現ニ増加シツツアル猜疑ノ間ニ不安定ナル勢力ノ均衡ヲ保タムカ為メ今日以上ニ競争的聯盟ノ構成セラルルヲ好マザルト同時ニ全世界ヲ通シ平和ト正義トヲ確保セムカ為列國聯盟ノ構成ヲ考慮スルニ躊躇セザルニ似タリ然レトモ其最終ノ方法ヲ講ズルニ先チ関係列國ノ独立、領土保全並政治上及商業上ノ自由ヲ真実ニ保障スル条件ノ下ニ這次戦争ノ諸問題ヲ率直ニ解決スルノ必要アルハ又双方共之ヲ認ムル所ナルベシ世界将来ノ平和ヲ確保センカ為ニ執ラルベキ方法ニ関シテハ合衆國国民及政府ハ交戦國ト同シク痛切且直接ノ利害關係ヲ有ス加之世界ノ弱少國民ラシテ不正ト暴虐トヨリ免レシメムガ為採用セラルベキ手段ガ合衆國民及政府ノ利害ニ至遠至大ノ關係アルコト他ノ國民又ハ政府ト異ルナキナリ合衆國ハ戦争終結ノ際其ノ有スル勢力ト資源トヲ尽シ右目の完成ニ協力スルノ覺悟アルノミナラス進ンテ熱心尽力ノ意志ヲモ有スルモ現下ノ急務トシテ先以テ戦争ノ終止ア

ルヲ要ス戰爭終止ノ条件ニ関シテハ合衆國ハ何等提議ノ自由ヲ有セザルモ大統領ハ戰爭ノ終結ニ對シ直接ノ利害關係ヲ有スルコトヲ指摘スルハ其權利ニシテ且義務ナルコトヲ信ズルモノナリ蓋シ此際時機ヲ失スルニ於テハ遂ニ戰後ニ横ハル更ニ重大ナル問題ノ解決ハ得テ望ムベカラズ又現今ニ於テモ尚甚忍ヒ難キ中立國民ノ現状ハ全然堪ヘ得ザルニ至ルベク殊ニ世界ノ文明モ亦到底回復ノ途ナキ致命傷ヲ受クベキヲ以テナリ

思フニ世界ノ平和ヲ目的トスル終局ノ協定ハ万人ノ等シク之ヲ翹望シ中立國民モ交戰國民モ各其ノ分ニ応シ充分ニ責任アル努力ヲ為スニ吝ナラザル所ナルベク大統領ハ前顧協定ノ成立ニ先ツベキ条件ニ關シ意見ヲ比較講究スルノ機會ヲ即刻ニ作ルベキヲ提議スルモ不当ナラズト信ズ若シ此戰亂カ一定完結ノ期ナク遲々シテ殘忍ナル行程ヲ追ヒ交戰國ノ孰レカ一方ガ疲弊復起ツ能ザルニ至ル迄繼續シ更ニ幾百万ノ人命ハ犠牲ニ供セラレテ孰レカ一方ニ於テ既ニ之ヲ補充スルノ途ナキニ至リ冷却シ能ハザルニ至ル迄憤恚ノ念ヲ煽リ回復シ能ハザルニ至ル迄憎惡ノ感情ヲ激成スルヲ要ストセバ平和ト自由國民ノ自發的協調トノ望ハ遂ニ無効無ナリ

和會議ニ至ルノ途ヲ開キ各國民ノ永久的一致ヲ近キ将来ニ期待スルヲ得セシメ且各國民ノ協調ヲ直ニ實行シ得ベキモノタラシムルナラム

大統領ハ講和ヲ提議セントスルモノニ非ズ又居中調停ヲ試ミントスルノ意図ヲ有スルモノニモ非ズ單ニ万人ノ拳テ希望シ且日ニ益々其ノ希望ノ切ナルヲ加フル平和ノ避難所ナルモノガ果シテ幾許ノ近距離ニ存スルカヲ中立諸國ガ交戰諸國ト共ニ探究スベキヲ提言セムト欲スルニ過ギザルナリ大統領ハ其ノ本問題ヲ提議セル本意並其ノ到達セントスル目的ガ苟クモ之ニ關係ヲ有スル全テノ人ニ依リ諒得セラルベキヲ確信スルモノニシテ今次ノ世界的問題ニ對シ新生命ヲ齎スヘキ答解ヲ得ルニ至ルヘキコトヲ深ク期待スルモノナリ

本野外務大臣ヨリ

一五六 十二月二十一日 在露國丸毛臨時代理大使宛（電報）

平和ノ恢復ニ關スル米國大統領ノ癡議ニ付露

國政府ノ意向探知方訓令ノ件

第七〇一号

十二月二十一日米國大使來訪米國大統領ハ講和ヲ提議シ若

六 列国ノ和平工作一件 一五六

益ニ終ルベキナリ

全世界ノ人生ハ戰爭ノ為甚大ノ影響ヲ蒙レリ人類大團体ノ各部ハ皆前例ナキ此戰爭ノ苦痛ト恐怖トヲ感シ文明世界ノ一國ニシテ真ニ其影響ノ境外ニ立チ其攪乱ノ結果ヲ蒙ラザルモノナシ而モ此戰爭ノ行ハル所以ノ具体的目的ニ至リテハ今猶確然宣明セラレタルコトナシ
各交戰國ノ指導者ハ既述ノ如ク広汎ナル言辭ヲ以テ此戰爭ノ目的ヲ言明シタルガ此等広汎ナル言明ニ於テ説明セラレタル彼等ノ目的ハ殆ト双方共同ニシテ若シ一旦成就スルノ曉ニ於テハ戰爭遂行ニ関シ彼等及其國民ヲ満足セシムルニ足ルカ如キ正確且明晰ナル戰爭ノ目的ヲ毫モ説明シ居ラザルナリ從テ如何ナル決定的結果如何ナル保障ノ實際上ノ交換将タ如何ナル政治上領土上ノ変更調節又ハ如何ナル軍事上ノ成功ノ程度ニ於テ始メテ本戰爭ノ終局ヲ告グベキヤハ全世界ノ揣摩臆測ニ委セラレタリ
惟フニ平和ハ吾人ノ予想スル以上ニ早く到来スルコトアラム交戰國双方ガ固執スルヲ要スト思惟スル条件ナルモノモ一部ノ社會ニ於テ憂慮スル如ク到底調和シ難キモノニ非ザルヤモ知ルベカラズ從テ少クトモ相互ノ意見交換ハ以テ講

クハ調停ヲ試ミントスルニハアラザレドモ世界平和ノ恢復竝ニ其確保ヲ欲スルノ至念ヨリシテ今回ノ独逸講和申出トハ全然別個ナルモ同發議アリタルニ顧ミ效ニ交戰諸國カ其戰爭ヲ終結スル条件及将来戰爭ノ再發ヲ防止スル方法ニ付意見ヲ開示シ以テ右各國ノ意見ヲ比較講究スルノ途ヲ開カムコトヲ希望ストノ趣旨ノ長文ノ覚書ヲ本国政府ノ訓令ニヨリ本大臣ニ手交セリ右覚書写ハ早便郵送スベキモ該覺書ハ交戰國竝ニ中立國駐在米国外交代表者ヨリ夫々任國政府へ提出サレ居ル由ニシキ差當リ貴官ハ任國政府又ハ米國代表者ニ就キ入手セラレタク尚右大統領ノ希望ニ對スル任國政府ノ意向ヲ探ラレ電報アリタシ

一五七 十二月二十三日 在本邦仏國大使ヨリ

件 独逸講和提議ノ公文ニ對スル回答案文送付ノ

Mr. E. L. G. Regnault, French Ambassador

at Tokyo to Viscount I. Motono,

Minister for Foreign Affairs.

一六一

Tokyo, le 23 Décembre 1916.

Je m'empresse de communiquer à Votre Excellence le projet de réponse à la Note allemande préparé par le Président du Conseil, Ministre des Affaires Etrangères de la République.

M. Briand me signale le très grand intérêt qu'il y a à ce que la réponse soit remise sans tarder, au nom des Alliés, à l'Ambassadeur des Etats-Unis à Paris, conformément à la suggestion du Gouvernement Britannique, en raison de l'état d'esprit de l'opinion américaine qui s'est toujours montrée sympathique à la France.

Il pense, et il me prie d'insister à ce propos, que les Gouvernements alliés voudront bien reconnaître l'importance de ne pas proposer de modifications de pure forme au texte qui leur est soumis, mais suggéreront seulement les changements jugés par eux indispensables. Toute modification, devant recevoir l'assentiment de chaque Puissance, aurait en effet pour résultat de retarder une réponse dont la rapidité est essentielle, afin d'éviter toute apparence de flottement dans la décision prise par Alliés. Je serai, en

stérilité toute tentative de négociation.

Les Puissances de l'Entente subissent depuis 30 mois une guerre qu'elles ont tout fait pour éviter.

Elles ont démontré par des actes leur attachement à la paix. Cet attachement est aussi ferme qu'en 1914.

Mais elles estiment qu'après l'agression allemande, courroux calculé d'une longue prémeditation matérielle et morale, après la violation des engagements les plus solennels et de toutes les lois internationales, ce n'est point sur la parole de l'Allemagne que la paix peut être fondée; car c'est l'Allemagne qui l'a rompue.

Une suggestion sans condition pour l'ouverture de négociations n'est pas une offre de paix. La précédente proposition, dépourvue de substance et de précision, mise en circulation par le Gouvernement Impérial, apparaît moins comme une offre de paix que comme une manœuvre de guerre.

Elle est basée sur la néconnaissance systématique du caractère de la lutte dans le passé, dans le présent et dans l'avenir.

(元 備)
忠國へ譲呈照議へ公文に依りて回送狀

“Les Gouvernements Alliés, unis pour la défense de la liberté des Peuples, et fidèles à l'engagement pris de ne point déposer isolément les armes, ont résolu de répondre collectivement aux prétendues propositions de paix qui leur ont été adressées de la part des Gouvernements ennemis par l'intermédiaire de plusieurs Puissances Neutres.

Avant toute réponse, les Puissances de l'Entente tiennent à s'élever hautement contre les deux bases essentielles de la Note allemande qui prétend rejeter sur les Alliés la responsabilité de la guerre, et qui proclame la victoire des Puissances centrales.

Les Alliés n'admettront jamais une affirmation doublement mensongère et qui suffirait à frapper de

Pour le passé, notamment, les Allemands ignorent les faits, les dates, les chiffres qui établissent que la guerre a été voulue, provoquée, déclarée par l'Allemagne et l'Autriche. Aucun doute ne subsiste cependant à cet égard dans aucun pays neutre.

A La Haye, c'est le délégué allemand qui avait refusé systématiquement toute proposition de désarmement.

En 1914, c'est l'Autriche-Hongrie qui a adressé à la Serbie un ultimatum sans précédent, lui a déclaré la guerre, malgré les satisfactions immédiatement obtenues.

Les Empires du Centre ont alors repoussé toutes les tentatives faites par les Alliés pour assurer à un conflit local une solution pacifique. L'offre de conférence de l'Angleterre (英) de commission internationale, la demande d'arbitrage (裁) la Russie et l'Autriche à la veille du conflit, tous ces efforts ont été laissés par l'Allemagne sans réponse ou sans suite. La Belgique a été envahie par un Empire qui avait garanti sa neutralité et qui, dans l'ivresse de la première heure, a proclamé lui-même que les traités

に戦争へ戻るには | 第1回
 étaient des "chiffons de papier" et que "nécessité n'a pas de loi".

Pour les prétendues offres de l'Allemagne, appuyées sur une "carte de guerre", qui n'exprime que l'apparence extérieure et passagère de la situation, non la force réelle des adversaires, une paix conclue en partant de ces données annulerait les efforts accomplis et les résultats obtenus par l'Entente, tant au point de vue effectif qu'au point de vue matériel depuis le début des hostilités. Elle serait à l'avantage unique des agresseurs qui, ayant cru atteindre leur but en deux mois, s'aperçoivent après deux ans, qu'ils ne l'atteindront jamais.

Pour l'avenir, les ruines causées par la déclaration de guerre allemande, les attentats innombrables commis depuis 30 mois par l'Allemagne contre les belligérants et contre les Neutres exigent des sanctions et des garanties militaires, politiques et économiques. L'Allemagne élude les unes et les autres. Mais les Puissances de l'Entente veulent rendre impossible le renouvellement d'une pareille agression : il faut que la restitution soit complète, il faut que la

réparation soit entière : il faut que les garanties soient effectives.

Pour ces raisons, les ouvertures faites par l'Allemagne, qui ne comportent aucune précision et n'en pouvaient comporter, sont jugées par les Puissances de l'Entente, non comme un effort sincère en vue de faciliter la paix durable, mais comme une ruse calculée en vue d'agir sur l'évolution de la guerre et d'imposer finalement une paix allemande.

Elle a pour but:
de troubler l'opinion publique dans les Pays alliés. Cette opinion, malgré les fatigues et les sacrifices, a déjà répondu avec une fermeté admirable et évité le piège que laisse le vide de la déclaration ennemie;
de raffermir l'opinion publique de l'Allemagne et de ses Alliés. L'effort supreme et écrasant que nos adversaires exigent de leurs peuples, si gravement éprouvés déjà, par leurs pertes de guerre, usés par le resserrement économique dont ils souffrent, explique cette tentative et lui donne tout son sens;
de tromper et même d'intimider l'opinion publique

des Pays Neutres, fixée depuis longtemps sur les responsabilités initiales, éclairée sur les responsabilités présentes et trop clairvoyante pour favoriser les desseins de l'Allemagne en abandonnant la défense des libertés humaines;

de tenter de justifier d'avance aux yeux du monde les nouveaux crimes qu'elle prépare : guerre sous-

marine, déportation, travail et enrôlements forcés de nationaux contre leur propre pays, violations de neutralités. Tel est le piège auquel les Gouvernements et les Peuples de l'Entente refusent de se laisser prendre. Certains, aujourd'hui comme hier, de travailler à rétablir la paix rompue malgré eux et contre eux, ils livrent cette manœuvre au jugement de l'humanité. C'est en pleine conscience de la gravité mais aussi des nécessités de l'heure que les Gouvernements Alliés, étroitement unis entre eux et en parfaite communion avec leurs peuples, se refusent à faire état d'une proposition sans sincérité et sans portée.

Ils affirment une fois de plus qu'odieusement attaqués, ils poursuivront la lutte jusqu'à ce que soient assurées la réparation des droits et des libertés violés,

la reprise de tous les territoires envahis, la libre existence des petites Nations dans l'équilibre organisé et garanti d'une Europe soustraite aux convoitises brutes du militarisme prussien"./.

(Pièce annexée à la lettre No. 114, du 23 décembre 1916)

Regnault

(根谷義徳) (翻 現在外務省作成・仮訳ナラ)

聯合諸国政府、人民へ皿由ヲ防護セバカニ致シテソハ田洋
島リササハ取メサルハ開約ヲ遵守スルヤヘトハナムト今次
中立國へ仲介リ由リ敵国政府ニ接頭ゼン所謂講和ノ提議
ナルヤハリ対シ故ニ共匪シテ回答スルヨリ決定セラ
本件ハ閣シテ何等ノ回答ヲ与フルリ先チ協商諸國ハ独立公
文書開示スルニケハ根本要義即チ戦争ノ責任ヲ聯合諸國リ
嫌セムベシ並中歐同國ハ戦捷ハ公職スルマヌリ故ハ
奪然蹶起シテ抗争セザルハ得ズ
斯ノ如キ而説く甚シク事實ヲ謬ニ一切商議ヲ詮ムルハ無理
ナルハ示ス所以ニシテ聯合諸國ハ如何ナル場合ニ至ルヤ
シトナラ然認セザルクハ
協商諸國ハ雖リ全力ヲ擲ケテ戰冠ノ防遏リ既クシタルハ勿

ハラス覺端遂ニ発シテ爾来三十箇月ニ及ヘリ其ノ夙ニ平和ニ眷々タルハ事實ノ証スル所ニシテ今尚ホ千九百十四年ニ於ケルト毫モ異ナルモノアラズ然レトモ独逸カ有形上及無形上共ニ多年謀計画策セル侵略主義ヲ実行シ最敵肅ナル誓約ト一切ノ國際条規ヲ壊滅シタル今日ニ在リテハ独逸ノ言質ナルモノハ以テ講和ノ基礎トナスニ足ラザルヲ感ズルニ至レリ現ニ独逸自ラ之ヲ破毀シテ憚ラザリンヲ以テ知ルヘシ

商議ノ開始ニ対シ条件ヲ明示セザル發案ハ講和ノ申込ニ非ズ独逸帝国政府ノ揚言スル提議ナルモノハ空漠且不明確ニシテ講和ノ申込ト謂ハムヨリハ寧ロ作戰計畫ノ一部ヲ成スノ觀アリ是レ実ニ既往、現在並将来ニ於ケル此ノ戰爭ノ本質ト全然背馳セルモノナリ

殊ニ之ヲ既往ノ事歴ニ徵スルニ独逸人ハ今次ノ戰役カ独墮兩國ニ於テ之ヲ企図シ挑発シ宣言セルコトヲ証明スル事實、月日及計数ヲ無視セリ之ニ関シテハ中立国ハ何レモ一点ノ疑ヲ抱クモノナシ海牙ノ平和會議ニ於テ各般ノ軍備制限案ヲ徹頭徹尾峻拒シタルモノハ独逸國委員ニ非ズヤ千九百十四年塞爾比亞ニ対シ突然未曾有ノ最後通牒ヲ發シ且其ノ求

利益ヲ齎ラスヘキノミ

独逸ノ宣戰ニヨリテ惹起センメラレタル荒廃並三十箇月以來獨逸カ交戰國及中立國ニ対シ犯セル無數ノ違反行為ニ関シテハ軍事上、政治上並經濟上ノ制裁ト保障トヲ要スヘキモノナリ而シテ独逸ハ此等ノ何レモ回避セントスト雖モ聯合諸國ハ右等侵犯ノ再ヒ起生スルヲ不可能ナラシメンコトヲ欲スルモノニシテ之力為メニハ回復ハ完全ナルヲ要スヘク補償ハ全部ニ亘ルヲ要スヘク且保障ハ有効ナルヲ要スヘキナリ

此等ノ理由ニ顧ミ聯合諸國ハ何等ノ正確ヲ具有セス又之ヲ具有シ得サルヘキ独逸ノ提議ヲ以テ恒久ノ平和ヲ促進スルノ信念ニ基キタル誠意アル努力ニ出デタルモノト之ヲ認ムル能ハザルノミナラズ却テ之ヲ以テ作戰發展ノ見地ヨリ案出セラレ独逸ノ欲スル平和ヲ終局的ニ聯合國ニ課セントスル詭計ニ出デタルモノト断定スルヲ憚ラザルナリ

右ノ詭計ハ実ニ次ノ如キ目的ヲ有ス即チ

聯合諸國ニ於ケル輿論ヲ攪乱セントスルニ在リ此ノ輿論タルヤ困憊ト犠牲ニモ拘ラズ克ク賞讃スヘキ堅実ヲ以テ既ニ之ニ対抗シ敵ノ空虚ナル宣言ニ依リテ設ケラレタル

ムル所ヲ直ニ得タルニ拘ラズ進ンテ戰ヲ宣シタルハ壞洪國ニ非ズヤ且夫レ中歐両帝國ハ聯合諸國カ地方的紛争ノ平和解決ヲ保障スルカ為メ為シタル一切ノ企図ヲ排斥シタルニ非ズヤ英國ノ唱導セル國際會議（脱）戰爭ノ事前ニ於テ露喰（脱）仲裁裁判ノ要求其ノ他一切ノ尽瘁ニ對シ独逸國ハ之ニ回答ヲ与フルコトモナク又何等効果ヲ生セシムルコトモナクシテ全然之ヲ放擲シ去リ斯クシテ白耳義ハ之カ中立ヲ担保スル一帝國ノ為メ侵犯セラルニ至レリ而カモ該帝國ハ戰爭初期ノ狂熱ニ馳ラレテ條約ハ「一片ノ反故紙」ニ過ギズ「必要ノ前ニハ法規ナシ」ト宣言シタルニ非ズヤ所謂独逸ノ講和提議ナルモノハ敵ノ真情ヨリ出デタルニ非ズシテ單ニ現状ノ皮相的且一時的ノ外形ノ外何物ヲモ表明セザル「戰爭地圖」ノミヲ基本トスルモノニシテ斯ル妄想ニ基テ締結セラレタル平和ハ畢竟戰爭開始以来実効上ニ於テモ又物質上ニ於テモ聯合國カ其ノ完成シタル努力ト其ノ収メタル効果トヲ全然徒爾ニ帰セシムルモノタラズンバアラズスル平和ハカノ二箇月ニシテ其ノ非望ヲ貫徹シ得ヘシト信ジタルニ二年後ニ於テ始メテ其ノ目的ノ到底永却ニ達シ得ラレザルコトヲ悟ルニ至リタル侵略者ニ対シテ独リ其ノ

陷穿ヲ看破セリ

独逸国及其ノ与国ノ輿論ヲ鞏固ナラシムルニ在リ吾人ノ敵カ戰爭ノ為被ムレル損害ニ依リ既ニ非常ノ苦境ニ沈淪シ且經濟的逼迫ニ依リ疲憊呻吟シツツアル彼等ノ人民ニ対シ要求スル絶大苛重ノ努力ハ以テ今回ノ企図ヲ説明スルニ足ルヘク又之ニ依テ始メテ其ノ真意ヲ了解スルヲ得ヘシ

中立国ノ輿論ヲ歎罔シ且之ヲ脅迫セントスルニ在リ然ルニ此輿論ハ既ニ久シキ以前ヨリ当初ノ責任ヲ把持シ現在ノ責任ヲ明白ニ会得シ且克ク人類自由ノ防護ヲ放擲シ依テ以テ独逸國ノ企図ヲ援助スルガ如キコトヲ敢テセサル遠慮アルモノナリ

独逸カ其ノ準備シツツアル潛航艇戦、国外放逐及本国ニ抗スル為メノ人民ノ勞役又ハ兵役ノ強制並中立国ニ対スル侵犯等ノ罪惡ヲ新ニ犯サムカ為ニ予メ世界ヲシテ之ヲ正當視セシメントスルニ在リ此ノ如キハ聯合諸國ノ政府及人民カ捉ヘラルコトヲ欲セサル陷穿ナリ彼等ハ今日モ猶昨日ノ如ク其意思ニ反シ且彼等ニ反抗シテ破ラレタル和平ノ復旧ニ努力スル確信ノ下ニ此陰謀ヲ人類ノ裁判

六 列国ノ和平工作一件 一五八 一五九

ニ委セントス

聯合國諸政府ハ、其ノ相互ノ團結鞏固ニシテ且其國民ト

完全ニ信念ヲニシ而シテ刻下ノ事態ノ重大性及其必要

トスル所ヲ充分自覺シタル上ニ於テ、中歐側ノ誠意ヲ欠

キ且漠然意義ナキ提議ヲ考量スルコトヲ茲ニ拒絶セント

スルモノナリ

彼等ハ理不尽ニ攻撃セラレタルモノナルカ故ニ其ノ蹂躪セラレタル權利及自由ノ補償、其ノ侵略セラレタル一切ノ地域ノ回復並ニ歐洲ニ於テ設定保障セラルヘキ權力均衡ノ間ニ小國ノ自由ナル存在而カモ此歐洲中ヨリ普魯西亞軍國主義ノ暴戾ナル貪婪ヲ除却スルコトノ保障セラル迄ハ戰爭ヲ続行スヘキコトヲ重ネテ茲ニ確言スルモノナリ

一五八 十二月二十三日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

平和ノ恢復及確保ニ関シ交戰諸國ニ送付セル

米國公文中ノ文言ニ關スル件

第一〇七号

二十一日公表セラレタル十八日附當國政府ノ交戰諸國政府ニ送レル講和ニ關スル公文(註)中聯合國側ニ宛テタル分ト同盟

第四七九号

十二月二十一日下院ニ於テ「ボナー、ロー」大臣ハ重不テ講和問題ニ言及頗ル凜然タル態度ヲ以テ

「今日吾人英人ノ士氣ヲ鼓舞シツツアルハ戰勝ノ虛榮心ニアラズ戰爭ハ由來英人ノ好ム所ニアラズ而モ吾人ハ漫然独逸ヲ信用シタルカタメ遂ニ事慘憺タル戰禍ニ投スルノ已ムヲ得ザルニ至リタリ人或ハ言ハシ角此際独逸ノ講和条件ヲ確カムルヲ可トスト而モ此等条件ハ果シテ白耳義中立担保條約以上ニ信用スヘキ価値アルヤ独逸ハ戰勝者ノ基礎ニテ講和提議シタルニアラズヤ独逸ハ人道ノ見地ヨリ之ノ

提議ヲナシタリト言ハシガ請フ吾人ヲシテ白耳義及海陸各方面ニ於ケル彼ガ蛮行並ニ「アルメニア」ノ虐殺ヲ記憶セシメヨ前古未曾有ノ大罪惡ニ對シ何等制裁ヲ加ヘザルノ基礎ニテハ平和ハ断シテ實現ヲ見ルヲ得ベカラズ予ヲ以テ徒ラニ敵愾心ニ驅ラレテ此ノ言ヲナスモノト思フ勿レ之レ吾人ノ確乎タル信念ニ外ナラズ英國ハ單ニ平和ノタメナラズ将来ニ於ケル平和ノ確保ヲ目的トシテ戰ヒツツアルモノナリ今回ノ如キ世界人類ノ慘劇ノ再現ヲ不可能ナラシムヘキ確乎タル事態ヲ見ルニ至ラザル限り吾人ハ無意味ノ戰争ヲ

一六八

國側ニ宛テタル分トノ間前段ノ文句ニ多少ノ相違アリ即チ聯合國側ノ分

He is somewhat embarrassed to offer ~~申説~~ been prompted by a desire to play a part in connection with the recent overtures of the Central Powers. It has in fact been in no way suggested in its origin...

.....中略 until those overtures had been independently answered but for etc.

ト記セリ尚當國政府ハ其代表者ニ訓令シテ参考ノ為メ各中立國政府ニ対シテモ右聯合國側及同盟國側宛公文等ヲ交付セシメタリ

註 前掲一五五文書附屬書
一五九 十二月二十三日 在英國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)
英國下院ニ於ケル「ボナー、ロー」大臣ノ講和反対演説報告ノ件

論調報告ノ件

第二一〇号

二十一日朝發表セラレタル講和ニ關スル大統領ノ発議ニ付重ナル朝刊新聞論調左ノ如シ

紐育「タイムス」 大統領ノ発議ハ相當理由アルモノナルモ問題ハ時機宜シキヲ得タリヤ又実効ヲ齎ラスヘキヤノ二点ニアリトシ結局右発議ハ格別ノ害ヲナサズ交戰國ヲシテ講和ニ關シ更ニ考量ヲナサンムル位ノ利益アルベシト

「サン」 発議ノ目的ハ重要ナルモ尚之レガ結果米國ガ外交ニ關シ伝來のノ態度ヲ改ムルニ至ルヘキ變化ハ一層重要視スベシト

大列国ノ和平工作一件 一六一

四〇

「クナルド」此際斯カル發議ヲナシタルハ独逸ニ直接ノ
關係アリト見做サルシト非難シ之レ恐クハ「カイゼル」
ガ「クリスマス、アレゼント」トンテ其ノ軍隊ニ約ン居レ
ル所ナルシト揶揄シ独逸ニシテ真リ平和ヲ希望セバ此ノ
發議ニ対シ率先回答シ Prussianism ラ放擲スヘキコトヲ
明カニスルヲ要スト^ハ

「メリシヨー」ハ發議ノ時機頗ル不適當ナルヲ遺憾ト
シコハ殊更ニ独逸ヲ援ケ其ノ提議ニ裏書セルモハト田ベク
ク最早ヤ真ノ平和、正当ナル平和ニ対スル米國ノ誠意ハ失
セリト極言シ

「トマリカノ」ハロヲ極メテ此ノ挙ヲ称讚シ大統領ハ單
ニ祝辞ノミナラス深厚ナル感謝ヲ受クヘキヤノトシ此ノ機
宜ノ処置ニ依リ戦争ハ終了スヘキトスニ述く
「ウエーレンド」ハ右發議ヲ全然賛成シタル後發議ノ結果
最ヤ惡シキ場合ヲ想像スルモ米國其ノ他中立國ハ戦争ノ繼
続ニ際シ各自ノ権利利益ヲ擁護スルタメ執ルヘキ方法ニ付
更ニ明確ナル觀念ヲ得ヘク而シテ此ノ發議ハ何等野心悪感
ヲ有セザル米国人多数ノ意図ヲ代表セルヤノナルコトベ^ハ誰
人モ拒ム能ハザルシト述く

les ouvertures de paix faites par l'Allemagne. Il
estime qu'il importe d'éclairer de suite les Etats-Unis
sur les intentions des Gouvernements de l'Entente.
Il propose en conséquence qu'il soit répondu au
Président Wilson par une déclaration qui, conformément à la suggestion anglaise, sera remise par le
Gouvernement Français à l'Ambassadeur des Etats-Unis à Paris.

M. Briand m'a chargé de transmettre à Votre Excellence le projet de réponse ci-après au sujet duquel il serait heureux de connaître l'avis du Gouvernement Impérial. Je n'ai pas besoin de signaler à Votre Excellence le caractère de très grande urgence de cet examen et l'intérêt considérable que le Gouvernement de la République attache à ce qu'une réponse rapide soit faite à la Note américaine.

"Les Gouvernements alliés ont reçu la Note qui leur a été remise le 19 décembre par le Gouvernement de l'Union. Ils l'ont étudiée avec l'attention que ont de la gravité de l'heure et la sincère amitié qui les attirent au peuple américain.

「ムンスニハ、ボスル」右發議ハ交戦國人民ヲシテ何ガ
為メニ戰争セルカラ反省セシメ各元首ハ遂ニ之ガ回答ヲ与
ヘサルヲ得ザルヘク講和ハ空想ニ過ギズト諦メ居タル人民
ヲシテ其ノ直ニ實現シ得ヘキモノナルコトヲ考ヘシムヘク
中立國中最大ナル米國ノ処置トシテ最モ適当リシテ各國ハ
此ノ發議ヲ無視又ハ忘却スルヲ得ザルシトセリヤ

一六一 十二月二十四日 在本邦仏國大使ヨリ
本野外務大臣宛

平和ノ恢復及確保ニ關スル米國覺書ニ依ベル

仏國政府ノ回答案送付越ノ件

Mr. E. L. G. Regnault, French Ambassador
at Tokyo to Viscount I. Motono, Minister
for Foreign Affairs.

No. 115. Très confidentiel.

Tokyo, le 24 décembre 1916.
Le Ministre des Affaires Etrangères du Gouvernement de la République considère qu'il y aurait de graves inconvenients à laisser l'opinion sans indications sur l'effet produit chez les Alliés et chez les Neutres par la note américaine qui a suivi de si près

D'une manière générale, ils tiennent à déclarer qu'ils rendent pleine justice à l'élevation des sentiments dont s'inspire la Note américaine et s'associent de tous leurs voeux au projet de créer une ligue des Nations pour assurer la Paix et la Justice à travers le Monde.

Mais cette grande heure n'a pas sonné; auparavant s'impose la nécessité de régler les fins de la présente guerre. Ayant eu à endurer eux-mêmes tous les sacrifices et les douleurs qu'entraîne à sa suite un conflit aussi terrible, ils éprouvent un désir aussi profond que le Gouvernement des Etats-Unis de voir se terminer, aussitôt que possible, la guerre dont les Empires centraux sont responsables et qui inflige à l'humanité de si cruelles souffrances. Mais ils ne croient pas, quant à eux, qu'il soit possible dès aujourd'hui de réaliser une paix qui nous assure les réparations, les restitutions et les garanties auxquelles l'agression dont nous avons été l'objet nous donne droit.

Les Alliés prennent acte, tout d'abord, de la déclaration faite que la communication américaine "n'est

associée, d'aucune manière, dans son origine, avec celle des "Puissances centrales" transmise le 18 décembre par le Gouvernement de l'Union. Ils ne doutaient pas, au surplus, de la résolution de ce Gouvernement d'éviter jusqu'à l'apparence d'un appui même moral accordé aux auteurs responsables de la guerre. Ils estiment que la Note qu'ils remettent aujourd'hui même aux Etats-Unis en réponse à la Note allemande répond à la première question posée par le Président W. Wilson, et constitue suivant ses propres expressions "une déclaration publique de leurs vues quant aux conditions auxquelles la guerre pourrait être terminée" et quant aux garanties "contre le retour ou le déchaînement d'un conflit similaire dans l'avenir".

Sur le second point traité par le Président, les Gouvernements alliés ont, au contraire, le strict devoir de formuler dans la forme la plus amicale, mais la plus nette, une expresse et énergique protestation contre l'assimilation établie entre les deux groupes de belligérants.

Le Président écrit que "les objets que les hommes d'Etat des Pays belligérants des deux côtés ont en vue

Les manifestations émouvantes qui, sur le territoire de l'Union, se sont produites en ce moment même contre les dernières violations du Droit des Gens, commises par les Allemands en Belgique, venant s'ajouter à celles dont les Français des territoires envahis ont été victimes, démontrent que cette opinion est basée sur les faits par l'immense majorité des Neutres.

En conséquence, se référant à la réponse faite par eux à la Note allemande, les Gouvernements alliés, en renouvellement la conclusion et affirment une fois de plus que les principes de Droit et de Justice énoncés par le Président, et spécialement la garantie des petites Nationalités et de la liberté, menacée par une nation qui veut organiser la production de l'Europe entière autour de son industrie et pour son industrie, ne peuvent résulter que de la manière dont la guerre se terminera, et ne trouveront de garantie durable que dans une Europe soustraite aux convoitises brutales du militarisme prussien.

Les Alliés seraient heureux à ce moment de répondre au généreux appel du Président Woodrow

dans cette guerre, sont virtuellement les mêmes, conformément aux déclarations faites en termes généraux à leurs propres peuples et au Monde". C'est à savoir "rendre les droits et priviléges des Peuples faibles aussi assurés contre les agressions ou dénis de justice dans l'avenir que les droits et priviléges des Etats grands et puissants maintenant en guerre".

Les Gouvernements alliés estiment que cette assimulation, si elle peut correspondre à des déclarations publiques, n'en est pas moins en opposition directe avec l'évidence, tant en ce qui concerne les responsabilités du passé qu'en ce qui concerne les épreuves de l'avenir, et, considérant que l'Allemagne a prouvé aussi bien par la Déclaration de guerre et la violation de la neutralité du Luxembourg et de la Belgique, le jour même de cette déclaration, que par la façon dont elle l'a conduite, son mépris systématique des principes ci-dessus énoncés, fondant leur jugement, non sur les discours, mais sur les actes, ils refusent d'accorder aucune confiance à une parole tant de fois violée.

Wilson."
Veuillez agréer, etc., etc., etc.
(Signed)

(署名証) (翻 田本外務省ニ於テ作成シタル仮証ナラ)

第11回印 (極秘)

十九西十一年十一月廿一十四日 東京ニ於テ

以書翰致陸上候陳者仏國政府ノ外務大臣ヽ独逸國ノ講和提議リ「續キ致サンタル米國ノ覺書カ聯合諸國並中立諸國ニ及ホシタル影響ニ關シ意見ヲ開陳セザルニ於テハ重大ナル不便トニシクハシテ思考シ此際直ニ米國政府ニ對シ聯合國政府ノ意図ニ明示スルヲ必要ト認メ候仍テ仏國外務大臣ヽ「カルノン」大統領ニ対シ一ノ宣言書ヲ以テ回答セムニテハ提議致候而シテ右宣言書ハ英國ノ提案ニ遵ニ仏國政府ニ在日里米國大使ニ交付セハシク候
ハリトハ此ノ閣下ニ対シト記回答案ヲ移牒セムニテハ本使
リ謂令致候而シテ右回答案ニ關シ日本帝國政府ノ意図ヲ承
知ベルハ仏国外務大臣ノ欣幸トベル所ニ有之候申進スル迄
ヤ無ク本件ノ研究ハ最モ緊急ト要スル性質ノヤノハ有之而
シト米國覺書ニ於テ相應回答ヘ取連ニ丑シハシバ仏國政府ハ

六、列國ノ和平工作一件 〔六〕

一七四

痛切ニ利益ト感スル所ニ有之候

「聯合国政府ハ十二月十九日米国政府ヨリ交付セラレタル覺書ヲ領収シタリ同政府ハ現下ノ重大ナル事態ニ関シ其ノ有スル的確ナル感情ト其ノ米国国民ニ対シテ有スル友好ノ至情ヨリシテ之カ稠密ナル研究ヲ遂ケタリ

概説スルニ聯合国政府ハ米国覺書ノ動機タル感情ノ嵩高ナルニ対シテハ全然同感ニシテ世界ヲ通シ平和ト正義ヲ確保セム為各国民ヲ挙ケテ一ノ聯盟ヲ形成スルノ案ニ対シ満腔ノ同意ヲ表スルモノコトヲ言明セムトス
然レトモ此偉大ナル時期ハ未タ到ラス之ニ先チ先ツ現下戦争ノ結末ヲ講スルノ必要アリトス吾人ハ親シクスカル恐怖スヘキ戦争ノ產出セル有ラユル犠牲ト艱苦ヲ嘗メタルヲ以テ中央帝國ノ責ヲ負フヘキ本戦争而カモスカル慘酷ナル苦痛ヲ人道ノ上ニ及ホシタル此ノ戦争ヲ出来得ル限り速ニ終了セシメム力為聯合国政府ハ米国政府ニ劣ラサル深甚ナル希望ヲ有スルモノナリ然リト雖聯合国政府ノ閔スル限り其ノ受ケタル侵迫ノ為ニ生シタル要償ノ権利復旧並保障ヲ確保スヘキ平和ヲ今日ニ於テ実現セシムルコト可能ナリト信スルモノニアラス

特權ト均シク将来ノ侵迫及正義ノ蹂躪ニ対シ確保セントスルニ在リ
聯合国政府ハ前記宣言ノ辞句ノミヨリ見レハ或ハ双方同ナリト云フヲ得ヘキモ過去ノ責任並將来ノ行為ニ関シテハ兩者嚴然正反対ニアルモノト認ム而シテ独逸国カ宣戰及宣戰ノ当日ニ於ケル「リュクサンブル」及白耳義ノ中立侵害並之カ遂行ノ方法ニヨリ上掲主義ノ組織的蔑視ヲ証シタルニ鑑ミ聯合国政府ハ言論ハ暫ク措キ之ヲ事實ニ見テ其判断ヲ構成シ以テ屢次破毀サレタル独逸国ノ約言ニ対シテハ何等ノ信ヲ措クコトヲ拒絶スルモノナリ敵ノ侵略セル仏國領土ニ於テ仏国人ノ犠牲トナリタル侵害ニ引続キ白耳義ニ於テ独逸人ノ犯シタル國際法ノ最近ノ侵害ニ対シ現ニ米国領土内ニ於テ起生セル感動スヘキ表情ハ中立国人ノ最大多数カ事實ヲ根拠トシテ上記意見ヲ抱持スルモノタルコトヲ証明スルモノナリ仍テ聯合国政府ハ独逸国ノ覺書ニ対シ為シタル回答ニ関連シ再ヒ其ノ結論ヲ繰返シ且ツ米国大統領ニヨリ指示セラレタル権利及正義ノ原則並全歐洲ノ生産ヲ特ニ自國産業ノ周囲ニ將又自國産業ノ為ニ組織セムト欲スル一團ノ為ニ脅迫セ

聯合国政府ハ先ツ第一ニ米國ノ通牒ハ十二月十八日米國政府ヨリ移牒セラレタル中央帝国ノ通牒ト其ノ因由ニ於テ何等関連スル所ナシトノ言明ヲ領承スルモノナリ將又聯合国政府ハ戦争ノ責任アル非行者ニ対シ仮令精神的ニモ支持ヲ与フルノ觀スラ之ヲ避ケムトスル米国政府ノ決意ヲ疑ハス而シテ聯合国政府ハ独逸国ノ覺書ニ対スル回答トシテ本日米国政府ニ交付スル覺書ハ「ウイ爾ソン」大統領ニヨリ提起セラレタル第一ノ問題ニ答フルモノニシテ米国覺書ノ文言ニ從ヘハ戦争終結ノ条件並将来ニ於ケル同様ノ紛争ノ再起又ハ突発ニ対スル保障ニ関スル聯合國意見ノ公示ヲ構成スルモノナリト思考ス
之ニ反シ米國大統領ニヨリ提起セラレタル第二点ニ關シテハ交戦国双方ヲ同一視シタルコトニ対シ聯合国政府ハ最モ友好ナル而カモ最モ隔意ナキ形ニ於テ是非共明白且ツ強硬ナル抗議ヲ為ササルヘカラサルナリ
米國大統領ハ交戦国双方カ其國民並ニ世界ニ對シ広汎ナル言辭ヲ以テ為シタル宣言ヨリ見レハ交戦国双方ノ政治家カ本戦争ノ目的ハ畢竟同一ナリト記述セラレタリ即チ右目的トハ弱國民ノ権利及特權ヲ現交戦諸強國ノ権利及

ラルル諸小国及自由ニ對スル保証ハ現戦争終了ノ方法如何ニヨルニアラスンハ其効果ヲ取ルコト難カルヘク又欧洲カ普魯西軍國主義ノ慘虐ナル貧虐ヨリ免カレタル上ニアラサレハ永続的保障ヲ見ルコト能ハサルヘキヲ重ネテ確言スルモノナリ

聯合国政府ハ此機ニ際シ「ウィルソン」大統領ノ懇篤ナル申出ニ対シ謝意ヲ表スルヲ欣幸トスルモノナリ
右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

一六二 十二月二十四日 在本邦仏國大使ヨリ

本野外務大臣宛

独逸ノ講和提議ノ公文ニ對スル回答ヲ在巴里
米国大使ニ寄託方ニ付日本政府ノ意向問合ノ件

No. 116.

Tokyo, le 24 Décembre, 1916.

Mr. E. L. G. Regnault, French Ambassador
at Tokyo to Viscount I. Motono,
Minister for Foreign Affairs.

Le Président du Conseil, Ministre des Affaires Etrangères de la République, me fait connaître que

les Gouvernements Russe et Italien ont donné leur adhésion à la suggestion anglaise de confier au Gouvernement Français le mandat de remettre, à l'Ambassadeur des Etats-Unis à Paris, au nom de toutes les Puissances Aliées, leur réponse à la Note de l'Allemagne.

Le Ministre des Affaires Etrangères Russe propose que ce texte soit également transmis par la Belgique à la Hollande et par l'Italie à la Suisse.

Je serais reconnaissant à Votre Excellence de m'indiquer si le Gouvernement Impérial est disposé à confier la même mission au Gouvernement Français, en ce qui touche la transmission de la réponse du Japon./.

Veuillez agréer, etc., etc., etc.

(Signed.)

(右和訳文) (註 本外務省ニ於テ作成シタル板照ナラ)

第116号

千九百十六年十一月二十四日 東京ニ於テ
以書翰啓上致候陳者露伊両國政府ハ独逸公文ニ対スル回答
ヲ聯合各國ノ名ニ於テ巴里駐劄米国大使ニ交付スルノ權ヲ

ハニアラ望ム何レノ國ニ対スルモ吾人ハ予メ其意図ヲ探リ
タルコトナク、独逸ノ平和提議又ハ「ロイド、シーリー」
ノ演説ハ米国提議開示ニ際シ毫モ考慮ニ上ホシタルコトナ
シ唯前者ノ為其ノ発送ヲ數日延引セルノミ即チ右発送ノコ
トタル去ル月曜日初メテ決定セル次第ナリ勿論大統領ハ米
国ノ提議ガ独逸ノ夫レト何等関係ナキカラ忖度セラルヘキ
ヲ虞レタル為特ニ提議文中本点ヲ否認シ置ケルナリ米国提
議ニ依リ吾人モ亦タ戦争ニ巻込マルベキ危惧アル次第ガ知
了セラルニ至ルベク又右危惧ノ存在ハ廳テ事体ノ緩和米
国権利ノ防護ヲ見ルニ至ルベク又戦争ノ終了ヲ近カラシム
ルニ貢獻スベシ大統領モ自分モ米国ノ提議ヲ Peace note
トハ見做サス右ハ單ニ交戦國ヲシテ戦争シ居ル目的ヲ闡明
セシメントスルニ外ナラズト述べタルガ更ニ午後ニ至リ文
書ヲ以テ午前ニ為シタル公表ハ或ル方面ニ於テ誤解ヲ惹起
セルヲ聞キタルカ故ニ正誤ヲ為サントス予ノ謂ハント欲セ
シ所ハ交戦國ノ平和条件ニ対シ米国ハ中立國ノ一員トシテ
痛切ナル利害関係ヲ有スルヲ示サントスルニアリテ是迄米
国ガ表示セル中立態度ニ幾分タリトモ変更ヲ加ヘントスル
趣旨ニアラズ米国提議ノ意味ハ予ノ説明ヲ俟シ迄モナク夫

仏国政府ニ委任セムトノ英國ノ意見ニ同意ヲ与ベタル且今
般仏蘭西共和国内閣議長兼外務大臣ヨリ通報ニ接シ候尚露
国外務大臣ハ右回答文ヲ同様ニ白耳義國ヨリ和蘭國ニ又伊
太利國ヨリ瑞西國ヘ夫々移牒致ストヲ提議致候就テハ帝
国政府ニ於テモ帝国ノ回答交付方ニ関シ仏国政府ニ同様ノ
権限御委任ノ義御決定相成次第御通知相煩度右申進旁本使
ハ茲リ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

一九一九年十一月二十四日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛 (電報)

講和ニ関スル米国大統領ノ癡議ニ付國務長官
ノ記者会見談報告ノ件

第111号

(十一月二十五日 接受)

十一月二十一日朝國務長官ハ新聞記者接見ニ臨ミ口頭ヲ以
テ大統領カ今回ノ提議ヲ為シタル理由ハ之ニ由リ何等米國
ニ実益ヲ齎ラサントスルニアラザルモ吾人ノ権利ハ漸次兩
交戦國ノ行動ノ為ニ影響ヲ受クルニ至リ事体increasingly
criticalトナリタルニ依ル即チ We are drawing nearer
verge of war ourselves 依テ吾人ハ今後ニ於ケル如人ノ
行動ヲ律センガ為交戦各國カ直ニ何物ヲ欲スルカラ知悉セ

ノ自体ノ文句カ示ス通りナリト公表セリ尚十一月二十一日
上院議員「ヒッチコック」ヨリ上院ハ大統領ノ平和提議ニ
賛同ヲ表スル趣旨ノ決議案ヲ提出セシガ共和黨員 Borah
即決ニ反対セシ為右決議案ハ其儘外交委員会ニ附託セラル
倫敦転

一六四 十二月二十四日 在米國佐藤大使宛 (電報)
講和ニ関スル米国大統領ノ癡議ニ付國務長官

ガ公表ヲ為シタル事情報告ノ件

第111号

(十一月二十五日 接受)

往電第一一一一號國務長官カ第一ノ如キ公表ヲ為シタル理由
ハ大統領今回ノ提議カ當國独逸同情者ヲ大ニ喜ハシメタル
ノミナラス右ハ時機宜シキヲ得ス聊カ独逸ニ乘セラレタル
嫌アリ又米國伝來政策ヲ放棄シ歐洲政局ニ干渉セントスル
モノナリトノ非難ヲ見タルニ對シ之カ弁解ヲ試ミ右提議ノ
趣旨ハ單ニ米國自身ノ利害ヲ考慮シタル結果ニ外ナラサル
ヲ明言セントシタルニ其ノ字句強キニ失シ米國ハ近キ将来
ニ於テ戦争ニ巻キ込マルヘキ危險アルヲ予言セルカ如キ形
トナリ民心ニ異常ノ響動ヲ与ヘ延テ諸株式等暴落ヲ見タル

六 列国ノ和平工作一件 一六五

一七八

為午后ニ至リ國務長官ハ特ニ大統領ト内談シ第一ノ公表ヲ為セル次第ナリ
在英大使ヘ転電セリ

一六五 十二月二十五日 在英國珍田大臣宛(ヨリ) 本野外務大臣宛(電報)

米國大統領ノ講和癡議ニ関シ「セシル」卿及
在英國仏國大使ト会談ノ件

第四八二号

往電第四八〇号ノ件ニ関シ探問ノ為メ二十二日外務大臣代理ロバート、セシル卿ヲ訪問セルニ英國政府モ本件公文ヲ接受シタル許リニテ未タ何等考慮ヲ加ヘアラザルモ之ニ対スル処置ニ付一応ノ意見定マリタル上ハ勿論直チニ聯合国政府ヘ協議ニ及フ考ナリトノコトニ付本使ハ独逸ノ提議ニ対スル回答ハ本件ノ為何等影響ヲ受クルコト無カルヘシト認メ可然ヤト尋ネタルニ同卿ハ全ク其通リナリ独逸ノ提議ニ対スル回答案ハ既ニ仏國政府ニテ立案ヲ了シ未タ自分ノ手許ニハ達セザルモ本日我外務省ヘ回附済ノ筈ナリ右案文ニ対シ関係各政府間ニ一致成立次第直チニ発送ノコトナルヘク今回米國ヨリノ公文ハ別個ノ事件ニシテ右予定ノ計

タリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

一六六

十二月二十五日

在露國丸毛臨時代理大臣宛(電報)

獨逸及米國ノ講和提議ニ対スル協商諸回国回答
案ニ閱シ露国外務次官談話ノ件

第一〇一五号

(十二月二十七日 接受)

十二月二十五日講和問題ニ関シ外務次官ノ本官ニ語リタル要領左ノ通

(一)露國政府ハ一昨日仏國政府ヨリ独逸ノ講和提議ニ対スル回答ヲ接受セリ右ハ戦争ノ由來ヲ説キタル後(イ)必要ナル賠償(ロ)占領地ノ返還(ハ)人民ノ自由(ニ)将来ノ保障ノ四者ニ満足ヲ与ヘラル迄ハ講和ノ時機未タ到ラザルモノトスルノ趣旨ヲ記載シ居リ露國政府ハ此案ヲ以テ間然スル処ナシト認ム該回答ハ仏國政府ニ於テ協商諸國ヲ代表シ「ハート」ニ依リ独逸政府ニ回答スルコトニ露仏間ノ意見一致シ居レリ(二)米國大統領ノ提議ニ関シテハ露仏兩國政府間ニ意見交換ノ結果米國ノ地位ニ対シ多少形式ニ変更ヲ加フルモ精神ニ於テハ独逸ニ対スルモノト同一ノ回答ヲ与ヘ講和ノ条件等

六 列国ノ和平工作一件 一六六 一六七 一六八

一六八 十二月二十六日 在仏國松井大臣宛(ヨリ) 本野外務大臣宛(電報)

ニハ一モ言及セザルコトニ一致セリ英國政府モ亦同一ノ意見ナリト信ス而シテ米國大統領カ列國ノ拒絶スル處トナルコト明白ナルニ拘ラズ其提議ヲ為シタル動機ニ付テハ露國政府ハ之ヲ了解シ難シ

一六七

十二月二十五日

在仏國松井大臣宛(電報)

獨塊側講和提議ニ対スル仏國政府回答案ニ関シ連合諸國ノ態度報告ノ件

第二三五号

(十二月二十六日 接受)

十二月二十五日マルジュリー氏ノ語ル所ニ拠レハ獨塊側提議ニ対スル仏國政府ノ回答ニ付英露塞政府ハ全然之ニ同意シ白伊ハ極メテ僅カノ文字上ノ修正ノ外是亦同意シ葡羅両國ヨリハ未タ回答ニ接セズト尚同回答確定ノ上ハ聯合国ノ回答トシテ当地ニテ一通丈ヲ米國大使ニ交付スルコトニ致シタキ積ナリト云ヘリ

英米露伊各大使ヘモ転電セリ往電第二三四号ト共ニ

画ニハ何等影響スル処ナカル可キハ勿論ニシテ米國ヘノ回答方ハ自然猶時日ヲ要スヘシト答ヘ尚大統領此度ノ行動ニ出デタル動機如何トノ本使ノ問ニ対シテハ動機トシテハ種々有ル可キモ独逸ハ聯合国側ノ拒絶ヲ辞柄トシ今後一層乱暴ニ潜水艇戰ヲ遂行スルニ至ラハ米國自身モ勢ヒ遂ニ戦爭ノ渦中ニ巻込マルニ至リ國內輿論ノ或ル部分ニ浸潤セル平和主義ノ思想ニモ鑑ミ国内ノ紛糾ヲ來サンコトヲ深ク怖レ何トカシテ斯カル事態ノ發生ヲ防遏セントノ念其重モナル動機ノ一タルヘシト思ハルト述ベラレタリ「セシル」卿ハ尚未余談トシテ米國公文ニ対シテハ英国内ノ輿論ハ期セズシテ一致ニ出デタリトテ暗ニ各新聞紙今朝ノ論調ニ満足ノ体ニ見受ケラレタリ同卿トノ會見ヨリ帰館後仏國大使來訪独逸ニ対スル回答案(松井大使ヘ「マルゼリ」ヨリ内示ノ文ト略ホ同シ)ヲ内示セラレ自然本件ニモ談及セルガ同大使ハ大統領今回ノ挙ヲ以テ暗ニ學究的理想家タル「ウイルソン」性格ノ致ス所ナリトテ深ク重キヲ措キ居ラザルノ口吻ヲ洩スト同時ニ米人ノ感情ノ由来頗ル機微ノ取扱ヲ要スルニ鑑ミ之ニ対スル回答ハ慎重ノ用意ヲ要ス從テ之カ回答發送迄ニハ多少ノ時日ヲ要スヘシトノ意見ヲ吐露シ居

六 列国ノ和平工作一件 一六八

米國大統領ノ講和発議ニ関シ在仏米國大使

談話ノ件

第一三七号

(十二月二十八日 接受)

十一月初米國ヨリ帰任シタル当地駐在米國大使ニ十一月二十五日頃本使会見ノ際同大使ノ談ニ独逸ハ益々潛航艇戦ヲ

強行スヘク其結果英國ハ余程困難ナル地位ニ陥ルヘシ去リトテ何時平和回復セラルヘシトモ思ハレズ依テ重ナル関係國ノ者數名相寄リ何等平和回復スルノ途ナキヤヲ討究シ時々斯ル寄合ヲ重ヌルニ於テハ終ニハ其途ヲ発見スルニ至ルコトアルベシト云ヒタルコトアリ十二月二十六日本使ハ更ニ同大使ヲ訪ヒ今回米國発議ニ付同大使帰國中何カ大統領ヨリ聞込マレタルコトアリシヤ又右発議ヲナスカラニハ両交戦國ヨリ講和条件ヲ聞キ得ル見込ニテモアリタル次第ナリヤヲ婉曲ニ尋ネタルニ身ヲ進メ声ヲ低クシ其答フル要領左ノ通

大統領ヨリハ何等談話ナカリシガ大統領ハ御互ヨリハ両交戦國ノ事情ヲ知ルノ便利ヲ有セラルニ付此際此ノ提議ヲ為スマ機宜ニ適スルモノト認メラレタルモノト信ズ例ヘバ独逸宰相カ講和提議ノ演説ヲ終リテ議会ヨリ退出シタル際

左ノ通

尚來年双方大準備ヲ整ヘ激戦ヲ為スマ果シテ決戦ヲ見ルコトヲ得ベキヤ疑ハシキコト、今回ノ発議ハ交戦國ノ容ル所トナラザレハ夫レ迄ナレトモ大統領ハ極メテ真面目ニ熱心ニ之ヲ提言セラレタル次第等ヲモ縷々附言セリ

右談話ハ全然自己ノ意見ナリヤ又ハ何程カ本国政府ノ所見

表者二談話ノ件

第一〇一九号

(十二月二十八日 接受)

露国外務大臣ハ十二月二十五日新聞代表者ヲ引見シ露西亞ノ外交政策ニ付談話シタリ氏ハ露國ノ外交政策ハ當局者ノ交迭ニ依リ変更スベキモノニアラズト冒頭シ今回ノ平和提議ニ言及シテ独逸側ノ提議ニ対スル露西亞ノ態度ハ曩ニ議會ニ於テ宣言シタル通ナリトシ又米國ノ提議ニ対シテモ独逸自ラ戰勝者トシテ我ニ対スルノ今日平和談判ヲ開始スルヲ得ズトテ大統領ノ希望ニ副フコト能ハザルノ意ヲ洩シ次ニ連合諸國トノ提携ヲ益々鞏固ニシテ戰後モ亦經濟上ノ提

携ニ依リ独逸ガ再ヒ經濟上ノ霸權ヲ執ラントスルニ備フル必要アルコトヲ述ヘ最後ニ日露關係ニ付左ノ如ク談話セリ曰ク極東ニ於ケル我國際關係ノ重ナル「ファクトル」ヘ田

六 列国ノ和平工作一件 一六九 一四〇

一八〇

群集ハ盛ニ之ヲ歓迎シタルハ同国民ニ平和ヲ希望スルノ念盛ンナルコトヲ証明シタルモノト見テ可ナル処当國ニテモ英國ニテモスル報道ハ一切之ヲ發見スルヲ得ズ自分ノ聞ク所ニ拠レハ(中歐側ガ?)何時ニテモ一般ニ平和ヲ希望シ居ルハ事実ナルガ如シ

又一方ニハ此後潛航艇戦盛ニ行ハルニ至ラバ米國ニテモ戦乱ノ渦中ニ巻込マルルノ虞ナシトセズ然シナガラ米國ハ何國トモ戦ヲ好ムモノニアラズ幸ニシテ双方講和ノ基礎ヲ發見シ得テ此上ノ慘禍ヲ免ルルコトヲ得バ此上ナキ仕合ナリ

獨逸宰相ハ既ニ業ニ平和ノ提言ヲ為シ居ルモ聯合側ニ向之ヲ為スコト難シトスレバ一種ノ國際仲裁委員會ヲ設ケ之ヲシテ双方ノ条件ヲ討究シテ何等カノ基礎ヲ發見セシムルノ途ナシトモ限ラズ

トヲ得ベキヤ疑ハシキコト、今回ノ発議ハ交戦國ノ容ル所トナラザレハ夫レ迄ナレトモ大統領ハ極メテ真面目ニ熱心ニ之ヲ提言セラレタル次第等ヲモ縷々附言セリ

右談話ハ全然自己ノ意見ナリヤ又ハ何程カ本国政府ノ所見

表者二談話ノ件

第一〇一九号

(十二月二十八日 接受)

米國大統領ノ講和発議ニ關シ瑞西國政府へノ回答振ニ付日本國政府ノ意向問合ノ件

附屬書 交戰諸國政府ニ対スル米國大統領ノ講和発議ヲ

支持スル瑞西國政府ノ公文テキス

Mr. E. L. G. Regnault, French Ambassador
at Tokyo to Viscount I. Motono,
Minister for Foreign Affairs.
(Received, December 26, 1916.)
No. 117. Très confidentiel.

Tokyo, le 26 Décembre 1916.
Monsieur le Président du Conseil, Ministre des Affaires Etrangères de la République me communique le texte de la note qui lui a été remise le 23 Décem-

一八一

bre par le Ministre de Suisse à Pari, note que Votre Excellence trouvera ci-annexée.

M. Briand estime que le gouvernement fédéral Suisse ne faisant que se référer à la note du President Wilson et à l'appuyer en termes généraux, les Puissances de l'Entente devraient se borner à y répondre par une courte note, communiquant leur note au President des Etats-Unis d'Amérique. Il suggère la même procédure en ce qui touche les notes similaires qui pourraient être adressées aux Alliés par d'autres Puissances neutres.

Je serais reconnaissant à Votre Excellence, pour répondre au désir de M. Briand, de me faire connaître si le gouvernement Impérial est d'accord avec lui pour adopter cette manière de procéder./.

Veuillez agréer, etc., etc., etc.

(Signed)

(本保証) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮証ナム)

第11七号 (極秘)
以書翰教啓上候陳者今般仏国内閣議長兼外務大臣く本月二十一日正在巴黎瑞西公使ニ交付セラシタル公文ノ本文ヲ頒報越候リ付右茲ハ及送附候

「アーヴィング氏ハ瑞西政府が単に「ハーベン」大統領ノ公文ニ觸及シ一般的語句ヲ以テ之ヲ支持スルノミナルニ鑑シ聯合諸國ハ瑞西政府ニ対シ米國大統領ノノ覚書ヲ通報シ簡単ナル公文ヲ以テ之ニ回答スルニ止ムベキモノト思考致候尚ブリアン氏ハ今後他ノ中立諸國ヨリ聯合國ニ向テ同様ナル公文提出セラルニ御コトヤ右ト同様ノ措置ニ出デムコトヲ懇意致候

就テハ右アーヴィング氏ノ希望ハ御同意ノ上帝国政府ニ於テヤ同氏ト見解ヲニシテ同様ノ措置ヲ採用セラルヤ否御回示ニ接スルヲ得バ本使ノ幸甚トスル所ニ有之候
本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

一九二六年十一月二十六日 東京ニ於テ

ルリヨ一號名

本野外務大臣閣下宛

(監属轉)

「米國大統領ノ講和発議ヲ支持スル瑞西政府
ハ〔本文トキビ〕

Le Gouvernement Suisse a adressé aux gouvernements des états belligérants la note suivante: Le président des Etats-Unis d'Amérique vient d'adresser aux

gouvernements de l'entente et aux puissances centrales une note en faveur de la paix; il a bien voulu la communiquer au conseil fédéral suisse qui, inspiré du désir ardent de voir bientôt cesser les hostilités, s'était mis en rapport avec lui, il y a déjà cinq semaines. Dans cette note le président Wilson rappelle combien il est désirable de conclure des accords internationaux en vue d'éviter d'une façon durable et sûre des catastrophes comme celle dont les peuples ont à souffrir aujourd'hui. Avant tout il insiste sur la nécessité de mettre fin à la guerre actuelle; il ne formule pas lui-même des propositions de paix; il ne propose pas non plus sa médiation; il se borne à pressentir les belligerants pour savoir si l'humanité peut espérer aujourd'hui se rapprocher d'une paix bénissante. La généreuse initiative personnelle du président Wilson ne manquera pas d'éveiller en Suisse un écho profond.

Fidèle au devoir que lui impose l'observation la plus stricte de la neutralité, liée en même temps d'amitié avec les deux groupes de puissances actuellement en guerre, isolée, au centre de l'épouvantable mêlée des peuples, gravement menacée et atteinte dans ses in-

térets moraux et matériels, la Suisse aspire à la paix, la Suisse est prête à aider de toutes ses faibles forces à mettre un terme aux souffrances de la guerre qu'elle voit passer tous les jours avec les internés, les grands blessés et les évacués. Elle est disposée, elle aussi, à jeter les fondements d'une collaboration féconde entre les peuples; c'est pourquoi le conseil fédéral suisse saisit avec joie l'occasion d'appuyer les efforts du président des Etats-Unis d'Amérique et s'estimeraît heureux de pouvoir, même dans la plus modeste mesure, travailler au rapprochement des nations en guerre et à l'établissement d'une paix durable./.

(本保証) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮証ナム)
瑞西國政府ニ於戰諸國政府ニ對シ次ノ公文ヲ提
出ヤ

「美利加合衆國大統領ハ平和促進ノ為メ聯合國及中歐諸國ノ政府ニ一ノ公文ヲ提出セラシタリ而シテ同大統領ハ右公文ヲ瑞西聯邦政府ニモ通報セラシタリ聯邦政府ハ戰鬪ヲ速カリ終熄セシムルニ付極メテ痛切ナル冀望ヲ有シ既ニ五週間前ニ區大統領ト本件ノ協議ヲ開始シテ

リ右ウイルソン大統領ノ公文中ニ現下各国民ノ苦痛ト為シ居ル斯ル災害ヲ永続且確定ナル方法ニヨリテ防避センカ為メ國際協約ヲ締結スルノ如何バカリ願ハシキロトナルカラ唱導セラレタリ而シテ同大領統ハ先以テ現戦争ヲ終局セシムルノ必要ナルコトヲ切ニ主張セラレ自ラ講和ノ提議ヲ為サズ又仲介者タルノ提議ヲ為サズシテ單ニ人道ノ上ヨリ現下友好ナル平和ヲ促進スルノ切望ガ達シ得ルヤラ知悉セムカ為メ交戦國ニ之ヲ懇フルニ止メラシタリ寛弘ナル此ノウイルソン大領統ノ個人的発議ハ甚大ナル影響ヲ瑞西国ニ齎ラスト必然ナルヘシ瑞西国ハ最モ嚴正ナル中立ノ義務ノ遵守ヲ念トシ同時ニ現ニ交戦中ナル交戦國ノ両团体トハ友好ナル関係ヲ持続シ恐怖スヘキ國民間葛藤ノ中心ニ孤立シテ其ノ有形無形ノ利益ハ為メ甚タシク脅カサン且侵サレ居ルヲ以テ今ヤ瑞西国ハ戦争ガ毎日被拘禁者、重傷者及立退者ト共ニ進ム行クヲ看ルニ付ケテモ其ノ慘禍ノ終熄ニ關シ多少ニテモ寄与ベル所アラムト欲スルモノナリ仍テ瑞西国モ亦各国民間ニ充分ナル協力ノ根基ヲ設ケマハシニ及力セマトスルニ瑞西聯邦政府カ亞米利加合衆国大領統ノ尽瘁ヲ支持スルノ

一四一 十一月二十六日 在本邦仮國大使ヨリ
本野外務大臣宛

機会ヲ満喫ノ喜悦ヲ以テ捕捉スル所以ニシテタトヘ其ノ寄与ハ大ナルヲ得ズトスルモ亦以テ交戦国民間ノ好情ト恒久ノ平和恢復トノ為メニ行動スルヲ得ハ至幸ナリトスルモノナリ」

米国大統領ノ講和発議ハ独逸ノ講和提議トハ全然無関係ナル眞回大統領ニ於ト強調シ居ル点等指摘申越ヘ生

Mr. E. L. G. Regnault, French Ambassador

at Tokyo to Viscount I. Motono,

Minister for Foreign Affairs.

(Received December 26, 1916.)

No. 118. Très confidentiel.

Tokyo, le 26 Décembre 1916.
Votre Excellence aura sans doute déjà reçu, des mains de M. l'Ambassadeur des Etats-Unis au Japon, la note que M. le Président Woodrow Wilson a fait remettre, en deux parties, les 19 et 20 Décembre, au Gouvernement de la République et dans laquelle il expose son sentiment au sujet du rétablissement de la Paix.

D'après les déclarations de M. le Président Wilson, cette note n'a aucune corrélation avec la communication, transmise par le Gouvernement fédéral le 18 Décembre sous la signature du chancelier Von Bethmann Hollweg, et par laquelle l'Allemagne et ses trois alliés proposent d'ouvrir des négociations de paix.

Le Président des Etats-Unis a tenu à déclarer à cette occasion au Gouvernement de la République que sa note émanait de sa propre initiative, qu'elle avait été conçue et rédigée avant qu'il ait eu le moindre soupçon des suggestions inattendues des Empires centraux, qu'il ne convenait pas d'associer les représentations faites par lui aux ouvertures de l'Allemagne et qu'elles ne devaient pas être interprétées comme une tentative de médiation. La note a été adressée en même temps à tous les pays belligérants. Elle a uniquement pour but d'appeler leur attention sur la situation du monde, au nom des nations neutres et de l'humanité.

Le texte complet de la note Américaine m'a été envoyé et, si Votre Excellence le désire, je m'empresse de le lui faire tenir.

J'ajoute que c'est à cette note que se réfère le projet de réponse préparé par M. Briand et que j'ai transmis à Votre Excellence le 24 Décembre sous le N° 115/.

Veuillez agréer, etc., etc., etc.

(signed.)

一四一 十一月二十六日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米国大統領ノ講和発議ハ故ハル独國側ノ如

難知ノ件

第111七號 (十一月二十八日 摺致)

米國ハ講和提議「對スル独逸側ノ回答柏林ヨリノ無線電信ニテ別電第一一八号ノ通發表セラル右回答ハ独逸政府ヨリ在独米國大使ハ交付セル趣ナリ

(房 電)

十一月二十六日在米國佐藤大使發本封外務大臣宛電報第一一八号米國大統領ノ講和発議「對シ独國側ヨリ同國宣言ノ趣旨」於小於悉ハタキ加回答ハ件

No. 218. Betsuden.

The high-minded suggestion made by the President of the United States of America, in order to create

a basis for the establishment of a lasting peace, has been received and considered by the Imperial Government in the friendly spirit which was expressed in the President's communication. The President points out that which he has at heart and leaves open the choice of road. To the Imperial Government, an immediate exchange of views seems to be the most appropriate road in order to reach the desired result.

It begs, therefore, in the sense of the declaration made on Dec. 12 which offered a hand for peace negotiations, to propose an immediate meeting of delegates of the belligerent states at a neutral place. The Imperial Government is also of the opinion that the great work of preventing future wars can be begun only after the end of the present struggle of the nations. It will, when this moment shall have come, be ready with pleasure to collaborate entirely with the United States in this exalted. (脱)

Sato

十一月二十六日 在英國珍田大使より
本野外務大臣宛(電報)
羅馬法王止ノ講和提議及仏國政府起草ノ対獨

回答案ニ対スル英國政府ノ意見ニ閱スル情報
ニ付報告ノ件

第四八九号

(十一月二十八日 接受)

瑞西政府ノ照会ニ引続キ羅馬法王序モ今二十六日同様ノ回状ヲ各交戦国ニ致シタリトノ報当地ニ達ンタリ「タイムズ」主筆ガ今二十六日極内密ニ本多ニ告クル所ニ拠レバ英國政府ハ米國大領統ベノ回答ハ鄭重ニ且篤ト推敲ヲ尽スヲ必要トスルモ独逸ノ回答ハ須ラク簡単且銳利ナルヲ可トストノ意見ニテ仏國政府起草ノ案文ヲ以テ冗長ニ失ストナシ改作方申込ノ結果石再立案方相談ノ為仏國ヨリ「リボー」ロー」ヲ隨ヘ今二十六日朝着英現ニ英國當路ト會商中ナリ尚西方戰場ニ於ケル聯合國ノ指揮権統一ノ事モ同時ニ協議ニ上ルシトノトナリ

各大使(電報セリ)

Sato

十一月二十九日 在米國佐藤大使より
本野外務大臣宛(電報)
米國大統領ノ講和差議ニ対スル
獨逸ノ回答

閔シ諸新聞記事及論説報告ノ件

第1111〇号 (十一月一十九日 接受)
往電第一一八号独逸回答ニ對シ諸新聞紙ハ記事欄ニ於テ独逸カ米國ヨリ提議セル如ク平和条件ヲ示サズ又将来ノ平和保障ニ關スル協議ヲ直ニ始ムルヲ拒絶セルニ對シ行政部方面ニ於テ不満足ノ意ヲ表シ居ル旨ヲ伝フルト共ニ十二月二十七日 Gerard 大使ハ独逸皇帝ト會見ノ筈ナルガ故ニ或ハ其際独逸ハ秘密ニ平和条件ヲ内示スルコトナキヲ保セストノ臆測ヲ下ス等大領統提議實現ニ對シ尚一縷ノ望ノルヲ附記シ居レルカ其論説欄ニ於テハ「ウォーレンド」ヘ「ロイド・シヨウジ」ノ演説ニ依リ先ツ独逸カ平和条件ヲ開示セザル限り談判開始ノ余地ナキヨト明白ナル今日斯ノ如キ回答ヲ為スく insincere ナリ又講和談判ニ中立國ノ參加ヲ拒絶セルハ米國ノ利害關係ヲ無視セルモノト云フベク兎ニ角今回ノ回答ニ依リ前回ノ独逸ノ平和提議ハ毫モ誠意ナク單ニ中立國人民ニ媚ビ独逸民心ヲ欺罔セントスル策略ナリシヲ暴露セリ米國タルモノ最早平和問題ヨリ手ヲ引キ只管自國ノ利益防護ニ努力スヘキノミトシ其他紐育「タイムズ」「ムラムラーハ」「サン」及當地「ペースト」モ均シク独逸ノ回答ヲ誠意ナキヤノトハ泡「ムラムラーハ」ハ独逸ハ

平和會議開催ニ對シ米國ノ助力ヲ得ソカ為メ潛水艇戦再開ノ虛喝ヲ試ミントスル覺悟ナルカト攻撃シタル後モノローオ主義ノ關係上大領統ハ速ニ平和提議ヲ撤回スヘシト論セリ

一七五 十二月二十七日 在英國珍田大使より
本野外務大臣宛(電報)
羅馬法王ハ講和促進ノ為西班牙皇帝ヲ動カサ
ハトシタリトノ情報ニ付報告ノ件

第四九〇号

(十一月二十九日 接受)

往電第四八九号前段ノ消息ニ関連シ予テ「ヴァチカン」政 府ト一種ノ接触ヲ有スル有力ノ一波蘭人ガ二十七日内密ニ本多ニ來話スル所ニ依レバ羅馬法王ハ講和促進ノ為此ノ種ノ行動ヲ執ルノ内意ヲ予テ有シ居ラルハ事實ナルト同時ニ法王ノ考ハ米國ノ驥尾ニ附スルヲ好マズ加特力教首長トシテ米國政府ニハ關係ナク別ニ為ス所アラムトシ是カ為最近西班牙皇帝ニ内議シ居ラレタリト信ズベキ理由アリ從テ昨日當地ニ伝ハリタル報道ノ如キ措置ハ仮ニ未タ事實ニアラズトスルモ近ク之ガ實現ヲ見ルニ至ルヘシトノコトナリシガ同人來訪後タイムズ主筆カモ朝確メタル結果トシテ羅馬法王ハ西班牙皇帝ラシテ各交戦国ニ講和勸告ノ措置ニ出

六列國ノ和平工作二件一七六—一七七

デシムベク内々勧誘シ皇帝モ一旦其氣ニ成ラレタル折柄獨

テジムヘク内々密談シ皇帝モ一旦其気ニ成テレタル折柄猶
逸側ニ観戦中ナリシ二名ノ西班牙将校最近帰國シ独逸ニ於
テ経済上及国民生活状態ノ非常ニ慘憺タル有様ニ陥リ居リ
タルコトヲ報告シタル為皇帝ハ右様ノ場合協商側ニ於テ到

瑞典政府ハ平和克復ニ闋シ數日前ヨリ西班牙、和蘭、丁抹、
諸威諸国政府ニ交渉セル由ナルカ一両日中丁、諸兩国政府
ト協議シテ交戦国政府ニ対シ速ニ講和成立ノ希望ヲ述フル
答ナリ

一七七

在藤國落合公使
本野外務大臣宛
(電報)

有力家ハ「ヴァチカン」筋ノ消息トシテ 壱国新皇帝ハ法王ニ対シ最モ敬虔從順ノ人ナルカ 今回即位後間モナク法王ヨ

ヲ抱クモノ

ヲ抱クモノナル旨ノ電報ヲ日本政府ニ伝達方

リ是非速ニ平和ノ回復ニ努ムヘキ旨痛切ニ勧告シタルコトアリ今次独逸ノ提議ハ一ハ墺国ノ要請ニ動カサレタルモノ

第九四号

(十二月三十日 接受)

ナリト語リ居タリ（右独逸提議ハ壇洪國外務大臣ノ出デタルモノナリトハ獨逸提議發表ノ翌日洪牙利首ザ」伯ガ同國議会ニ於ケル演説中公言セル処ナリ）

C'est avec le plus vif intérêt que le gouvernement du roi a appris les propositions que vient de

一七六 十二月二十八日
在瑞典国内田公使（ヨリ）
本野外務大臣宛（電報）

faire le président des Etats-Unis en vue de faciliter des mesures tendant à l'établissement d'une paix durable. Tout ce qu'il peut faire pour aider

瑞典國政府他ノ中立國シ講和方申込予定ノ件

toute entière si n'exprimait pas sa sympathie la plus profonde pour tous les efforts qui pourraient contribuer à mettre un terme à l'accumulation progressive des souffrances et des pertes morales et matérielles. Il s'adonne à l'espoir que l'initiative du président Wilson aboutira à un résultat digne de l'esprit élevé dont il s'est inspiré.

一七九
十二月二十九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

米国大統領ノ講和発議ニ関スル真相及独國ノ

講和条件二付米紙報道ノ件

二
号

現政府ノ御用新聞ヲ以テ目サレ居ル紐育「ウォールド」

七八 十二月二十九日 在瑞典国内田公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)
瑞典国政府ハ米国大統領ノ講和癡議ノ成果ヲ
見ルベキ様希望スル旨日本政府ニ伝達方依頼

ヲ発表シ独逸ガ「サセックス」号撃沈事件ニ関シ米国ニ与
ヘタル保障ヲ無視シ輓近潜航艇戦ニ依リ米国人ノ生命財産
ニ危害ヲ与ヘタル事例頻発セルニ鑑ミ米国政府ハ大ニ意ヲ

第一三四号
(十二月三十一日接受)

國全体ニ送テントシヅツアリタルカソノ内情駆米独逸大使

ト信シ米国大領統ノ崇高ナル發意力成果アランコトヲ希望
スル旨帝国政府ニ伝達セムコトヲ本使ニ依頼セリ其本文ハ
在日本諸威代理公使ヨリ帝国政府ニ提出スル通報ト同文ナ

モノナリ云々ト報道セリ

六 列国ノ和平工作一件 一八〇

一九〇

右ハ本使カ先日來当地駐在英仏大使其他ノ筋ヨリ聞込ミタ

ルト略ホ一致セルヲ以テ事実ヲ誤ラザルモノト認メラル尚

独逸ノ回答ハ往電第二一八号ノ通素氣ナキモノナルモ細育
ウォーレンドガ報スル所ニ拠レバ駐米独逸大使ハ既ニ独逸ノ
講和基礎条件ヲ入手シ居リ右ハ大体左ノ通リナリト

一、白耳義ノ地理的及經濟的恢復（即チ損害賠償ヲ含ム）、
是ト共ニ白耳義侵略ハ違法ナリシモ軍事上絶対ノ必要ニ
出デタルコトヲ容認センムルコト

一、仏國占領地域全部撤退

一、露國占領地域ノ撤兵（尚反対強烈ナル場合ニハ波蘭及
リスニア帝国建立ニ関スル主張ヲ棄棄ス）

以上ハ独逸ノ讓歩スヘキ限度ニシテ之ニ代リ独逸側ハ左ノ
二条件ヲ要求ス

一、独逸同盟国ハ戦争前ニ領有セン總テヲ保留スルコト
一、独逸殖民地ヲ恢復スルコト

在英大使ヘ転電セリ

一八〇 十一月三十日 在本邦諸國代理公使会談
米國大統領ノ講和発議ガ効果ヲ取メハムト

（附屬書）

十一月三十日附在本邦諸國代理公使ヨリ本邦外務大臣宛書翰

Mr. B. D'Anker, Norwegian Charge
d'Affaires at Tokyo to Viscount
I. Motono, Minister for Foreign Affairs.

Tokyo, le 30 décembre 1916.

D'ordre de mon Gouvernement j'ai l'honneur de
porter à la connaissance de Votre Excellence ce qui
suit:

“C'est avec le plus vif intérêt que le Gouvernement norvégien a appris les propositions que vient de faire le Président des Etats-Unis en vue de faciliter des mesures tendant à l'établissement d'une paix durable. Tout en restant désireux d'éviter toute immersion qui pourrait froisser des sentiments légitimes, le Gouvernement norvégien penserait manquer à ses devoirs envers son propre peuple et envers l'humanité toute entière s'il n'exprimait pas sa sympathie la plus profonde pour tous les efforts qui pourraient contribuer à mettre un terme à l'accumulation progressive des souffrances et des pertes morales et matérielles. Il s'adonne à l'espoir que l'initiative du Président Wilson aboutira à un résultat digne de l'esprit élevé dont il s'est inspiré.”

Je profite, etc., etc., etc.

(Signed)

（備考 不明ノ個所へ落合公使來電第九四号ニ依リ訂正セリ）

一九一 列国ノ和平工作一件 一八一

希望スル旨申出ノ件

附屬書 十二月三十日附在本邦諸國代理公使ヨリ本邦外務大臣宛書翰

十二月三十日諸國代理公使來省本日本國政府ヨリ一ノ電訓

ニ接シタル處其ノ中字句不明ノ個所アリ且下問合中ナルモ

大体ノ意義ハ明瞭ナルニ付不取敢其儘提示スル趣ヲ以テ別
紙公文ヲ手交セリ

尚本件通牒ハ他ノ中立國トモ何等協議ノ結果ナリヤトノ問
ニ対シ同代理公使ハ右電訓ノ末尾ニ瑞典丁抹兩國政府モ同
意ナリト附記シアルニ微スレバ本件ハ諾、瑞、丁三国協議
ノ結果ト思考ス蓋シ予テ「スカンディナヴィア」ノ三國ハ
相互同意ノ上ニ非ザレバ平和問題ニ干与セザル旨ノ約束ア
ルヲ以テ单独ニ此ノ提言ヲ為ストヲ得ザル次第ナリト答
ヘタリ

尚本件通牒ハ他ノ中立國トモ何等協議ノ結果ナリヤトノ問
ニ対シ同代理公使ハ右電訓ノ末尾ニ瑞典丁抹兩國政府モ同
意ナリト附記シアルニ微スレバ本件ハ諾、瑞、丁三国協議
ノ結果ト思考ス蓋シ予テ「スカンディナヴィア」ノ三國ハ
相互同意ノ上ニ非ザレバ平和問題ニ干与セザル旨ノ約束ア
ルヲ以テ单独ニ此ノ提言ヲ為ストヲ得ザル次第ナリト答
ヘタリ

尚本件通牒ハ他ノ中立國トモ何等協議ノ結果ナリヤトノ問
ニ対シ同代理公使ハ右電訓ノ末尾ニ瑞典丁抹兩國政府モ同
意ナリト附記シアルニ微スレバ本件ハ諾、瑞、丁三国協議
ノ結果ト思考ス蓋シ予テ「スカンディナヴィア」ノ三國ハ
相互同意ノ上ニ非ザレバ平和問題ニ干与セザル旨ノ約束ア
ルヲ以テ单独ニ此ノ提言ヲ為ストヲ得ザル次第ナリト答
ヘタリ

以書翰致啓上候陳者本国政府ノ訓令ニ基キ左記ノ通り閣下
ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

「恒久平和ノ確立ニ資スヘキ方法ヲ容易ニスルカ為メ為
サントタル米國大領統ノ発議ハ諸國政府ニ於テ深甚ナル
利害ノ關係アルモノトシテ之ヲ迎フルモノナリ諸國政
府ハ正当ナル感情ヲ阻却スルガ如キ一切ノ介入ヲ回避セ
ムコトヲ衷心冀望スルモノナリト雖モ有形無形ノ苦痛及
損害ノ漸時增大ニ赴カントスルニ拘り之ヲ終熄セシメム
トル一切ノ協力ニ向テ痛切ナル同情ヲ表スルニ非ザレ
バ其ノ國民並人道ノ全班ニ對シ諸國政府ノ負フ所ノ義
務ニ欠如スルモノアルベシト思考スルモノナリ同政府ハ
「マルソン」大領統ノ発議ガ其ノ包有スル崇高ナル意
義ニ相應シタル効果ヲ收ムルニ至ラムコトヲ切実ニ冀望
スルモノナリ」

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

一八一 十一月三十日在本邦松井大使ヨリ
本邦外務大臣宛（電報）

米國政府ノ講和発議ニ關シ「マルジュリー」

出談語ノ件

一九一

第二四二号

米国ノ講和提議ニ関シ十二月三十日マルジュリー氏ハ本使ノ問ニ對シ「スカンディナヴィヤ」三國政府カ米国ノ提議ヲ支持シタルハ米国ニ對スル好誼ト国内ニ對シ和平ノ提議ヲ支持シタルコトヲ示スヲ利益ナリト認メタルニ因ルモノノ如ク瑞典公使カ其公文ヲ同氏ニ交付スルニ際シテモ特ニ説明ヲ加ヘタルコトモナク余り重キヲ措カザリシ様子ナリ

西班牙ハ米国ノ提議ヲ支持スルモ成効ノ見込ナク後日ノ障リトナランコトヲ氣遣ヒ同一ノ歩調ヲ取ラザルコトニ決定シタリ法王庁モ何等ノ措置ヲ執ラズト云ヒ次ニ米国政府ノ

覚書ニ對スル回答案ハ更ニ修正ヲ加ヘタリ是ハ倫敦ニ於テ英仏両国大使等ノ會見ノ結果ト英文ニ翻訳ノ都合モアリタルコトナリトテ其修正案ヲ本使ニ示シタリ其本文ハ既ニ閣下ニ交付済ノコトト存ズル處聯合国ノ希望ニ関シ大分具体的ニ希望シアリタルニ依リ是ハ各國政府ニ於テ彼是意見アルベシト述ベタルニ独逸カ何等向後ノ目的ニ關シ言及セザルニ反シ聯合側ニテ幾分之ヲ具体的ニ示スハ確カニ利益ナルヘキモ他方ニハ各國政府ニテモ種々注文アルベク例ヘバ日本政府ニテモ膠州灣等ニ關シ意見モアルベク何レニシテ

丁抹瑞典諾威各國政府ヨリ米国大統領ノ講和

発議ニ贊意表明越ノ件

第七一一号（露宛）

第一三一号（米宛）

第五六九号（中宛）

十二月二十九日丁抹国政府ヨリ在和蘭落合公使ヘ又同日瑞典国政府ヨリ在同国内田公使ヘ又十二月三十日在本邦諾威

代理公使ヨリ本大臣ヘ何レモ左ノ意味ノ講和冀望ニ関スル申出ヲ為シタリ

「米国大領統ノ發議ハ當國政府ニ於テ深甚ナル利害ノ關係

アルモノトシテ迎ヘラレタリ固ヨリ交戰國ノ正当ナル感情ヲ害スルガ如キ干預ハ之ヲ避ケザル可ラザルモ自國ニ對スル苦痛ト損害ノ漸ク拡大セントスル今日戰爭ヲ終熄セシム

ル一切ノ協力ニ同情ヲ表スルハ國民ノ為メ將又人道ノ為其ノ責務ナリト信ス從テ當國政府ハ米国大領統ノ發議ガ良好ナル効果ヲ齎サムコトヲ切望スルモノナリ」

尚諸威國代理公使ハ右提言ハ丁抹、瑞典モ同意ナル旨本国政府ヨリ電報アリタル趣附言シタリ右御参考迄

○露宛ニハ「在歐洲大公使（瑞典ヲ除ク）ヘ転電アリタ

モ是等条件ハ戰爭ノ勝具合如何ニ依リ異同アルヘキニ付今ヨリ開示スルハ如何アルベキカ此点ニ付テハ何レモ一利一害アリテ自分丈ニテハ今ニ於テ確タル意見モナン何レニンテモ各國政府ノ思惑ヲ承知シタル上ノコトナリト云ヘリ

在歐米各大使ヘ電報セリ

一八二 十二月三十一日

本野外務大臣
在本邦仏國大使宛

米国大統領ノ講和發議ニ關シ瑞西國政府ヘノ

回答振ニ付日本國政府ノ意向回答ノ件

公政機密送第一二八号

以書翰致啓上候陳者瑞西聯邦政府ノ講和問題ニ關スル公文ヘノ回答振ニ關シ本月二十六日附第一一七号貴翰ヲ以テ御來示ノ趣致敬承候右ハ御來旨ノ通ニテ何等異存無之將又向後右ニ類似ノ場合ニ於テモ同様措置方は亦異存無之候条右御承知相成度此段回答申進旁本大臣ハ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

一八三 十二月三十一日

本野外務大臣ヨリ在露國丸毛臨時代理大使在米國佐藤大使及在中國林公使各宛（電報）